



地域連携研究推進センター報2022



校長あいさつ

～沖縄高専の五本の矢～

沖縄工業高等専門学校

校長 佐藤 貴哉



令和4年4月に5代目の学校長として着任しました。これまで約20年間に亘り高専教員として勤務して来ました。沖縄高専に来て一番驚いたのは、学生の皆さんが、コンテストや1年生からの研究活動である創造研究に熱心に取り組んでいるということでした。沖縄高専の学生は、ロボコン、プロコン、ディープラーニング(D)コンテスト、最近ではGーコン (GIRLS SDGs×Technology Contest) など、非常に多岐、多分野にわたる技術コンテストに果敢に挑戦し、優れた成果を上げています。豊かでしなやかな学生の発想力を実際のモノ造り、コト造りにまで高めて、社会実装につなげていく研究力と開発力が沖縄高専の教職員の強みでもあります。沖縄高専の技術力と開発力を集中し、高専技術を社会に役立てるために地域連携研究推進センターが組織されています。この小冊子には、同センターの技術のすべてが集約されています。沖縄高専と連携した研究や開発の手掛かりを見つけるツールとして是非お役に立ていただきたいと思います。

沖縄高専の教育研究には、(1) 航空技術者育成プログラム、(2) 全学生への ICT, IOT 基礎教育、(3) バイオインフォマティクス という三つの強みがありました。今年 2023 年は沖縄高専創立20周年の記念の年になりますので、(4) 観光・地域共生デザインコース、(5) 多文化共生・国際展開高専 の二つを加え、沖縄高専の強みと特徴を社会にアピールしていくことにしています。毛利元就の三本の矢を超える5本の矢の強靱さと基より沖縄高専が携えている ICT や AI の技術力を観光や地域の産業と連携させ、沖縄の産業に革新を起こすことが出来るビジネスクリエティブなエンジニアの育成を行います。また、沖縄の地の利を活かしたグローバルエンジニアの育成にもアクセルを踏み込みます。技術で沖縄と世界を繋ぐ地域連携研究推進センターのこれから10年に期待いただき、地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

沖縄高専の強み

沖縄高専の魅力・特色 学科横断教育の拡充

Started
in 2015

航空技術者プログラム

Started
in 2018

ICT・IoT教育 DX人材育成

Started
in 2019

バイオインフォマティクス

Started
in 2023

観光・地域共生デザインコース

Started
in 2023

多文化共生・国際展開高専



センター長あいさつ

～「地域連携研究推進センター報 2022」の発刊にあたって～

沖縄工業高等専門学校
地域連携研究推進センター
センター長 武村 史朗



「地域連携研究推進センター報 2022」発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

2019 年新型コロナウイルスの最初の症例が中国で確認されて以降、多くの国や地域で感染の抑制を目的とした渡航制限や外出制限等が実施されました。これらの制限により、オンライン（遠隔）でのコミュニケーションが主となり、人と人の顔を突き合わせた実空間でのコミュニケーションが少なくなりました。改めて、人と人が実際に会って話す重要性について再認識された方が多いかと存じます。一方で、オンライン会議やイベントの開催などが普及し、時間や費用を大幅に節約できるなどのメリットがあるのも実感しています。

地域連携研究推進センターでは、コロナ禍においても、地域発展への貢献を目標に、感染症拡大防止対策を実施しながら、対面とオンラインの両方により活動を実施して参りました。行動制限の緩和になりつつある現在、徐々に「連携」を活性化すべく、引き続き工夫しながら活動を実施して参りたいと考えております。

本センターは、本校における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域課題の解決支援に資することを目的としております。また、その業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」及び「知的財産部門」では、より機動的に活動を行っております。

年間事業としては、沖縄高専フォーラム・情報交換会や、月 1 回行っている定期技術相談会、随時の技術相談、共同研究、受託研究、沖縄の産業まつりへの出展、公開講座、知的財産セミナー等を実施しております。

本センター報では、このような取組に加えて、沖縄高専産学連携協力会会員 企業をはじめとした地域企業および地域社会の皆様と本校とのさらなる連携・協力活動の架け橋となるように特色ある研究活動や利用可能な研究設備、センターの活動実績や相談可能な技術など「お役に立てる技術」を記載いたしました。技術相談をはじめ共同研究、受託研究など随時受け付けておりますので、各教員・技術職員あるいは地域連携研究推進センターにお問い合わせください。

「沖縄高専地域連携研究推進センター報 2022」をぜひともご活用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

目 次

校長あいさつ ～沖縄高専の五本の矢～

センター長あいさつ ～「地域連携研究推進センター報 2022」の発刊にあたって～

研究者紹介

機械システム工学科	1
情報通信システム工学科	11
メディア情報工学科	20
生物資源工学科	30
総合科学科	41
技術支援室	57
研究者業績リンク集	65

研究実績紹介

共同研究	69
受託研究	82
研究助成金	84
科学研究費助成事業	86

共同研究等について

共同研究 ・ 受託研究 ・ 寄附金 ・ 受託試験 ・ 技術相談	89
外部資金・技術相談受入状況	90

地域連携研究推進センター 事業報告	91
-------------------	----

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会について	95
-----------------------	----

研究者紹介

研究実績紹介

共同研究等について

地域連携研究推進センター
事業報告

産学連携協力会について



研究者紹介

研究タイトル:

安全安心な社会実現のためのロボット技術の活用



氏名: 武村 史朗 / TAKEMURA Fumiaki E-mail: takemura@okinawa-ct.ac.jp
職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本ロボット学会, 日本機械学会, 計測自動制御学会, IEEE

キーワード: 水中ロボット, フィールドロボティクス

技術相談
提供可能技術: ・フィールドで扱うロボットの開発
・水中ロボットに関すること
・ロボティクス, メカトロニクス

研究内容: 環境保全を目的とした水中ロボットの開発

サンゴ礁は、漁場の提供、国土の形成・保持、観光やレクリエーションの創出、津波の緩和など、重要な価値を有しています。いずれも健全なサンゴ礁生態系が維持されてはじめて実現するものです。近年、サンゴ礁は様々な要因によって世界的に衰退傾向にあり、特に人口密集地近くで深刻です。そして、世界中の 58%ものサンゴ礁が過度の衰退か、あるいは危機に直面していると推定されています。サンゴ被度減少の原因は、高水温による白化現象、赤土の流出、水質の悪化、オニヒトデの大発生等様々な影響があります。そのため、計測・観測・採取など、複数のタスクに柔軟に対応可能な作業支援のニーズがあります。

そこで、我々は沖縄近海の環境保全を目的としたロボット技術の活用を行っています。2014年に遠隔操作による海中でオニヒトデへの酢酸注射できる水中ロボットを実現しています。近年、船でグライダー型水中ロボットを曳航して、5台の小型カメラを搭載したカメラシステムにより海底5~10mの3次元地図作成を試みています(図1)。図2のような海底3次元地図を作成することができ、海中環境の情報収集の高速広域化の実証実験をしています。ロボティクス技術を活用することにより、人手で行うことで生じる肉体的負担・安全性に係わる部分の軽減・低減を試み、海洋のSDGsに貢献する研究開発を行っています。

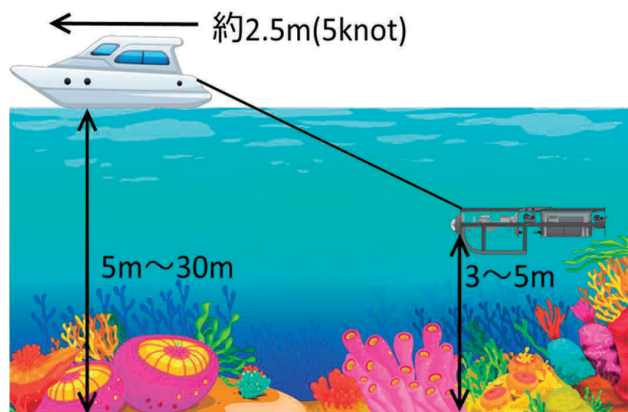


図1 曳航型水中ロボットを使った調査法

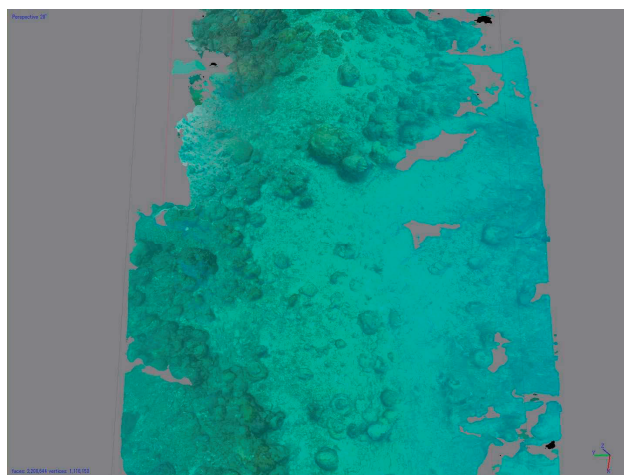


図2 瀬底島近海の海底3D地図

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

金属結晶材料の微視的内部構造解析

氏名： 比嘉 吉一 / HIGA Yoshikazu E-mail: y.higa@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会, 日本材料学会

キーワード： SEM/EBSD, AFM, ナノインデンテーション, 可視化

技術相談

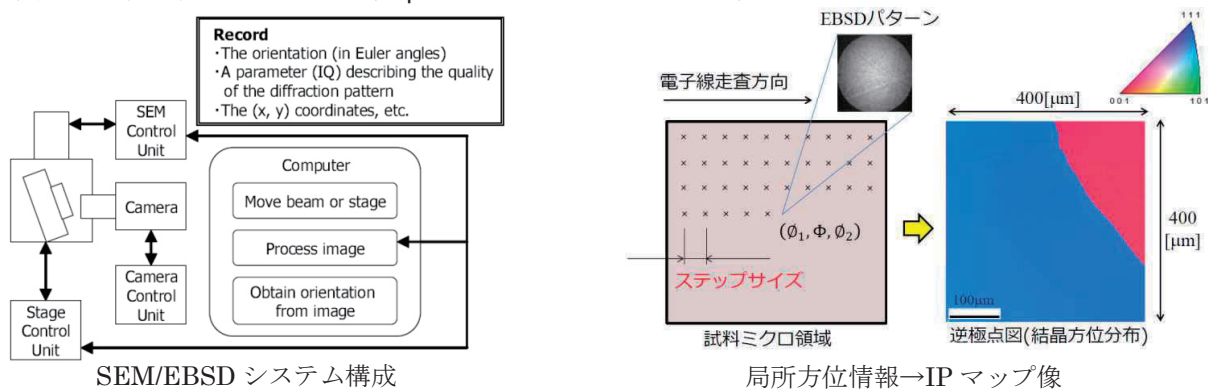
提供可能技術：

- ・SEM/EBSD 法による結晶方位マッピング
- ・AFM(原子間力顕微鏡), ナノインデンテーション試験による材料特性評価
- ・μCT による内部構造観察と3D 構造評価

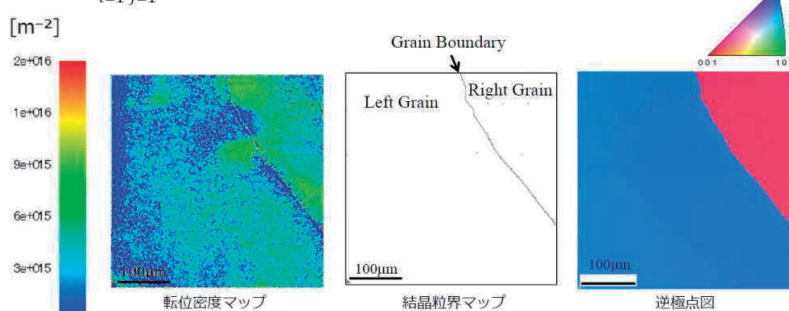


研究内容： 金属結晶内部の格子欠陥場の観察と3次元可視化に関する研究

機械構造設計・材料設計指針に必要な不可欠なデータである金属結晶材料内部の非弾性局所変形場に対して、変形の素過程である転位 (dislocation) とそれが作る巨大な集団構造について『三次元欠陥構造体』として可視化する実験手法ならびにその方法論の確立を目指す。これを、使用する装置機器類・検出原理ならびにその方法論から『SEM/EBSD-CT 法』と名付け、得られた『三次元欠陥構造体』情報を新規材料設計あるいは製造技術開発に貢献しようとするものである (<http://onctmcsml.web.fc2.com/>)。



$$\rho = \frac{1}{|b|} \sum_{i=1}^3 \sum_{j=1}^3 |\alpha_{ij}| \Rightarrow \rho^* = \frac{1}{|b|} (|\alpha_{12}| + |\alpha_{13}| + |\alpha_{21}| + |\alpha_{23}| + |\alpha_{33}|)$$



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

SEM/EBSD(TSL ソリューションズ)

原子間力顕微鏡 XE-100(パーク・システムズ)

ナノインデンテーション(Hysitron)

研究タイトル:

マイクロフィン管内蒸発に関する理論解析

氏名: 眞喜志 治 / MAKISHI Osamu E-mail: omakis@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本機械学会, 日本伝熱学会, 日本冷凍空調学会

キーワード: 相変化熱伝達, 伝熱促進

技術相談

提供可能技術:

- ・熱交換器の設計
- ・熱流動解析



研究内容:

螺旋溝付きマイクロフィン管は高性能蒸発管として冷凍空調機に広く使用されており, 伝熱性能および圧力降下に及ぼすフィン寸法・形状の影響について多数の研究がなされている. また伝熱性能に関して, 平滑管に関する経験式を拡張した形の経験式が多くの研究者によって提案されている. これまでに, 図1に示すような薄液膜が支配的な管上半部に関しては, 厳密な境界条件を用いた数値解析を, 管下半部の成層液膜からの熱伝達に関しては上記経験式を適用し, 気液界面形状に及ぼす表面張力の影響を考慮した水平マイクロフィン管内蒸発の成層流モデルを提案した. そして, 理論モデルによる熱伝達率の予測値と4種類の管, 3種類の冷媒に関する実験値を比較し, 低質量流束域において両者は良好に一致することを示した. また, マイクロフィン管内の液単相流に関する熱伝達の経験式を管内蒸発流の場合に拡張した環状流モデルを提案し, 上述の成層流モデルと組み合わせることにより, 4種類の管, 3種類の冷媒に関する実験値とかなり良く一致することを示した. しかし, このモデルでは核沸騰の寄与についての検討がなされておらず, 高熱流束域のデータとの一致が十分でなかったため, マイクロフィン管内蒸発における核沸騰成分の表示式を検討し, これを組み込んだ成層流モデルと環状流モデルを提案した. 両モデルによる周平均熱伝達率を, 流動様式を考慮して重み付き平均することにより, 従来の実験値と良好な一致が得られた.

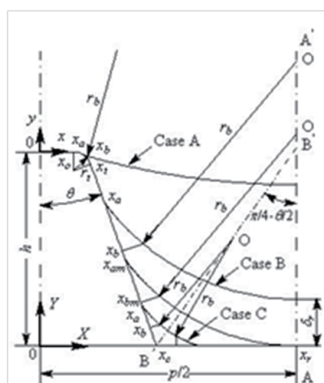


図1 物理モデル

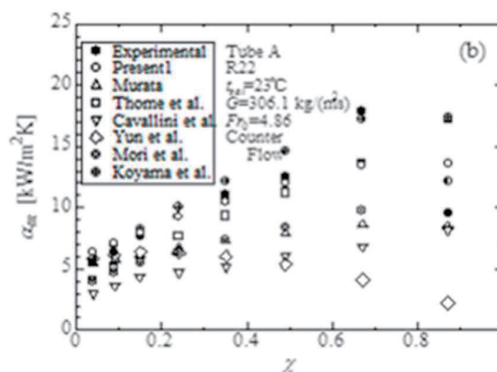


図2 実験値と予測値の比較例

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
赤外線サーモグラフィ・TVS-8500(日本アビオニクス)	
熱物性測定装置・TPS2500(京都電子工業)	
表面張力計・DY-700(協和界面科学)	

研究タイトル：

金属材料の表面改質に関する基礎的研究

氏名：眞喜志隆 / MAKISHI Takashi E-mail: tmakishi@okinawa-ct.ac.jp

職名：教授 学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本機械学会・日本熱処理技術協会・表面技術協会

キーワード：表面改質、熱処理、材料強度、特別支援教育

技術相談

提供可能技術：

- ・プラズマ窒化した金属材料の機械的性質
- ・電子顕微鏡での観察、元素分析
- ・特別支援学校授業教材の開発と改良



研究内容：

①プラズマ窒化を中心とした金属材料の表面改質、機械的性質の変化、耐食性について研究を行っている。窒化物生成元素を添加し、合金化した材料について窒化処理を行い、硬化機構について検討を行っている。また、窒化処理後の疲労強度の変化および耐食性の変化の評価も行っている。

②新しいテーマとして、特別支援学校での学習教材の開発も行っている。

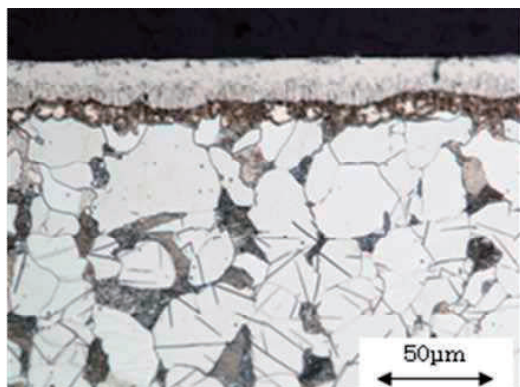


図 窒化層断面組織例(窒化温度 610°C)

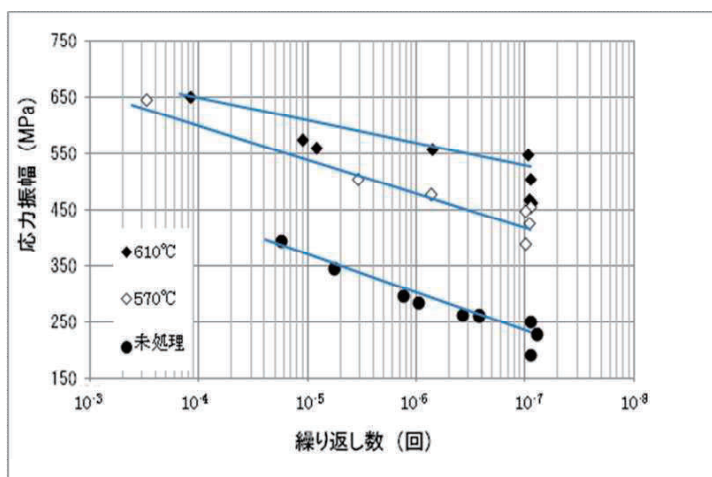


図 窒化処理後の SN 曲線例(窒化温度 570°C・610°C)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
金属顕微鏡	
走査型電子顕微鏡	
X線回折装置	
蛍光 X 線分析装置	

研究タイトル：

熱流体関連機器の物質輸送動現象の解明と応用展開

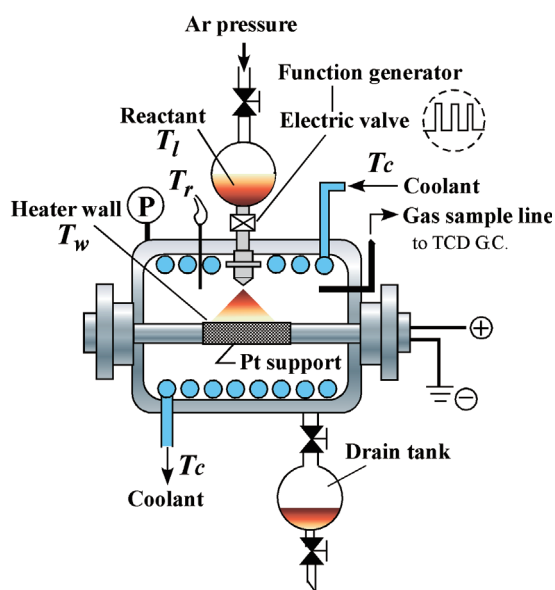


氏名：	山城光／YAMASHIRO Hikaru	E-mail：	hyama@okinawa-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	機械学会, 伝熱学会, 冷凍空調学会		
キーワード：	熱、流体、物質移動、エネルギー		
技術相談 提供可能技術：	機器の熱流動解析、熱エネルギーの有効利用、マイクロリアクターなど		

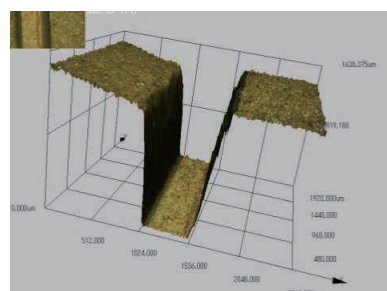
研究内容：

化学反応を伴う相変化伝熱(沸騰・凝縮・凝固)やヒートショックや熱エネルギーの動力変換について知的好奇心が有り、下記の卒研テーマを掲げて教育及び研究指導を行っています。

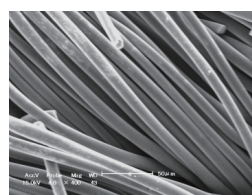
- ・環状飽和炭化水素の浸漬沸騰熱反応特性
- ・高温加熱反応面(炭素繊維、多孔質金属)における微小液滴の急速蒸発と脱水素化反応
- ・多孔質セラミック基板の細孔分布制御とマイクロリアクターへの応用
- ・炭化水素系作動媒体の熱動力変換に関する研究



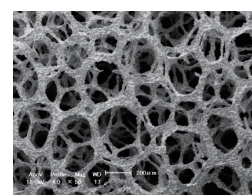
スプレーパルス式改質器



多孔質セラミック基板に形成された微細流路



炭素繊維材



多孔質金属

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
赤外分光分析装置	
空孔比表面積測定装置	
小型蒸気タービンシステム	
軸流型風洞実験装置	

研究タイトル:

制御システムの設計・開発に関する研究

氏名: 安里健太郎 / ASATO Kentaro E-mail: k_asato@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 計測自動制御学会, システム制御情報学会, 電気学会

キーワード: 制御工学, 制御理論, ソフトコンピューティング

技術相談

提供可能技術:

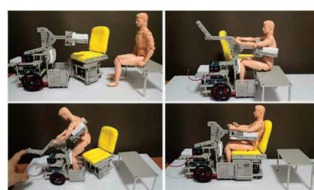
- ・制御理論に基づいた制御システムの設計・開発
- ・ソフトコンピューティングに基づいた制御システムの設計・開発
- ・ニーズ指向型介護ロボットの開発
- ・マイクロコントローラを活用した科学技術教材の開発



研究内容: 制御理論およびソフトコンピューティング技術に基づいた制御システムの設計・開発に関する研究

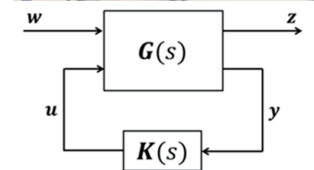
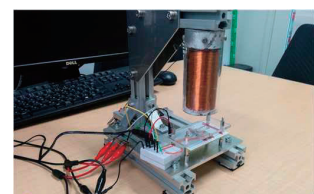
① ニーズ指向型介護ロボットの開発

我が国は国際的にみても突出した超高齢社会となっており、とりわけ介護分野では課題先進国となっている。近年は介護人材の不足や過重労働が深刻な問題となっており、これらの解決策として介護ロボットの利活用が注目を集めているが、その開発段階において「真のニーズ」が十分に検討されていないこともあり、実際の介護現場において定着できていない現状がある。本研究では、〈介護〉と〈ロボット〉の融合的知見を涵養する新しい「ニーズ・シーズ連携養成法の構築」および介護ロボット開発のための「ラビッドプロトタイピングツールの開発」を行い、これらを活用したニーズ指向型介護ロボットの開発を行っている。



② 論理的思考力育成および就業意識向上のための科学技術教材の開発

現在、さまざまな科学技術教育活動が行われているが、重要な観点の一つである「論理的思考の必要性」をテーマとして扱っているものは非常に少ない。そこで、『数学を主体とする論理的思考力の育成』および『就業意識のさらなる向上』を目的として、マイクロコントローラやシングルボードコンピュータを活用した利用価値の高い科学技術教材の開発を行っている。また、近年は IoT や人工知能(主にディープラーニング)といった技術分野の教材開発も行っている。

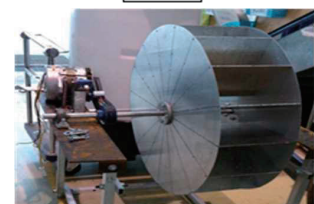


③ 磁気浮上システムの開発

磁力を利用した磁性体の浮上制御は古くから研究されており、リニアモーターカー、(磁気)軸受、柔軟ビームのたわみ制御などに応用されている。現在本研究では、マイコンを利用した制御理論の検証用および教育用としての磁気浮上システムの開発などを行っている。

④ システムの低次元化に関する研究

制御しようとするシステムの規模が大きくなると、コントローラの設計で問題が生じたり、維持・管理の面で不都合が生じたりする。そこで、一般化グラミアンや LMI(線形行列不等式)などを利用して、大規模な制御システムを簡略化する方法について研究を行い、これらの問題の解決を目指している。



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

各種マイクロコントローラ, シングルボードコンピュータ	アクティブサスペンション実験装置 (Quanser)
Matlab・制御系ツールボックス(MathWorks)	3自由度ヘリコプタ実験装置 (Quanser)
Scilab(フリーソフト)	磁気浮上実験装置(自作)
倒立振り子実験装置(サーボテクノ)	モーター制御実験装置(自作)
高精度線形台車型倒立振り子実験装置 (Quanser)	Neural network console (Sony)

研究タイトル:

機械システムの高度化



氏名: 下嶋賢/Shimojima Ken E-mail: k_shimo@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 食品工学会

キーワード: 3次元測定機, 5軸制御マシニングセンタ, 精度評価, 機械設計

技術相談

提供可能技術:

- ・機械要素を組み合わせた試作・設計・製作
- ・水中カメラ用防水ハウジングの設計・製作
- ・3次元座標測定機による形状計測支援
- ・爆破レンジを用いた食品加工技術支援

研究内容:

①5軸制御マシニングセンタのアーティファクト法による幾何偏差推定法

アーティファクトを用いた机上測定による幾何学的偏差の同時推定と、その偏差を用いた加工の不確かさ推定

②水中衝撃波を用いた食品加工装置の開発

水中衝撃波を用いた食品加工技術。本技術は、非加熱製粉、殺菌、軟化、抽出性向上が可能となり、本特性を生かし、要求される食品に対する粉碎機ならびに搬送機の製作を行う。

③射出成型金型の製作 -沖縄高専ロゴの製作-

射出成型金型の試作を行い、沖縄県工業技術センタ所有の射出成型機を用いた樹脂成形を行う。

④メンテナンスフリー型水中定点カメラの開発

改定に設置後、定点観測を行うカメラを開発している。目標は設置後3カ月の稼働。定期的な静止画像取得が可能な装置の開発を行う。

⑤複合材料(FRP)の切削加工・接合特性の基礎的検討

複合材料の各種加工特性を評価し、最も高能率・高精度な加工方法を選定する。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
3次元測定機 ・ミットヨ	
5軸制御マシニングセンタ ・マザック	

研究タイトル：

各種熱源による材料の溶接・接合と二次加工

氏名： 津村 卓也 / TSUMURA Takuya E-mail: tsumura@okinawa-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 溶接学会, 日本機械学会, 軽金属学会, 日本材料学会, 溶接協会

キーワード： 固相接合, 異種材料, FSW/FSP, FSSW, 表面処理・改質, アーク, レーザ

技術相談

提供可能技術：

- ・異種金属材料同士の固相接合 (FSW/FSSW)
- ・各種熱源による金属の表面処理・改質 (FSP)
- ・金属材料同士の溶接・接合



研究内容： 摩擦発熱を利用した異種金属同士の固相接合と金属組織改質

摩擦攪拌接合法 (Friction Stir Welding: FSW, 図1), 摩擦攪拌点接合法 (Friction Stir Spot Welding: FSSW, 図2) など, 摩擦発熱を利用した固相接合法による異種金属の接合に関する研究を行っている。【(例) 重ね接合: 純アルミニウム—純銅, オフセット付き突合せ接合: 純銅—純ニッケル, (図3), FSSW: 難燃性マグネシウム合金—亜鉛めっき鋼板 (図4)】

また, FSW を応用した摩擦攪拌処理 (Friction Stir Processing: FSP) による難燃性マグネシウム合金の成形加工性向上に関する検討も行なっている。

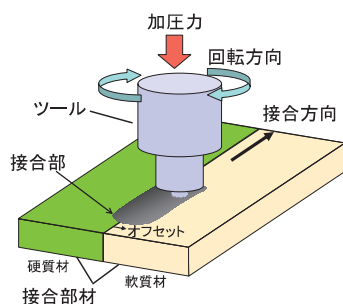


図1 オフセット付き異材突合せ摩擦攪拌接合法 (FSW) の模式図

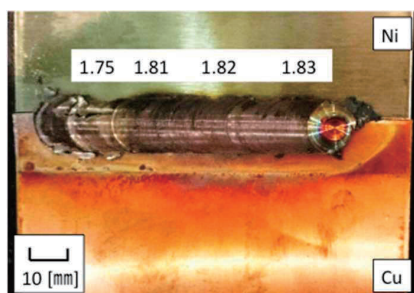


図3 オフセット付 FSW による純銅—純ニッケルの突合せ継手の外観 (ツール挿入深さの影響)

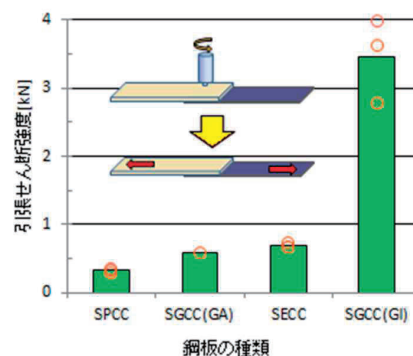


図4 難燃性 Mg 合金と各種亜鉛めっき鋼板の FSSW 継手引張せん断強度の比較

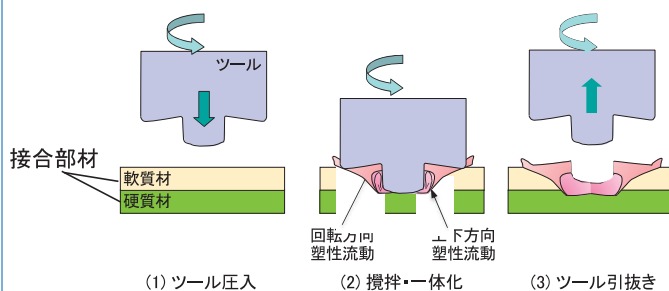


図2 異材摩擦攪拌点接合法 (FSSW) の接合過程

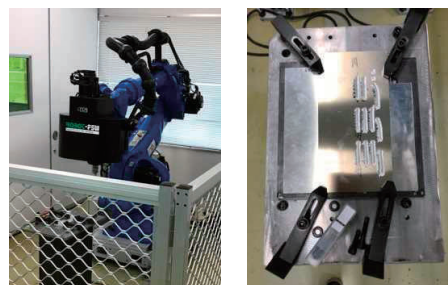


図5 ロボット摩擦攪拌接合装置と施工状況 (R3.10 トライエンジニアリング (株) 様より貸与)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

ロボット摩擦攪拌接合装置・R-FSW-001 (トライエンジニアリング)	万能試験機 オートグラフ AG-IS 10kN (島津製作所)
TIG/被覆アーク溶接装置・DA-300P (ダイヘン)	油圧式万能試験機 UH-F500kN (島津製作所)
MAG (CO ₂) アーク溶接装置・DM-350/CM-7401 (ダイヘン)	各種顕微鏡 (SEM, 金属顕微鏡など)
直流パルス TIG 溶接機・VRTP-200 (ダイヘン)	エネルギー分散型元素分析装置

研究タイトル：

シミュレーションを活用した生産管理および生産システム技術の研究



氏名：	鳥羽弘康／TOBA Hiroyasu	E-mail：	toba@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	IEEE、ACM、情報処理学会、機械学会		
キーワード：	システムシミュレーション、生産工程シミュレーション、サプライチェーンマネジメント		
技術相談 提供可能技術：	・システムシミュレーションによる離散系システムの性能予測 ・生産工程シミュレーションによる生産方式評価 ・生産計画立案アルゴリズム		

研究内容：

ものづくりの原点ともいえる工場は、複数の製造設備を使用し、複数の工程を経て製品を完成させるシステム＝生産システムである。製造業を営む企業では、生産システムを効率良く運用管理することが、顧客満足や利益に直結するため、あらゆる面から効率的な生産を実現することが経営上の課題となる。

このような背景から、システムを効率良く運用するために、事前にシステムの状態が将来どのように変遷していくか予測し、予測結果をシステム運用に活用するリスク管理技術が重要視されている。システムが大規模複雑になると、システムの挙動を予測式として定式化し、予測式の予測精度を確保することが問題となるが、システムシミュレーションの手段を用いると容易に解決できることが多い。システムシミュレーションでは、システムを構成する個々の要素の運用方法、管理方法、制御方法を、各要素の状態遷移図やフローチャートとしてモデル化し、多数の要素の状態変化を時刻順に逐一シミュレートする。そのため、実際のシステムの動作に忠実にコンピュータ上で実験を行い、システムの将来の状態を予測することが可能となり、大規模複雑なシステムの運用計画の事前評価：リスク管理に使用できる。

本研究では、入手が容易な市販のシステムシミュレータを活用し、生産システムの性能予測、生産方式評価、生産計画立案アルゴリズムの開発、等の教育研究活動を行っている。研究室に配属された学生のうち、生産システムに興味を持つ者には、問題意識の醸成に主眼を置き、興味を持つ工場の生産効率化を研究テーマに設定し、学生のアイデアの具体化、シミュレータによるアイデアの有効性評価、等の指導を行っている(例：ロボコン競技用ロボットの試作リードタイム短縮法の考察、等)。また、プログラミングに興味を持つ学生には、プログラミング技能向上を主眼に置き、簡素なシステムシミュレータや数理計画法ソルバーの製作、これらを用いたスケジューラ製作、等の教育指導を行っている。

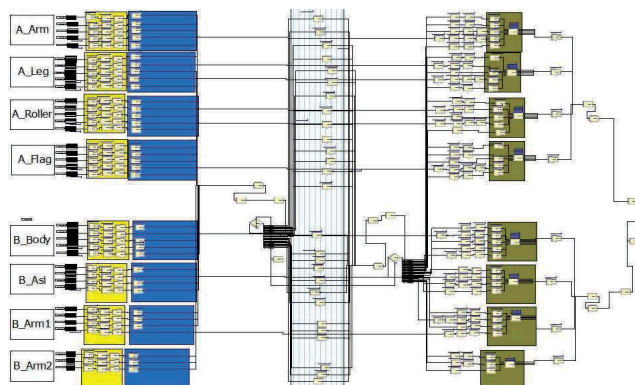


図1. ロボット試作工程シミュレーションモデル

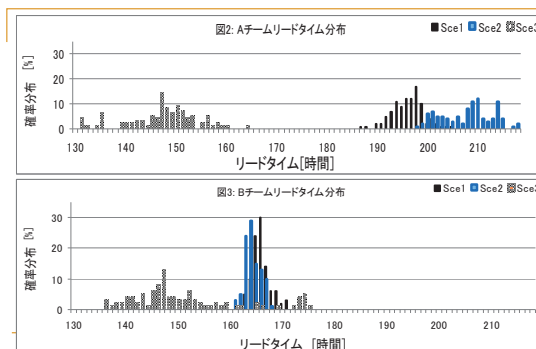


図2. ロボット試作リードタイムの確率分布のヒストグラム

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
システムシミュレータ Arena14.7 (Rockwell Automation)	
物流3次元CGシミュレータ AutoMod12.3 (Applied Materials)	

研究タイトル：

流体工学および空気力学に関する研究

氏名：森澤 征一郎／Seiichiro MORIZAWA E-mail：morizawa@okinawa-ct.ac.jp

職名：講師 学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本航空宇宙学会、日本機械学会、日本計算工学会

キーワード：数値流体力学、データマイニング、多目的最適化

技術相談

提供可能技術：

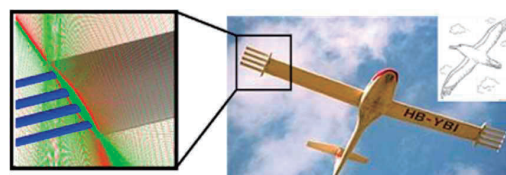
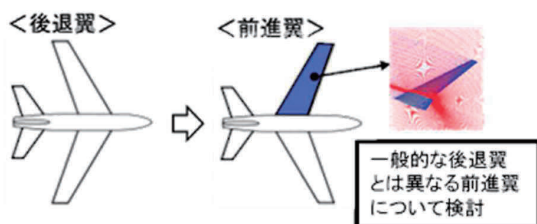
- ・輸送機器などの周りの流体解析について
- ・機械学習・データマイニングの工学的な応用について



研究内容：

① 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究

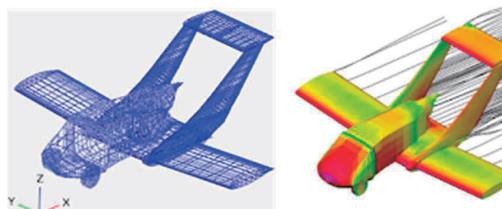
新たな航空機の機体形状創出を目指し、前進翼や動・植物などをベースにした主翼の空力解析、及び空力最適化を実施しています。以下の図は対象となる前進翼の主翼平面形状や鳥類を形状模擬した主翼の翼端デバイスです。



② Roadable Aircraftに関する研究

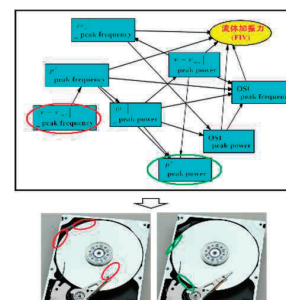
地方空港などの既存インフラを利用した離島間での空飛ぶクルマの実現性についての検討を行っています。

右図はバージニア工科大学とラフバラー大学の学生グループが共同研究で行った Roadable Aircraft「Pegasus」の形状モデリングし、その周り流体場を計算した例です。



③ データ探索に関する研究

人が処理しきれないデータに対して機械学習・データマイニングなどの手法を適用し、そのデータを今までとは異なる方法で「見える化」することで新しい気づきを与えることを目指しています。右図はパソコン内のハードディスクで生じる流体加振力と流れ場の関係と呼ばれるベイジアンネットワークによってグラフ構造で結びつけた一例です。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

電子デバイス・MEMS 応用技術に関する研究

氏名:	兼城 千波 KANESHIRO Chinami	E-mail:	chinami@okinawa-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	IEEE, MRS, ECS、応用物理学会、電子情報通信学会		
キーワード:	半導体表面界面物性、弾性波デバイス、MEMS、センシングデバイス		
技術相談 提供可能技術:	- 各種電子デバイス評価(電気特性(電流、容量、電圧)、S パラメータなど) - デバイスおよび材料表面界面物性評価 - MEMS 関連: デバイス作製技術および評価		



研究内容: 電子デバイス・MEMS 応用技術に関する研究

○電子デバイス/複合機能素子に関する研究

- 弾性波-半導体による機能デバイスの研究: 弾性表面波の伝搬路上に半導体薄膜を配置することにより、半導体中のキャリアと弾性波による相互作用による電気信号変調素子や光信号変調素子の新機能の探求。(図1参照)
- 周期構造体による弾性表面波デバイスの研究: 伝搬路上に配置したストリップラインを利用した経路変換器や周期構造体を利用したフィルタ素子の研究。
- 色素を組み込んだ pn 接合ダイオードにおける光応答・光起電力の改善に向けた基礎研究。
- high- k のゲートを有する MOSFET によるデバイス特性の改善に関する研究。(図2参照)
- 圧電薄膜による超音波プローブの開発と非破壊検査応用技術に関する研究: 簡易型超音波非破壊探傷装置の提案として、圧電薄膜をプローブとして、走査型 2 次元探傷を可能とするシステム開発に関する研究。(図3参照)

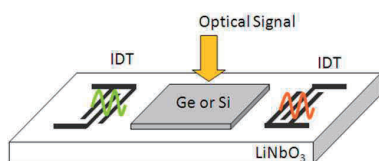


図1 弾性波-半導体結合素子



図2 high- k を有するゲート構造

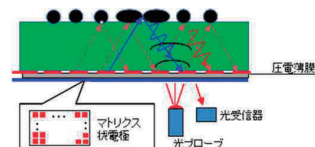


図3 非破壊探傷装置の開発

○MEMS 構造・デバイス応用技術

- マイクロプローブアレイの作製技術に関する研究: 半導体集積回路用のプローブアレイとして、スプリングプローブアレイを用いた高密度配線技術に関する研究。(図4参照)
- 応用例: 高密度配線技術、走査プローブ顕微鏡用プローブ針
- μ -TAS システム回路の作製: マイクロタンク・マイクロポンプの作製など、微量検査へ向けた化学解析用システムの構築。

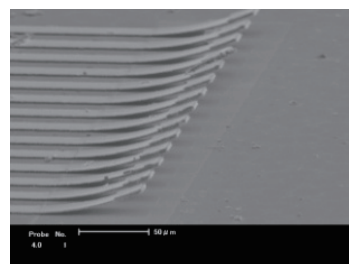


図4 マイクロスプリングアレイ

○その他

- 半導体工学教材開発... 目に見えない半導体の中のキャリアの動きを視覚的・感覚的に捉えるための教材開発。
- データベースアプリケーションによる出席管理簿やアンケートシステム構築に関する研究(総務省 SCOPE 助成により、㈱ジャスミンソフトと共同開発)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
RF Sputter Vacuum Coater SVC-700 (サンヨー電子)	
Network Analyzer E5061A (Agilent)	
SEM VE-8800 (Keyence)	
Photolithography MA-10 (Mikasa)	
Thermal Oxidation AMF-2P-III (アサヒ理化製作所)	

研究タイトル：

サポート者の気づきに繋げる重複障がい児の状態把握アセスメントツールの開発

氏名： 神里 志穂子 / Kamisato Shihoko E-mail: kamisato@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 情報処理学会・日本ロボット学会・ライフサポート学会

キーワード： 生体情報計測・解析(動作, 視線, 脳波, 視野など), データ解析, 感性工学, 教材開発

技術相談

提供可能技術：

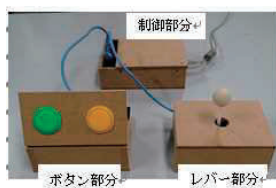
- ・生体データに関する計測(動作, 視線, 脳波, 筋電, 視野, 聴野など)
- ・データ解析(特徴抽出, データ解析法)
- ・感性データ処理(印象評価によるフィードバック)
- ・e-AT 機器の開発(教材用電子すごろく, 電動車椅子操作のための教育ツールの作製, 視野計測機器の開発など)



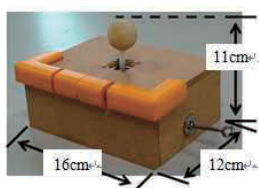
研究内容： e-AT(Electronic and Information Technology Based Assistive Technology) 機器の開発

・ジョイスティック型マウス・コントローラの開発及びモーションキャプチャを用いた操作性の評価

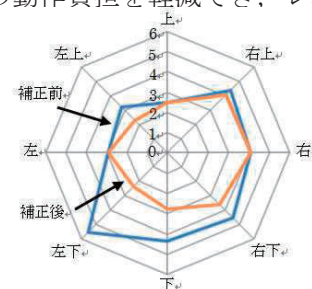
ジョイスティック型マウスを開発し、マウスの操作ができない肢体不自由児を対象とした支援を行っている。本研究では、肢体不自由児と健常者の操作特徴を比較し、肢体不自由児は動作負担が大きいということを確認している。また、動作負担を軽減するため、使用者の苦手とする一部のレバー操作に対してレバーの感度調節を行ない、操作時間を補正した。その結果、苦手とする部分の動作負担を軽減でき、レバーの感度調節による苦手な操作の負担軽減が有効であることを確認できた。



ジョイスティック型マウスの外観



使用の様子



補正前後の入力操作に要する腕の移動距離の比較

・ジョイスティック型コントローラの活用

ジョイスティック型コントローラを活用して、児童が自らジョイスティックコントローラを操作することで、遊びを通して自ら車椅子を移動させる感覚を掴んでもらうことを目的としている。



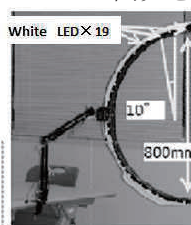
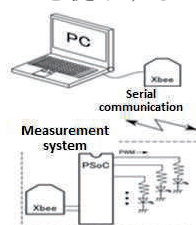
コントローラの外観



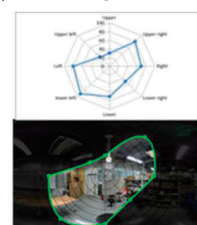
使用の様子

・視野計測機器の開発

特別支援学校の教員が児童生徒の通常視野の把握を行う際のサポートを目的として簡易型の視野測定機と測定した結果の状態をイメージし共有しやすいよう画像で結果を提示するシステムの開発を行っている。



視野計測機器



視野計測の表示

提供可能な設備・機器： 生体情報計測システム

名称・型番(メーカー)

モーションキャプチャ(光学式・磁気式)

重心計測

視線計測システム

筋電計測

脳波計測システム

研究タイトル:

意思決定支援システムに関する研究



氏名: 金城伊智子 / KINJO Ichiko E-mail: ichi@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 情報処理学会, 観光情報学会

キーワード: 意思決定, ファジィ解析, 観光情報

技術相談
提供可能技術:
・意思決定支援に関する技術
・ファジィ理論を用いたデータ解析

研究内容:

人間が意思決定を行う際の支援をするシステムに関する研究を行っている。



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

光ファイバ通信システムの大容量化および安全性に関する研究



氏名： 高良秀彦 / TAKARA Hidehiko E-mail: h.takara@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会、レーザー学会、IEEE

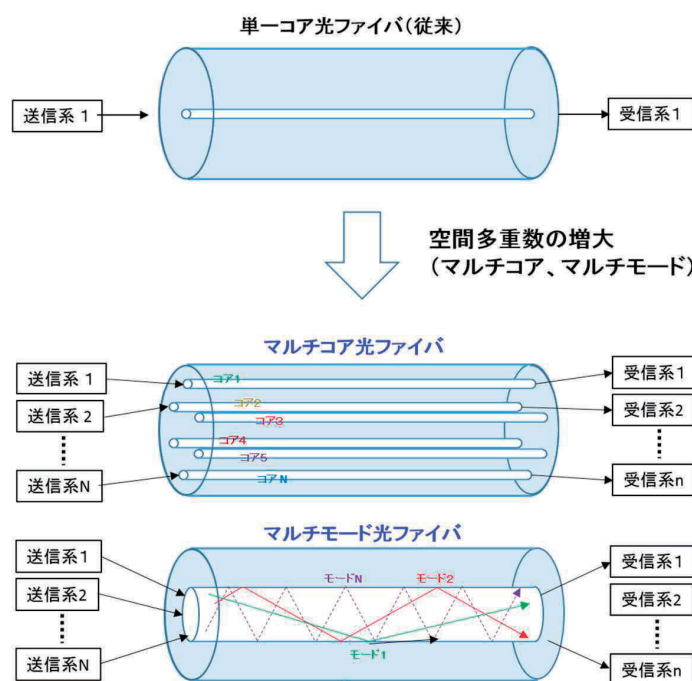
キーワード： 光ファイバ通信、光計測、光安全

 技術相談
 提供可能技術：

- ・光ファイバ特性測定技術
- ・光ファイバ通信品質測定技術
- ・光ファイバ通信システムの安全性評価（IEC 国際規格、JIS 規格）

研究内容：

- ・大容量光ファイバ通信システム・サブシステム（時間分割多重、波長分割多重、空間分割多重）
- ・光ファイバ伝送特性・通信品質の測定技術
- ・光ファイバ通信システムにおける安全性



空間多重(マルチコア、マルチモード)を用いた光ファイバ通信システムの基本構成

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

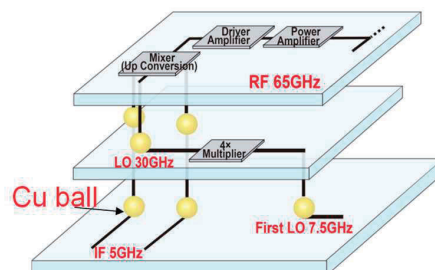
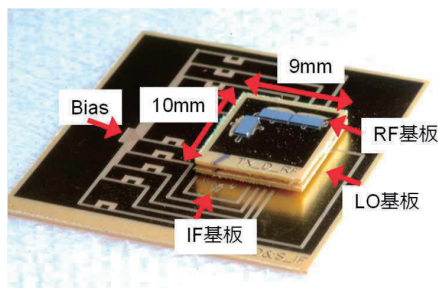
3D-SiP 実装を用いた高周波小形モジュール開発

氏名:	谷藤 正一 / Shoichi TANIFUJI	E-mail:	tanifuji@okinawa-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	電子情報通信学会, 応用物理学会, エレクトロニクス実装学会, IEEE		
キーワード:	マイクロ波, ミリ波, RF-IC, 3D-SiP, SBB, フリップチップ, 実装技術		
技術相談 提供可能技術:	・ フリップチップ実装技術を用いたミリ波帯 RF-IC の実装 ・ 3D-SiP 技術を用いた小形モジュール開発		



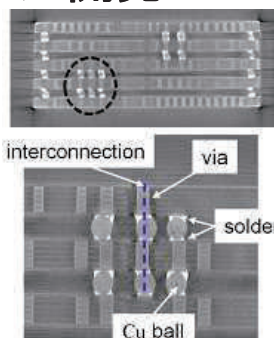
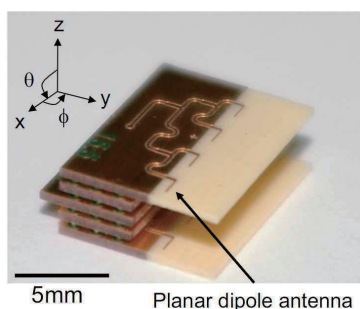
研究内容:

● ミリ波帯 Si-CMOS RF-IC の基板実装



ミリ波帯の RF-IC を有機樹脂基板上へフリップチップ実装したモジュールを Cu ボールを用いて積層する。

● 3D-SiP 実装を用いたモジュール開発



3D-SiP を用いて、RF-IC モジュールとアンテナを一体化し、アレーアンテナモジュールを構成する。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
ワイヤ&ボールボンダ(K&S 4522)	
セミオートフリップチップボンダ(TS-FCB-100)	

研究タイトル:

高機能演算システムの設計および検証

氏名: 山田親稔/YAMADA Chikatoshi E-mail: cyamada@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 電気学会, 電子情報通信学会, IEEE

キーワード: 組込み技術, 再構成可能デバイス, HPC, モデル検査技術

技術相談

提供可能技術:

- ・ソフトウェア/ハードウェア統合化設計, 部分再構成
- ・GPU を用いた並列演算
- ・モデル検査を用いたシステムの上位設計検証



研究内容: 高機能・高信頼演算システムの設計および検証基盤の構築

・高機能・高信頼演算システムの設計と評価

近年のデジタルシステムにおける進歩は、高性能化・高機能化が一段と加速し、その中でも組込みシステムの重要性が増し、システムに対する信頼性・安全性への要求が高まってきている。本研究では、多岐にわたるシステムの設計および開発を統合的に支援する環境の構築を目指している。これまで、以下の項目に重点的に取り組んできた。

・アルゴリズムのハードウェア設計

暗号処理および画像処理等を再構成可能なデバイスである FPGA によりハードウェア実装することで高速化を図った。暗号処理で用いる剰余演算、医用画像処理で用いるフィルタをハードウェア実装した。

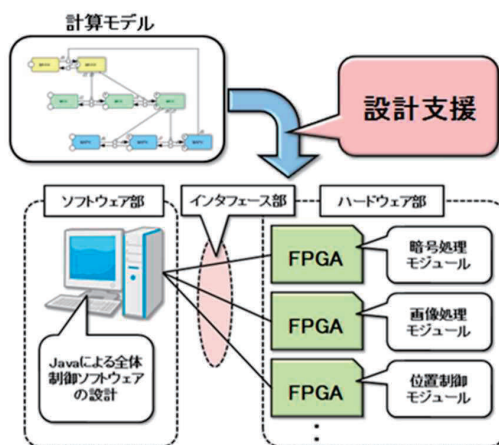
・GPU を用いた並列演算

演算に膨大な時間を要する適応的バイラテラルフィルタに GPU を用いることにより、高速化を可能とした。

・モデル検査を用いたシステムの上位設計検証

ハードウェア設計者がモデル検査手法を導入しやすくするために、Matlab/Simulink とモデル検査ツール SPIN を連携する検証基盤を構築した。本手法を用いて、システムの設計検証を行うと、検証に要する時間、メモリ容量を減少させることができ、効率的に上位設計検証を行うことを可能にした。

上記の成果を踏まえ、現在、右図に示す設計支援環境の構築に取り組んでいる。



「従来技術との優位性」

従来、用途に応じたシステムを設計する際、設計と検証を並行して実施することが困難であったが、本研究で提案する設計支援環境では、統合的かつ階層的に設計および検証を行うことが可能である。

「予想される応用分野」

- ・医用機器
- ・セキュリティ機器
- ・ネットワーク機器

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

Logic Analyzer・TLA6202(Tektronix)	FPGA Board・DK-DEV-4SGX230N(Altera)
FPGA Board・ML605(Xilinx)	GPU・GV-TITAN-6GD-B(NVIDIA)
FPGA Board・ML403(Xilinx)	
FPGA NanoBoard 2・NB2(Altium)	
FPGA Board・AES-S6IVK-LX150T-G(Avnet)	

研究タイトル:

無線通信システムの高効率アクセス制御に関する研究



氏名: 中平 勝也 / Katsuya Nakahira E-mail: nakahira@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(情報科学)

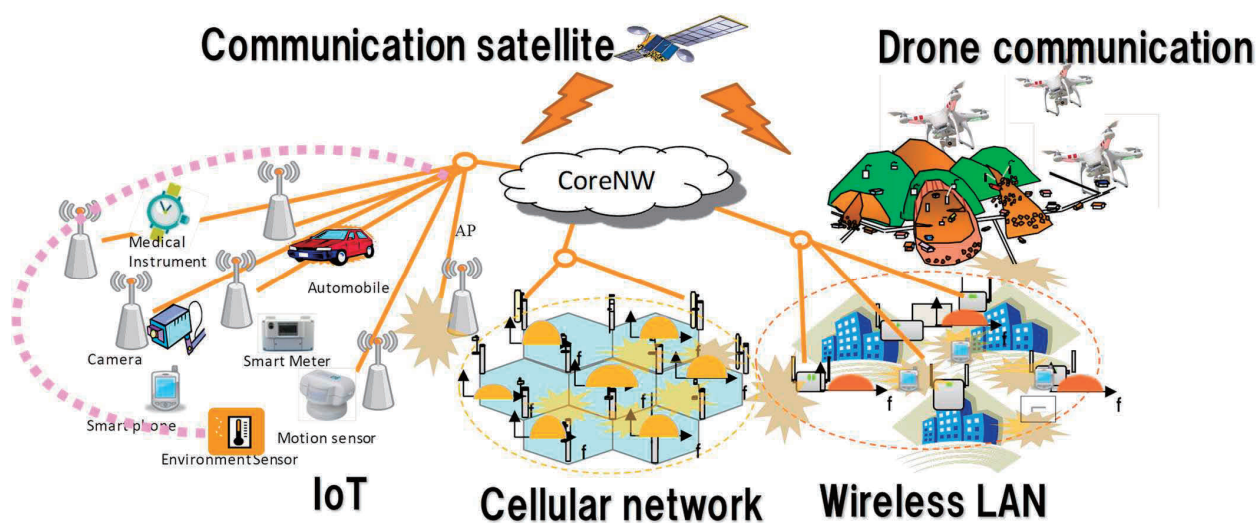
所属学会・協会: 電子情報通信学会

キーワード: 無線通信・衛星通信システム、アクセス制御方式

技術相談
提供可能技術: 通信システムのトータル的な運用方法、制御方法、方式設計
無線周波数や送信電力の最適配分方式 など

研究内容:

1. 衛星、WLAN、IoT、ドローンなど各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究
2. ヘテロジニアス無線ネットワーク環境下における干渉低減方法に関する研究
3. 電波環境やトラフィックの変動に応じた無線リソースの適応制御に関する研究



各種無線通信システムのトータル的な運用方法や、システム間協調、システム間干渉低減などの研究を中心に実施

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

省電力・高信頼・高性能化の実現に向けた
VLSIの研究開発

氏名：宮城 桂 / MIYAGI Kei E-mail: k.miyagi@okinawa-ct.ac.jp

職名：講師 学位：博士(工学)

所属学会・協会：電子情報通信学会

キーワード：VLSI, 省電力, 高信頼, 高性能, 非同期式回路

技術相談

提供可能技術：
・コンピュータアーキテクチャ
・計算機工学
・VLSI 設計手法

研究内容：自己同期回路によるVLSI構成法に関する研究

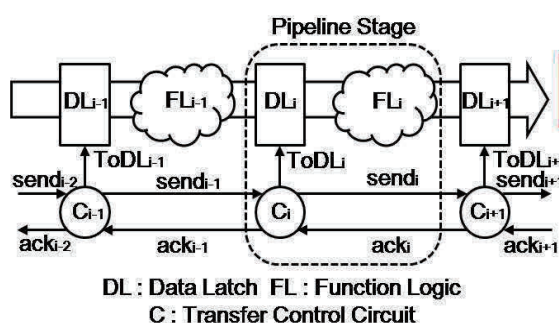


図1. 自己同期回路の構成

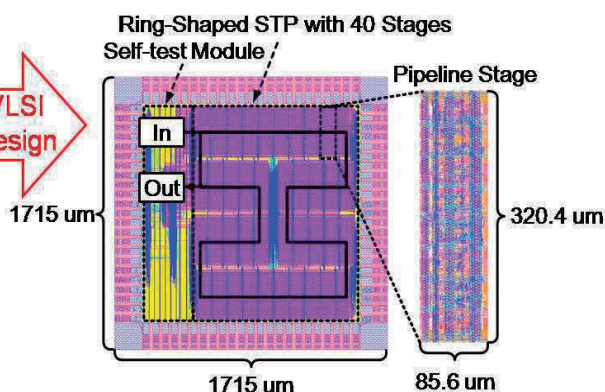


図2. 試作チップのレイアウト

【研究概要】

将来の情報化社会を持続可能な社会へ導くために、情報通信機器の高性能化や省電力化は欠かすことのできない技術である。これまで、専用回路技術を含むヘテロジニアス SoC(System-on-a-chip)における高速化と低消費電力化を実現するための VLSI 構成法に関する研究に取り組んできた。一方、近年では VLSI の微細化・複雑化に伴い、高信頼性(ディペンダビリティ)も求められるようになった。本研究は、非同期式回路の処理要求に応じて自律的かつ局所的に動作する特性を活用することで省電力化・高信頼化・高性能化を並立する VLSI 設計技術の確立を目的としている。

【研究テーマ】

- ◆ 細粒度電力供給機構を備えた省電力LSIの実現法に関する研究
- ◆ タイミング故障検出・回復のための回路構成法に関する研究
- ◆ NoC(Network-on-chip)型メニーコア SoC における適応的負荷分散手法に関する研究
- ◆ 動的再構成(ダイナミック・リコンフィギュレーション)に基づくマルチパフォーマンス NoC の研究
- ◆ データ駆動原理に基づく高並列処理専用回路の実現法に関する研究

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

IoT を活用した簡易な農業・養殖システムの開発

氏名: 亀濱博紀 / Hiroki KAMEHAMA E-mail: hkame@okinawa-ct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 電子情報通信学会、応用物理学会、IEEE

キーワード: IoT、センシング、データ処理、X線検出器

技術相談

提供可能技術: IoT センシングシステムの開発
X線検出器の開発



研究内容:

IoT センシングシステムの開発

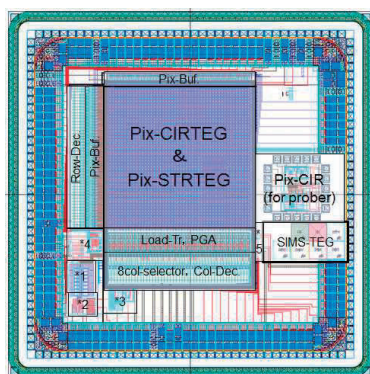
水耕栽培等のノウハウを確立するために、植物の育成環境と育成状況をデータとして蓄積し、植物ごとの最適な条件を導出する。



水耕栽培の様子

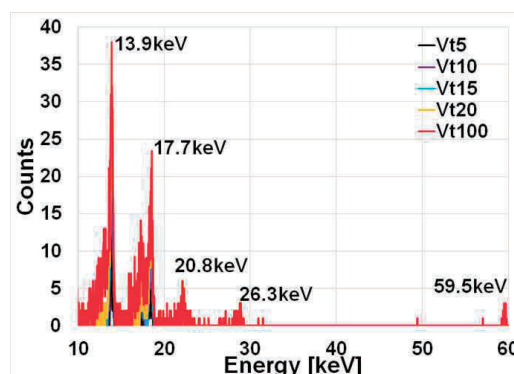
X線検出器の開発(他大学、研究施設と共同研究中)

SOIを用いた高感度・低ノイズ・高エネルギー分解能なX線検出器の開発に取り組んでいる。



チップサイズ: 4.5mm × 4.5mm
チップ厚: 200μm
ピクセルサイズ: 36μm × 36μm
ピクセルアレイ: 48 × 48pixel

*1: S/H, S/H-driver
*2: OutBuf, OutBuf-Bias
*3: CSA-Bias, SF-Bias
*4: Col-Bias, Event-Bias
*5: PGA-driver



Am-241 のスペクトル

開発した X 線検出器のレイアウト

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

機械学習による不正プログラム検知手法

氏名:	伊波靖 / IHA Yasushi	E-mail:	yasuc@okinawa-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(工学)



所属学会・協会: 情報処理学会

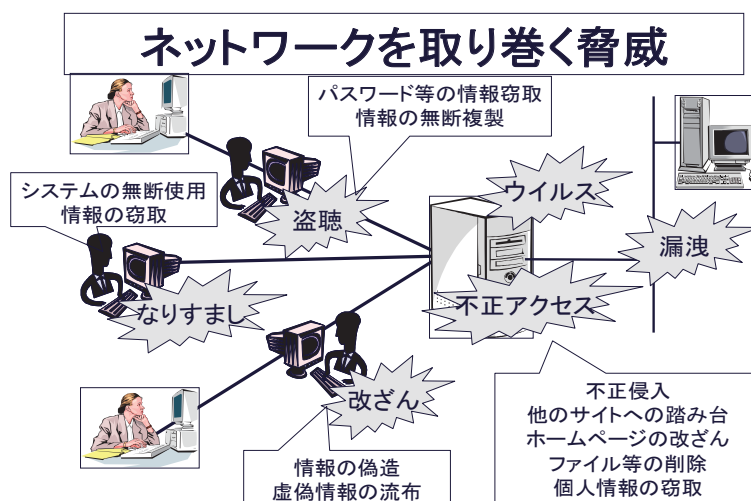
キーワード: 情報セキュリティ, Windows 系不正プログラム検知, WAF

技術相談
提供可能技術:

- ・サーバの要塞化に関する設定
- ・ファイアウォール、IDS(侵入検知システム)等の設定に関するアドバイス
- ・不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス

研究内容:

- ・機械学習(SVM)を用いた Windows 系 OS における不正プログラム検知
- ・機械学習(SVM)を用いた Web Application Firewall に関する研究
- ・コンピュータフォレンジックス



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
NEC 社製 Express5800(Windows Server)	
Juniper 社製 Firewall SSG-5-SB	

研究タイトル:

自動車(歩行者)交通流の解析

氏名: 玉城 龍洋/TAMAKI Tatsuhiro E-mail: t.tamaki@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 情報処理学会、数理モデル化と問題解決研究会

キーワード: 交通流解析、物理シミュレーション、最適化計算

技術相談

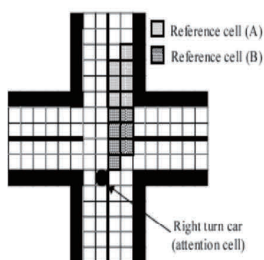
提供可能技術:

- ・交通流の解析
- ・自動車道路ネットワークの最適化設計
- ・歩行者行動モデルの構築



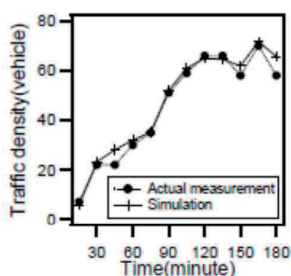
研究内容:

- セル・オートマトン法を用いた交通流解析
- 群集流動解析
- GPGPU による SPH 法の並列化



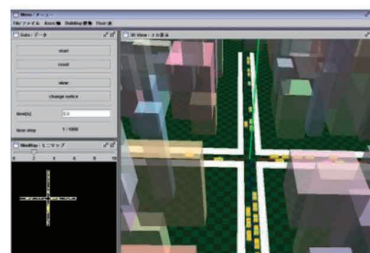
1. Modeling

Design traffic flow model
※Modeling of XPT



2. Analysis

Comparing results to
Actual value



3. Visualization

Showing results animation
using Java3D

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
GPGPU 用 Linux マシン	
スピードガン	

研究タイトル:

自律飛行ロボットの研究



氏名: タンスリヤボン スリヨン / TANSURIYAVONG Suriyon E-mail: suriyon@okinawa-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 電子情報通信学会, 計測自動制御学会

キーワード: デジタル信号処理、ロボットビジョン、教育工学

技術相談
提供可能技術: 自律飛行ロボットによる実地調査、動的な監視技術
画像処理を利用した制御技術

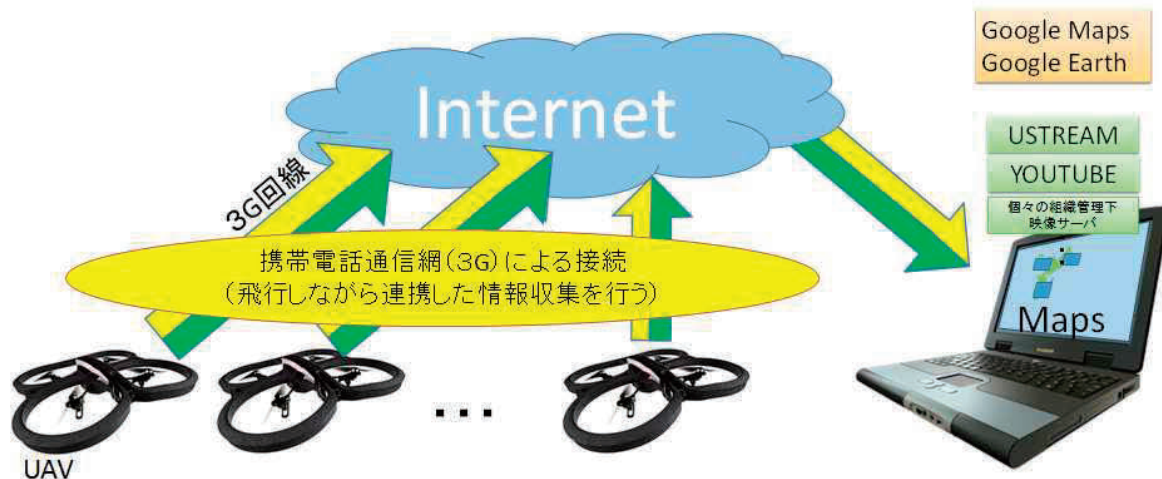
研究内容:

自律飛行ロボットの研究

インフラモニタリングセンサー・システムとして、防災および災害時モニタリング技術の社会実装を行う。

複数飛行ロボットの位置情報・飛行センサ情報と映像をインターネットを介して提供

- ・本研究のロボット制御は3G通信回線を利用ので、距離的な制約なし
- ・災害時の迅速な情報収集に利用
- ・通常時の動的な監視: 海岸・海水浴場・スキー場周辺などに利用
- ・実地調査: 赤土汚染、浅瀬、河川などの調査に利用



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
・高速動画像処理ライブラリ HALCON (リンクス)	
・小型な飛行 Drone (Parrot)	

研究タイトル：

言語機能訓練支援システムの開発

氏名： 與那嶺尚弘 / YONAMINE Takahiro E-mail: yonamine@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会、日本福祉工学会

キーワード： 失語症、言語機能訓練、リハビリ教材開発、Android アプリ、視線解析システム、空間認知障害

技術相談
提供可能技術：
・言語機能訓練支援アプリケーションの提供
・視線解析システムの提供
・言語機能訓練用教材作成アプリケーションの提供



研究内容： 言語機能訓練支援システムの開発とリハビリ環境改善の取り組み

【研究の背景】

コミュニケーションに必要な「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」といった言語機能が低下した失語症患者にとって、それらを回復させるための訓練は(リハビリ)欠かせないものである。一般に低下した言語機能は完治することはないが、長期間に渡るリハビリにより機能が回復または維持すると言われている。失語症患者の言語機能を改善するためのリハビリを専門に行うのが、言語聴覚士(ST: Speech-Language-Hearing Therapist)である。ST がリハビリに用いている教材の多くは紙媒体のため、患者の症状に応じた教材の準備・保存・管理に労力を割いている。また、失語症患者の訓練内容の記録も紙媒体となるため、各患者の訓練成果などの整理は煩雑である。さらに、患者の音読や口頭叙述を記録するため録音機材も必要となる。他にも医療現場などにおける ST は嚥下機能訓練なども行うため業務負担が大きい。そこで ST の業務負担を軽減する目的で、言語機能訓練支援システムを開発している。現在、発達障害児童向けの療育や認知症患者のリハビリへの応用を進めている。

【研究シーズ】

言語機能訓練支援システムは、Android タブレット用アプリとパソコンに実装した視線解析システムで構成される。

1. Android タブレット用アプリの開発(図1、図2、図3)

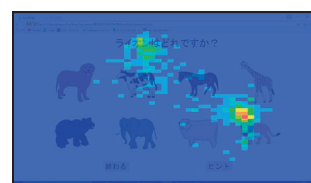
言語機能に関するリハビリを支援する Android タブレット用アプリで、①リハビリアプリ(11種類)、②リハビリ記録閲覧アプリ(2種類)、③リハビリ教材作成アプリで構成される。タブレット1台で教材作成からリハビリまでを行えるため、言語聴覚士の負担を減らせる。また、利用者個別の記録や教材を用意できるため、症状に合わせたリハビリを実施できる。

2. 簡易視線解析システムの開発(図4)

症状の回復具合やリハビリの効果を定量的に評価するため、認知と密接な関係がある視線の動きに着目し、PC と視線検出デバイスで構成した視線解析システムを開発している。現在は視線トレース、ヒートマップ解析、録画機能を実装している。

【本システムの特徴と応用分野】

市販の言語訓練ツールは教材が固定であり、なおかつ高価である。本システムのアプリ群は無償で提供され、ST(支援者)や利用者のニーズを反映させた教材の追加や変更が可能である。また、健康な高齢者の機能維持や療育を目的とした利用も可能である。視線解析システムは、高齢者への生活上の注意喚起をするための支援ツールとしての応用を検討している。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
Android タブレット(言語機能訓練支援アプリケーション)	
ノートパソコン(視線解析システム)	

研究タイトル：

マルチエージェント・システムによる複雑系の解析

氏名：佐藤 尚 / SATO Takashi

E-mail: stakashi@okinawa-ct.ac.jp

職名：准教授

学位：博士(知識科学)

所属学会・協会：人工知能学会、進化経済学会、進化計算学会、日本神経回路学会

キーワード：複雑系、人工生命、進化言語学、進化論的計算、マルチエージェント・システム、ニューラルネットワーク、強化学習

技術相談

提供可能技術：

- ・マルチエージェント・システムの設計、および解析技術
- ・進化論的計算手法を用いた多目的問題の最適解探索に関する技術
- ・人工生命手法による多様かつ複雑なパターン形成・協調行動創発・生態系シミュレーションなどに関する技術



研究内容：生命・認知・言語・社会・経済などの自律的に発展 / 進化する「複雑系」に関する構成論的研究

本研究の目的は、以下のことを明らかにし、そして理解することである：

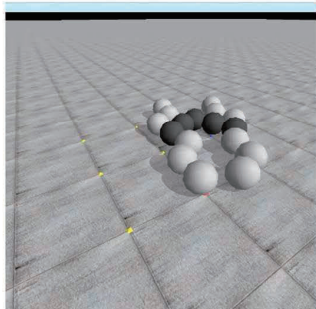
- 理解したい対象の基となるシステムを構成し、そのシステムを動かすことを通して対象の理解を試みる「**構成論的アプローチ**」による「**複雑系の普遍的特徴**」
- **内部ダイナミクスを持つ動的認知主体**で構成される「**マルチエージェント・システム**」を用いた「**複雑な創発現象のダイナミクス**」

複雑系

システムを構成する要素の振る舞いを規定するための（ローカル）ルールや構成要素同士の相互作用によって創発する（グローバル）ルールが、全体の文脈によって変化してしまうシステム

人工生命

人工システムによる**生命的振る舞い（生命らしさ）の合成・解析**に関する学問



身体構造および各関節の動かし方（＝移動方法）の進化的獲得に関する研究

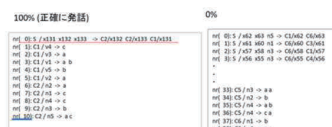
進化言語学

言語の起源と進化の問題を扱う学問



繰り返し学習モデルを用いた文法形成における意味と記号の結びつきの曖昧さの役割に関する研究

正確に発話できる確率ごとの最終世代の文法構造



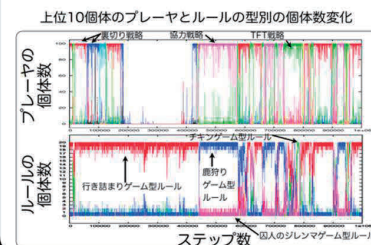
最も合成性の高いルールが獲得できた。

保持するルールの数が増えた
 多くのことを表現するために
 ルールの数が増えた

進化論的計算

システムを生物のように**進化**させ、目的とする仕様や性能を実現しようとする計算技法

プレイヤーの戦略とルールの共進化ジレンマゲームにおける平等ルールの進化的選択に関する研究



提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

・24 Xeon コア, NVIDIA Tesla P100 (16GB) * 6 枚, および 24TB * 2 の外部 RAID を持つ Deep Learning シミュレーション用計算サーバ (TYAN)

・2.5GHz Intel Xeon W 28 コア、および 32TB の内部 RAID を持つ高度計算用サーバ * 2 台 (Apple)

・12 コアを持つ高性能計算サーバ * 2 台 (Apple)

・人型ロボット * 2 台 (Softbank / ALDEBARAN)

研究タイトル:

組込みシステム プロジェクトマネジメント

氏名: 鈴木 大作 / Taisaku SUZUKI

E-mail: suzuki.t@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授

学位: 博士(工学)

所属学会・協会:

一般社団法人情報処理学会、特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会

キーワード:

組込みシステム、ソフトウェア、プロジェクトマネジメント

技術相談

提供可能技術:

- ・組込みシステムにおけるソフトウェア設計技術、開発手法、開発管理
- ・無線通信技術および移動体ネットワーク設計開発技術(アーキテクチャ、プロトコル、管理運用等)
- ・プロジェクトマネジメント手法



研究内容:

■組み込みシステム開発技術、開発手法、開発管理

組み込みソフトウェアの設計開発、開発管理全般に関する技術

■無線データ通信技術

携帯端末および移動体ネットワーク設計開発技術

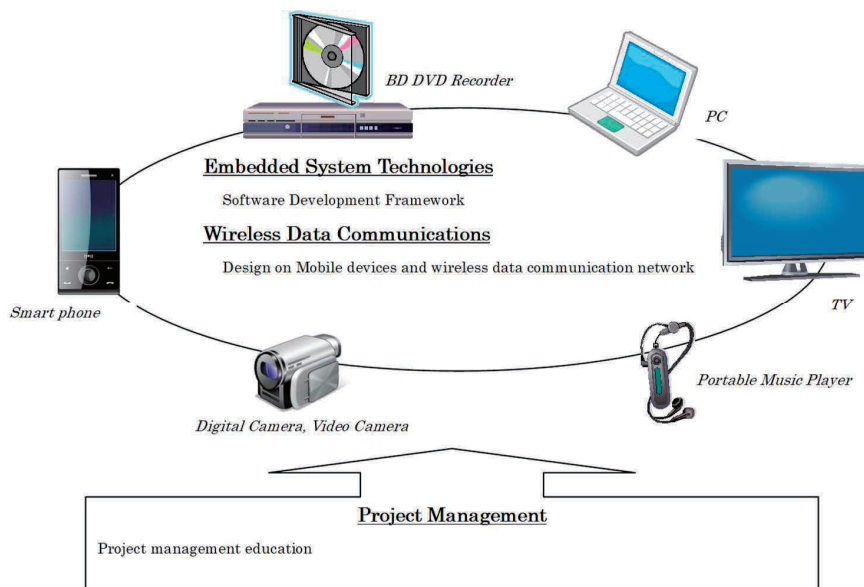
(アーキテクチャ、プロトコル、アプリケーション設計開発技術、等)

OFDM 変調方式を用いた水中音響通信技術

■プロジェクトマネジメント

P2M などのプロジェクトマネジメント手法を活用したプロジェクト管理技術

プロジェクトマネジメント人材育成、教育活動



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

(1)メディアコンテンツの社会的応用 (2)教育福祉



氏名: 西村 篤 / NISHIMURA, Atsushi E-mail: nisimura@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 学士(芸術)・博士(家政学)

所属学会・協会: 日本サウンドスケープ協会(理事)
日本社会福祉士会

キーワード: サウンドスケープデザイン, 住民参加, 教育福祉

 技術相談
 提供可能技術:

- ・メディアコンテンツの社会的応用(特に教育福祉領域への応用)
- ・サウンドスケープデザイン(特に住民の主体的関わりによる音環境デザイン)
- ・メディアコンテンツ制作(特に、音楽、音響を中心とした作品)

研究内容:

- ・サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性
- ・サウンドスケープとしての音環境記述
- ・教育福祉

人口構成の少子高齢化、産業のグローバル化の影響により、我が国の社会の構造は急速に変化し、社会における価値の多様化が進んでいる。様々な領域で、人々の個性を活かした生活の質の向上、伝統的な価値観と新しい価値観との共存が課題となっている。このような流れの中、企業等の営利活動を中心とした活動も、その社会的責任の観点から、地域社会における諸課題を視野に入れた社会貢献が必要となっている。私の研究内容、ならびに本校において約5年間にわたり学生相談室長および教育福祉推進室長として学生の支援に携わってきた経験は、様々な価値観の共存を基調とする社会的潮流の中で企業等とその活動が現実的な価値を見出していくことに貢献できるものと考えています。

主要論文／発表

1. 西村篤, 沖縄工業高等専門学校における教育福祉の推進について, 独立行政法人国立高等専門学校機構・沖縄工業高等専門学校紀要, 第7号, 2014年
2. 西村篤, 國井昭男, 障がいのある学生に対するピア・サポート(学生による学生の支援)～学生寮における生活支援～, 平成24年度全国高専教育フォーラム, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2012年
3. 西村篤・平松幸三, サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性, 独立行政法人国立高等専門学校機構・沖縄工業高等専門学校紀要, 第4号, 2010年
4. A. Nishimura and K. Hiramatsu, The significance of local participation and local initiative in soundscape design, World Forum for Acoustic Ecology 2010, Koli, Finland, 2010年6月18日

共同研究

1. トヨタ財団 2014年度研究助成プログラム採択課題「市民的価値として聞く沖縄の環境音」(研究代表者: マンチェスター大学上級講師・Rupert Cox 博士)に共同研究者として参加(研究機関 2015年5月～2017年4月)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
本校スタジオ機器(詳しくはご相談ください)	

研究タイトル: 複数センサ及び画像処理における ロボット制御, 企業における生産管理システム



氏名:	ザカリ バイティガ Zacharie M. BAITIGA	E-mail:	zacharie@okinawa-ct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士 (工学)
所属学会・協会:	IEEE コンピュータ ソサエティ, 電気学会		
キーワード:	飛行ロボット, ロボットビジョン, 複数センサの金融, 生産管理工学,		
技術相談 提供可能技術:	・複数色認識におけるロボットビジョン及び飛行ロボット制御技術 ・画像処理技術 ・企業における生産管理システム技術		

研究内容:

現在の社会の変化は大きく, 技術も日進月歩です。この変化に, 私たちの研究は対応できるだけの知識や想像力と技術の構築が必要である。それが工学に期待されている社会である。我々は, GPS をはじめ複数センサの組合せ及び画像処理を用いて飛行ロボット・移動ロボット・ロボットアームの研究を行っています。

また, 現代は情報技術が進歩しているにも関わらず企業における生産管理の製品データの管理は紙媒体で行っている企業は少なくありません。IT による生産管理を望んでいる大手企業が多くいます。そこで我々は IT 技術を利用して生産管理システムの開発研究 (受注から出荷まで) を行い, 頑健な生産管理システムを構築しています。我々が開発しているシステムでは各機能がモジュール構造を取っており, 従来システムであれば, 一つのモジュールに不具合があるとすべてのモジュールを停止させる必要があります。しかし, 本システムでは, 不具合が生じたモジュールのみを停止させることができ, すべてのモジュールを停止させる必要がないため, 管理システム機能を合理化できる。さらに生産中にリアルタイムで生産数の進捗状況や各部門のデータの流れを確認できる。本生産管理システムの開発は九州経済産業局から平成 19 年に我々のシステムを使用した企業に与えられる特別賞として「九州 IT 経済大賞」を受賞した。



生産・製造システム開発



ロボット開発



飛行ロボット開発

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
カメラ及び 6 つのセンサで構成される移動ロボット(4 台)	
カメラやGPS及び 4 つのセンサで構成される移動ロボット(2 台)	
カメラで構成される飛行ロボット(1 台)	

研究タイトル：

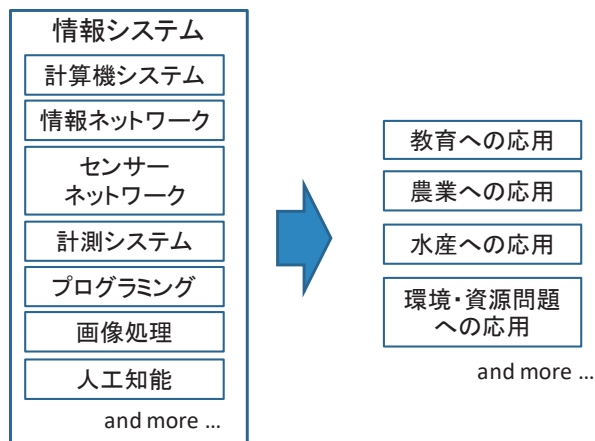
情報システムの構築・運用，及び応用



氏名：	金城 篤史／Kinjo, Atsushi	E-mail：	akinjo@okinawa-ct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	情報処理学会，電子情報通信学会，海洋音響学会，水産学会		
キーワード：	情報システム，情報ネットワーク，海洋音響，農業情報		
技術相談 提供可能技術：	・情報システムの構築 ・情報ネットワーク構築 ・サーバー仮想化		

研究内容：

情報システムを構築・運用するため基礎技術から、それをどのように応用するかに着目して研究を行っています。情報システムを構築するためには、業務を分析したうえで、それらの業務をコンピューターに実施させる必要があります。それにはコンピューターの知識を始め、それを接続するための情報ネットワークの知識、コンピューターに業務を処理させるためのプログラミングの知識、プログラムを作成するためのアルゴリズムや人工知能、画像処理、並列計算など様々な知識が必要となります。それらの知識を効果的に組み合わせてシステムとして実現するための研究を行っています。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

画像解析によるコンピュータ支援診断



氏名： 當間 栄作 / TOHMA Eisaku E-mail: tohma@okinawa-ct.ac.jp

職名： 助教 学位： 修士(理学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会

キーワード： 画像処理, 画像解析, ソフトコンピューティング

技術相談

提供可能技術：

・画像処理技術

研究内容：

■ 眼底画像解析による動脈硬化診断

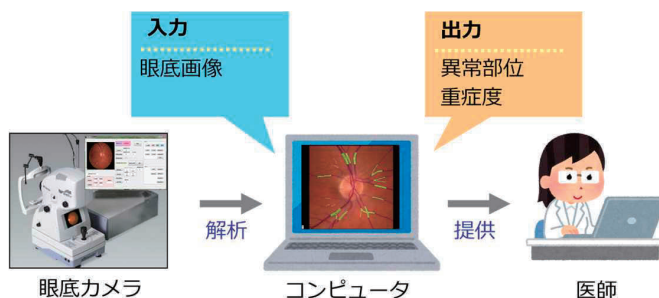
日本での主な死因は、心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患であり、この2つを合わせて約26%という高い割合を占めています。特に、脳卒中は自覚症状なく突然発症することが多く、また、半身の麻痺や言語障害などの後遺症が残ることも少なくありません。健康で、質の高い生活をするためにこれらの疾患を予防することが重要です。

高血圧・動脈硬化、脳血管疾患などを診断する方法として、眼底検査がある。眼底とは眼球の底の網膜などを含む部分のことで、人体で唯一血管を直接観察することができます。眼底画像から高血圧、動脈硬化、脳血管疾患などを診断するだけでなく、将来の発症も予測すること可能です。

眼底検査は医師が眼底を観察し、診断を行います。しかし、この診断結果は医師の能力に依存し、客観性・再現性は低いものとなっています。そこで、コンピュータを用いた解析を行うことで、客観性・再現性を保証します。

眼底画像に着目した、診断のための画像解析の研究を行っています。

● 眼底検査におけるコンピュータ支援診断



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

バイオインフォマティクスを活用した長寿研究



氏名： 池松 真也 E-mail: ikematsu@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(医学)

所属学会・協会： 日本バイオインフォマティクス学会(沖縄地域部会長)・日本生化学会

キーワード： GEAR5.0・生物資源・機能性素材・医薬品・化粧品・体外診断薬

技術相談
提供可能技術：
・分析一般
・素材解析
・遺伝子解析(バイオインフォマティクス まで)
・GMP を主体とする工程管理

研究内容：

現在は、①次世代シーケンサーを用いた腸内細菌叢解析および②その結果を用いたバイオインフォマティクス解析、③沖縄の生物資源からの抽出物を用いた機能性解析などを主として取り組んでいる。

次世代シーケンサーを用いた腸内細菌叢解析では、がん治療に関わる菌の探索およびその機序解明や長寿者の腸内細菌叢を調べ、バイオインフォマティクス技術を駆使することで、それらに関わる菌の特定やゲノム解析などを行っている。沖縄の生物資源を利用した研究としては、リュウキュウマツやジャボチカバの抽出物に含まれる機能性物質の探索およびその利用法について研究を進めている。沖縄の生物資源は、高気温や高湿度、台風や紫外線などの厳しい環境の中で生息しており、常にストレス状態にあることから、他の地域とは異なる機能性を有している可能性がある。その新たな機能性探索のために、沖縄の生物資源に着目し、HPLC による機能性物質の候補の特定や、さらにその物質を細胞を用いた *in vitro* 試験、マウスでの *in vivo* 試験によって評価し、最終的にはそれら機能性物質を有効活用した商品開発なども積極的に行っている。

GEAR5.0 での取り組みにも注目(沖縄高専 GEAR5.0 <https://gear5-okinawa.jp/>)。

微生物パワーの活用研究

挑戦的研究

亜熱帯資源を利用した研究

腸内細菌叢解析

腸内細菌叢のもつ多様な可能性に迫る



1. 長寿と腸内細菌の関係

保有する腸内細菌の種類や数の違いから長寿の秘訣に迫る

2. 腸内細菌培養液の抗腫瘍活性

腸内細菌の代謝物に抗腫瘍活性があるのかを調べる

バイオインフォマティクス

生命科学・情報科学の両方から解析を行う



1. 腸内細菌と健康の関係に迫る



長寿者の腸内細菌叢を解析し、健康との関係を調べる

2. 特異的な遺伝子の探索



乳酸菌の代謝経路を解析し、特異的な物質を産生する菌を探索する

沖縄の生物資源

沖縄の生物資源の機能性を調べる



1. ジャボチカバの抗腫瘍活性



ジャボチカバの抗腫瘍活性を細胞・HPLCを用いて評価する

2. リュウキュウマツの機能性



リュウキュウマツに含まれる有効成分を特定・評価する

提供可能な設備・機器：

機器	型番	メーカー
次世代シーケンサーNextSeq 1000	20038898	illumina
蛍光顕微鏡	426511-9901-000	Zeiss
高速クロマトグラフィー	製品名: AKTAexplorer100	GE Healthcare
リアルタイム PCR	844-00554-5	Analytik Jena

研究タイトル:

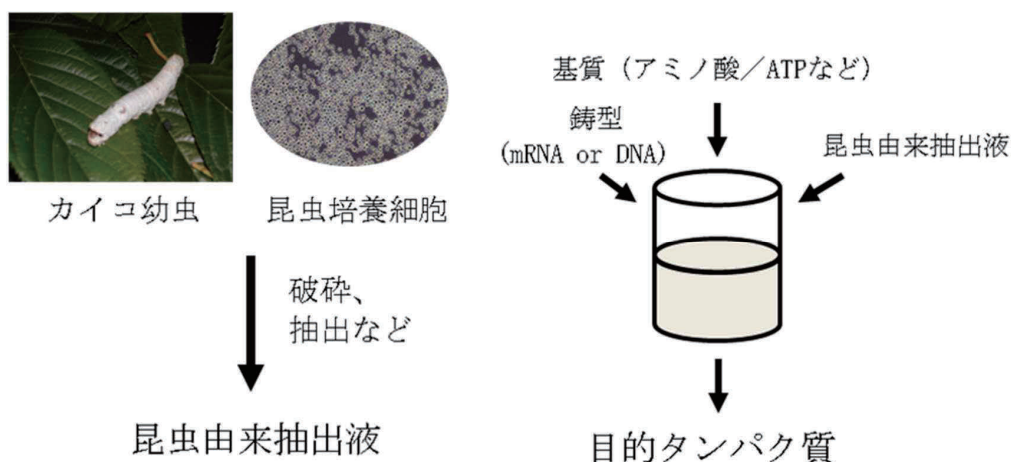
無細胞タンパク質合成系の開発と利用

氏名:	伊東昌章 / ITO Masaaki	E-mail:	ma-itou@okinawa-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(学術)
所属学会・協会:	日本農芸化学会、日本生化学会、日本蛋白質科学会、日本蚕糸学会		
キーワード:	無細胞タンパク質合成、昆虫、カイコ、ポリフェノールオキシダーゼ、シルクタンパク質		
技術相談 提供可能技術:	・遺伝子組換え技術全般 ・酵素関連技術全般 ・各種生物資源を利用した商品開発		



研究内容: 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化とその系を用いた応用研究

私たちのグループでは、「**昆虫無細胞タンパク質合成系**」等の実用化研究を通して、**沖縄独自の新しい養蚕業**の創出を目指しています。創薬研究を支援する**各種タンパク質の迅速合成および合成タンパク質の機能解析**にご興味のある企業・研究機関との昆虫無細胞タンパク質合成系を用いた共同研究をご提案いたします。



昆虫無細胞タンパク質合成系の概念図

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
分光光度計・DU800(ベックマンコールター)	多機能マイクロプレートリーダー・infinite M200(テカン)
微量分光光度計・Biospec-nano(島津製作所)	マイクロプレートリーダー・sunrise rainbow thermo(テカン)
クロマトグラフィーシステム・AKTA avant(GE ヘルスケア)	マイクロチップ電気泳動装置・MultiNA(島津製作所)
クロマトグラフィーシステム・AKTA prime plus(GE ヘルスケア)	
破碎機・MULTI-BEADS SHOCKER(安井器械)	

研究タイトル：

生物資源からの機能性物質の分離、評価研究

氏名： 平良 淳誠 / TAIRA, Junsei E-mail: taira@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(学術)

所属学会・協会： 日本薬学会, アメリカ化学会

キーワード： 酸化ストレス, 抗酸化剤, 香気成分, 薬用化粧品, 機能性食品

技術相談

提供可能技術：

- ・生物資源の細胞機能性評価
- ・機能性物質の定量分析・分離
- ・香気成分・臭気物質の分析

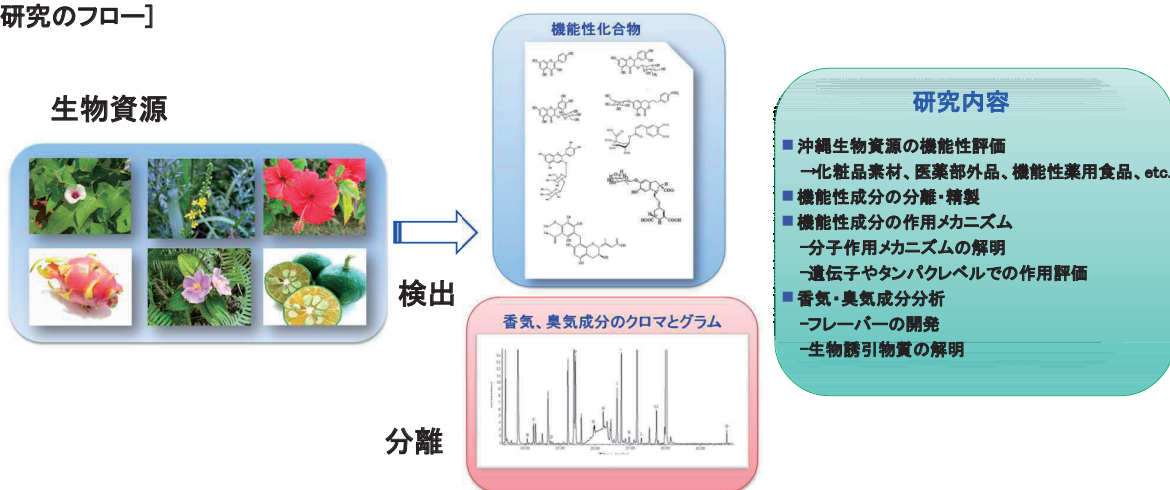


研究内容：

沖縄の環境に対峙し、陸海の様々な生物でつくられる物質の機能性の解明と活用を目指した研究を行っています。

- ・生物資源から機能性食品や薬用化粧品及び医薬品に応用できる機能性物質を分離し、評価します(下図)。
- ・物質評価と作用機構解明には、ポリフェノール含量、抗酸化活性(ORAC 法、ESR 法など)や細胞評価(抗腫瘍活性、抗酸化及び抗炎症活性、アポトーシス活性、メラニン産生抑制活性、酸化ストレス遺伝子発現抑制など)を行います。
- ・植物や酒類の香気成分プロファイルを作成し、フレーバーの構築や酒質の評価をします。
- ・これまでの研究成果は、<https://sites.google.com/site/onctenvbiores/>で閲覧できます。

[研究のフロー]



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
大容量ヘッドスペース GC/MS	Agilent Technologies
LC/MS	Agilent Technologies
分析、分取 LC	Agilent Technologies

沖縄の伝統的蒸留酒「泡盛」の調査研究



氏名： 玉城 康智 / TAMAKI Yasutomo E-mail: tamaki@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(農学)

所属学会・協会： 日本農芸化学会、日本生物工学会、日本醸造学会、

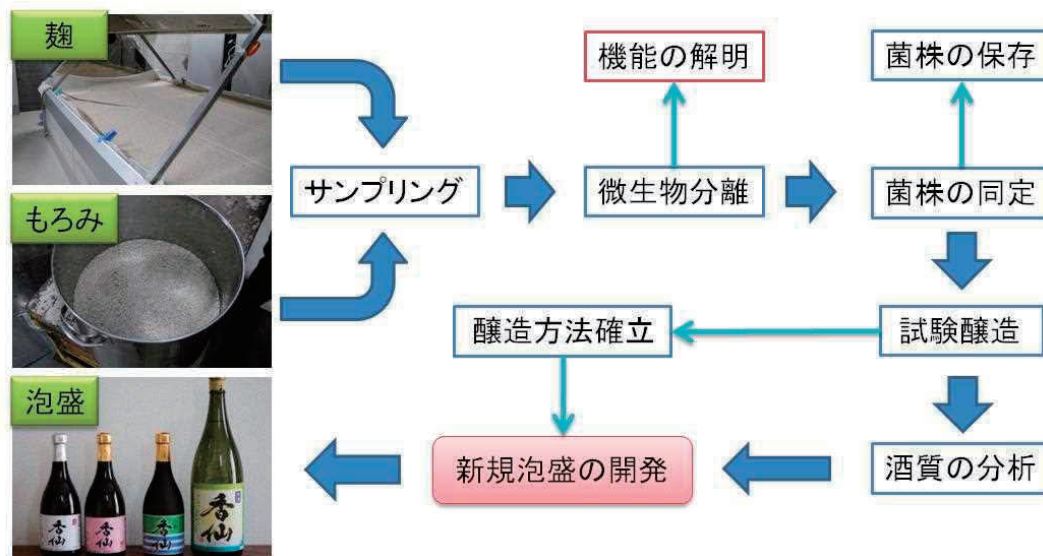
キーワード： 泡盛、発酵、微生物、黒麹菌、泡盛酵母

技術相談
提供可能技術：
・泡盛全般(黒麹菌、泡盛酵母、乳酸菌)
・香気成分の分析
・酒類製品開発
・新規発酵食品の開発

研究内容： 泡盛の酒質に影響を及ぼす微生物の探索

<泡盛醸造に関する微生物>

泡盛とは、麹(黒麹菌)、酵母(主に泡盛酵母)、水を原料とした沖縄の伝統的な蒸留酒である。泡盛醸造に使用されているこれら2種類の微生物以外にも泡盛酒質に影響を及ぼしている微生物は多いと思われる。そこで、泡盛醸造に関わる全ての微生物を把握することで安定した泡盛醸造を可能とし、また新たな酒質の泡盛醸造の開発を試みる。



【特許】

- ・高香味穀類蒸留酒の製造方法(特願 2006-172915)
- ・蒸留酒の製造方法(特願 2006-172915)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
ガスクロマトグラフィー質量分析装置 (島津製作所)	ヘッドスペースオートサンプラーシステム (Perkin Elmer)
液体クロマトグラフィー (島津製作所)	バイオフィットレコーダー (ADVANTEC)
示差走査熱量計 (島津製作所)	熱分析装置 (島津製作所)
ジャーファーマンター (高杉製作所)	クリーンベンチ (AIRTEC)
オートクレーブ (TOMY)	恒温恒湿器 (EYELA)

研究タイトル：

生物資源と光化学

氏名：濱田 泰輔 / HAMADA Taisuke E-mail: hamada@okinawa-ct.ac.jp

職名：教授 学位：博士(工学)

所属学会・協会：日本化学会, 錯体化学会, 電気化学会, 日本工学教育協会

キーワード：光化学, 物理化学, 錯体化学

 技術相談
 提供可能技術：

- ・光化学特性の測定
- ・太陽光照射実験
- ・超臨界流体抽出



研究内容：

[色素増感型湿式太陽電池]

エネルギー問題に関して、クリーンエネルギーとして風力、地熱等と共に太陽エネルギーを利用することは大変注目されている。太陽エネルギーをエネルギー源として発電する太陽電池はクリーンエネルギー利用として良く知られている。広く利用されている半導体であるシリコンを用いたものではなく、有機系太陽電池の代表である色素増感型湿式太陽電池の開発を行っている。

開発した太陽電池に太陽光シミュレーター(図1)から光照射(AM1.5G)し、太陽電池の発電の効率に及ぼす色素の影響を研究している。ここで用いる色素に関しては、光化学特性を評価することから、種々の光応答性化合物の光化学特性、物理特性の測定評価も可能である。

[超臨界流体抽出]

機能性物質のポリメキシフラボノイド類は柑橘類の果皮に多く含まれている。超臨界流体抽出装置(図2)を用いた、超臨界二酸化炭素抽出法を用いた抽出を検討している。この抽出法は比較的低温で抽出ができ、溶媒である二酸化炭素の残留が無いことが特徴である。



図1 太陽光シミュレータ



図2 超臨界流体抽出装置

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
太陽光シミュレーター (WACOM)	
超臨界流体抽出装置 (AKICO)	

研究タイトル：沖縄海洋生物の遺伝的多様性及び機能性評価と保全への応用



氏名：磯村尚子 / Naoko Isomura E-mail: iso@okinawa-ct.ac.jp

職名：准教授 学位：博士(理学)

所属学会・協会：日本動物学会、日本サンゴ礁学会、日本生態学会

キーワード：造礁サンゴ、生殖、繁殖生態、遺伝的分化・種分化

技術相談

提供可能技術：

- ・生物のジェノタイピング(遺伝子型解析)
- ・海洋生物の配偶子採取・交配実験・幼体飼育
- ・スキューバによる資源生物の採取
- ・16SrRNA を指標とした微生物群集解析(サブテーマ)

研究内容：

沖縄に生息する多様な海洋生物、特に生産者として重要な造礁サンゴについて、その遺伝的多様性と機能性を科学的に明らかにし、保全へ応用することを目標とする。

沖縄に生息する海洋生物を用いて、その遺伝的多様性と機能性を評価する。海洋性生物を形態および遺伝子レベルでその種および集団の多様性を明らかにする。機能性については、生物の内分泌系の経路を生理学的、分子学的解析および物質分析を行ない、生き物の生態に関連付けて評価する。研究対象とした海洋生物資源特有の遺伝的多様性および機能性が評価した後に、結果を用いて対象生物とその生物を含む生態系の保全対策を検討する。

提供可能な設備・機器： 遺伝子解析システム一式

名称・型番(メーカー)	
Capillary sequencer: CEQ8800 (Beckman Coulter)	Next Generation Sequencer MiSeq (illumine)

研究タイトル:

植物ストレス応答遺伝子クローニング

氏名: 三宮 一幸 / SANMIYA kazutsuka

E-mail: sanmiya@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授

学位: 博士(農学)

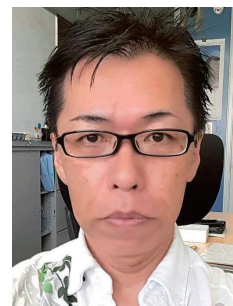
所属学会・協会: 日本植物生理学会, 日本分子生物学会

キーワード: ストレス応答遺伝子, イソプレノイド, 熱ショックタンパク質, サポニン

技術相談

提供可能技術:

- ・遺伝子クローニング
- ・遺伝子発現解析
- ・遺伝子組換え



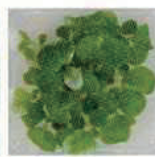
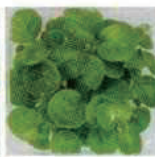
研究内容: 植物がストレスを受けた時に働く遺伝子の農業への応用など

- イソプレノイド合成系の鍵酵素 葉緑体型ファルネシルニリン酸合成酵素の遺伝子 を発見しました
イソプレノイドは 強光などのストレスから植物を守るとき に働きます
- 耐暑性タバコを 熱ショックタンパク質遺伝子組換え により作りしました (下図)
- サポニン合成酵素遺伝子 を発見しました
サポニンは キャベツ・ダイコン・コマツナ・チンゲンサイ・ハクサイ・ブロッコリーなどの害虫 コナガからの食害 を防御します
- 廃ガラスのケイ素成分を利用して イネの収穫量を24%増加させました

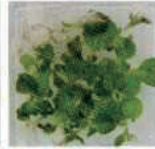
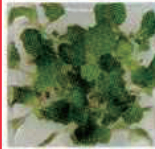
wild type vector control **耐暑性の遺伝子組換えタバコ** antisense

SR1 PBI MT1 MT2 MT3 RV1 RV2

46°C



48°C



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

電気泳動装置 Mupid (ADVANCE)

電気泳動解析装置 AE6933 (ATTO)

DNA 増幅装置 TP450 (TaKaRa)

研究タイトル:

食品等生物系材料に対する衝撃波加工技術の応用

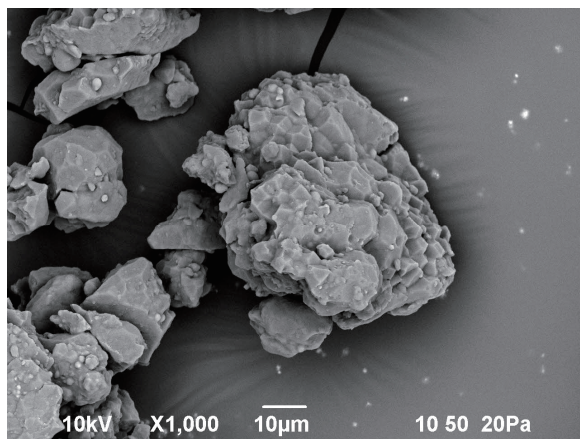


氏名:	嶽本あゆみ / TAKEMOTO Ayumi	E-mail:	tkmt@okinawa-ct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	日本高圧力学会, 日本調理科学会, MRS-J, 宝石学会(日本), 全日本博物館学会		
キーワード:	瞬間的高圧, 米粉, 非加熱殺菌, 精油, 衝撃成型, ハンズオン標本		
技術相談 提供可能技術:	・生物系材料への衝撃波利用 ・衝撃波による非加熱製粉・非加熱殺菌 ・衝撃成型によるハンズオン標本の活用		

研究内容:

音速を超える速度で瞬間的に高圧を負荷すると、圧力媒体の密度変化面で、スポーリング破壊と呼ばれる特有の破壊現象が生じる。スポーリング破壊は数マイクロ秒程度の極めて短時間に作用するため、摩擦熱を生じない特徴がある。また、植物組織のように気泡を内在する対象に衝撃波を負荷すると、衝撃波通過後の気体の膨張により、物体を内部から破壊する。これらの作用を利用することで、食品の非加熱粉体加工や非加熱軟化加工、精油などの植物成分の高効率抽出、芽胞菌を含む非加熱殺菌などの従来技術では困難な効果が得られる。

また衝撃波は“The Explography”と呼ばれる金属成型技術としても活用でき、静圧プレス加工では用いることが困難な植物などの素材を金属板に立体成型することが可能である。この成型品は博物館におけるハンズオン展示や、盲学校における教材などに応用可能である。



瞬間的高圧処理により製粉した米粉



衝撃波成型による金属製植物標本

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
高分解能クリープメータ・RE2-33005C(株) 山電)	
低真空走査型電子顕微鏡・JCM-6000(日本電子(株))	

研究タイトル：

沖縄産微生物の有効利用

氏名：	田邊 俊朗 / Toshiaki TANABE	E-mail：	tanabe@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(農学)



所属学会・協会：	日本農芸化学会、日本生物工学会、日本キチン・キトサン学会、 日本きのこ学会、日本菌学会、沖縄生物学会
----------	---

キーワード：	糖質加水分解酵素、放線菌、木材腐朽菌、抗腫瘍、生理活性
--------	-----------------------------

技術相談 提供可能技術：	・バイオマスの成分分析 ・糖質加水分解酵素の活性測定と探索 ・環境浄化微生物の探索
-----------------	---

研究内容： 沖縄産有用微生物の探索と応用

- ・ 沖縄県土壌ライブラリの構築
沖縄県内の各離島を含む約 2600 カ所から採集した土壌ライブラリを有し、ここから様々な生理活性や酵素活性を指標に種々の微生物を単離している。沖縄県は亜熱帯性の気候であり他の地域よりも生物的多様性が高いとされる。この多様性の高さは土壌中の微生物にも及んでいると推定され、未だ単離されず有効利用されていない微生物から新たな酵素や生理活性物質が見つかることが期待される。
- ・ 土壌微生物ライブラリの構築
各土壌試料より単離した微生物群により沖縄高専独自の土壌微生物ライブラリを構築している。現在、アルカン類資化性細菌約 500 株、シデロフォア様物質産生菌約 500 株、放線菌約 1,700 株、担子菌類約 500 株を単離、保存している。これらの産生する生理活性物質や酵素についてその性質を明らかにし、産業応用していくことを目的としている。さらに酵母やカビなどの真菌類および乳酸菌などの単離も進めている。
- ・ 生理活性物質ライブラリ
構築した土壌微生物ライブラリから各種の生理活性物質や酵素のライブラリを構築しつつある。例えばシデロフォアは、微生物が産生する鉄キレート剤であるが、これを応用し鉄欠乏による生体内局所的抗がん作用が期待される。現在は HeLa 細胞などで抗がん性作用を示す物質のスクリーニングを行っている。

バイオレメディエーションへの応用

アルカン類資化性細菌類は、軽油・重油・原油など油の分解能力に優れており、高専で保管する選抜菌株も、石油等による土壌汚染の浄化剤として期待できる。これらはトン単位の模擬汚染土を用いる実証試験の段階に入っている。また担子菌類の中には、高選択的に木質中のリグニンを分解する白色腐朽菌が含まれており、これらの保存菌株はリグニンに類似構造を持つダイオキシンや PCB で汚染された土壌の浄化へ応用できる。実際に沖縄高専が保管する白色腐朽菌を用いたダイオキシン分解工法の特許が認められた。(特許第6524213号)

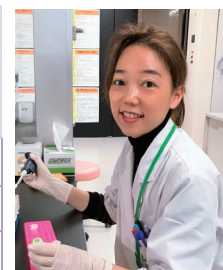
提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
大型恒温振とう培養機バイオシェーカーG・BR-200(タイテック)	
スラブ型電気泳動槽(小型、中型、大型)(GE ヘルスケア)	

研究タイトル：

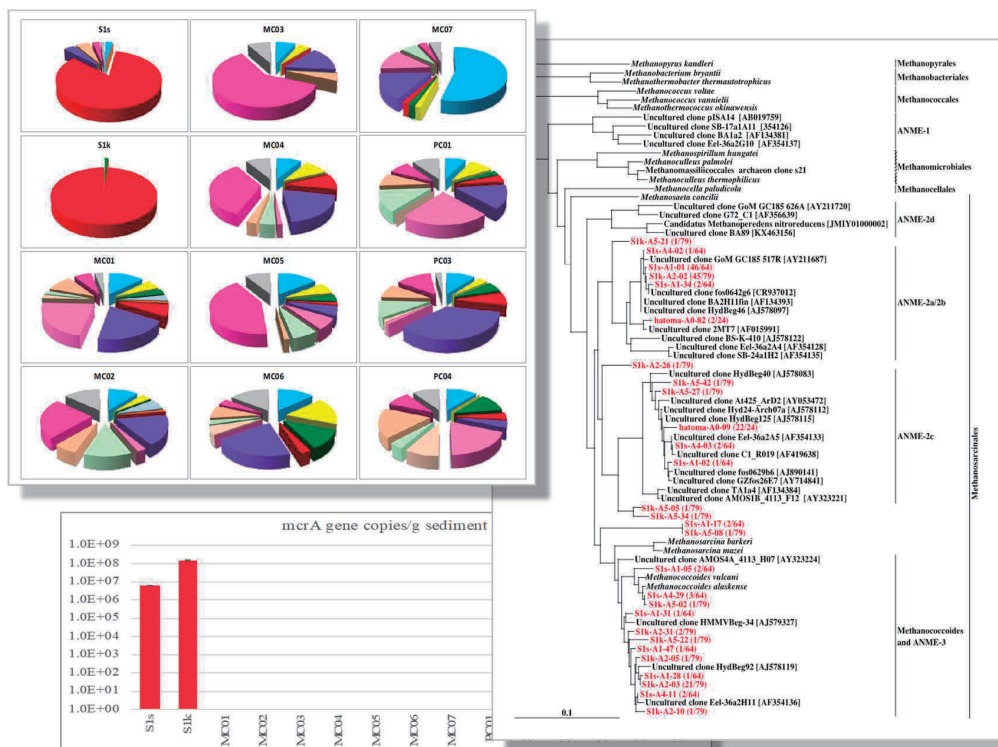
環境 DNA

氏名：	沖田 紀子 / OKITA Noriko	E-mail：	okita.n@okinawa.ct-ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	土木学会		
キーワード：	分子生物学		
技術相談 提供可能技術：	・菌叢解析 ・系統解析 ・遺伝子定量		



研究内容： 環境中に存在する生物を、DNA で検出します。

主に、微生物の群衆構造解析、遺伝子定量などを行ってきました。環境浄化に有効な微生物が増えていることは、その場所の浄化処理がうまく進んでいる指標になります。また微生物以外にも、絶滅が懸念される水生生物の検出等も遺伝子が有効です。例えば、工事現場周辺の湿地にいたサンショウウオが、工事後にちゃんと生存しているか、等です。下に示した図は、海底堆積物中に存在する ANME (嫌氣的にメタンを資化する古細菌) を検出したデータです。円グラフ中の赤色が ANME です。2ヶ所の海底堆積物試料で ANME が優占しているのがわかります。また、それらの ANME が、古細菌のどの系統なのかを系統樹に示し、さらに海底堆積物 1g あたりの遺伝子コピー数を棒グラフで示してあります。メタンは強力な温室効果ガスですが、大気に届く前に、ANME などの微生物によってその多くが消費されます。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
サーマルサイクラー (analytik jena 社製、Biometra TOne)	
リアルタイム PCR (analytik jena 社製、qTOWER ³)	
次世代シーケンサー (illumina 社製、MiSeq)	

研究タイトル：

南西諸島におけるササラダニ類の多様性解明

氏名：萩野 航 / HAGINO wataru

E-mail: hagino@okinawa-ct.ac.jp

職名：助教

学位：博士(理学)

所属学会・協会：日本ダニ学会，日本動物分類学会，日本土壌動物学会

キーワード：土壌動物，ササラダニ類，生物指標，生態学，系統分類学

技術相談

提供可能技術：

- ・土壌動物(特にササラダニ類)の記載分類，多様性調査
- ・土壌動物を用いた環境評価法の開発
- ・身近な環境にすむ生物の多様性に関する体験授業など



研究内容：

ササラダニ類(図 1)は全世界の陸域に分布する、体長約 0.5 mm の小型土壌動物である。有機物分解・物質循環に大きく貢献し(Seastedt, 1984)、指標生物としての利用なども行われている(Shimano, 2011)。ササラダニ類は、これまで世界中から 10,000 種以上が報告されており(Subias, 2014)、日本からも約 750 種が報告されている、非常に種多様性が高いグループである。



図 1. 多様なササラダニ類

沖縄本島を含む南西諸島は亜熱帯地域特有の種を多く含む特徴的な地域であり、ササラダニ類を含む土壌動物において大いに研究の余地を残す魅力的な地域といえる。過去に沖縄から新種のササラダニを記載しているが、まだまだ発見されていない未知の生物種が数多く生息していると考えられる。本研究では、沖縄を中心に南西諸島における土壌動物の多様性を明らかにしていくことを目標とし、形態学的・分子生物学的手法を用いて土壌動物類の多様性を明らかにしていく。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

森田双対をもつ環の研究



氏名： 小池寿俊 / KOIKE Kazutoshi E-mail: koike@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本数学会、情報処理学会

キーワード： 非可換環、森田双対、準フロベニウス環

 技術相談
 提供可能技術：

- ・環論を中心とした代数に関する理論
- ・数学の一般向け講演

研究内容：

非可換環(必ずしも積の可換性を仮定しない、単位元をもつ結合的環)の研究を行ってきた。最近では、森田双対や自己双対をもつ環に興味をもち、調べている。森田双対とは、 R と S を環とすると、左 R 加群の圏と右 S 加群の圏のある種の部分圏の間の双対(反変圏同値)である。森田双対の最も典型的な例は、体上の有限次元ベクトル空間の通常の双対空間による双対である。このように、 $R=S$ のとき、森田双対は自己双対と呼ばれる。どのような環が自己双対をもつかという問題を研究している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

Einstein 方程式の時間大域解の存在証明 とその漸近的振舞の解析



氏名： 成田 誠 / NARITA Makoto E-mail: narita@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本数学会, 日本物理学会, 国際一般相対論及び重力理論学会

キーワード： 一般相対論, 時空特異点, ブラックホール, 相対論的宇宙論, 非線型偏微分方程式

 技術相談
 提供可能技術：

- ・相対論をはじめとする理論物理学で扱われる計算
- ・物理学・数学の一般向け講演

研究内容： Einstein 方程式の時間大域解の存在証明とその漸近的振舞の解析

一般相対論及び偏微分方程式

- ・Einstein 方程式の時間大域解
- ・特異点定理
- ・時空特異点と宇宙検閲仮説
- ・初期特異点とBKL予想

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

カハル・オ・シャルキー研究



氏名：	星野 恵里子 / HOSHINO Eriko	E-mail：	hoshino@okinawa-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士(文学)
所属学会・協会：	日本アイルランド協会 日本エイツ協会		
キーワード：	ウィリアム・ブレイク グノーシス主義 ウィリアム・バトラー・エイツ アイルランド語 カハル・オ・シャルキー		
技術相談 提供可能技術：	・英語 ・イギリス文学 ・アイルランド文学		

研究内容：

・ウィリアム・ブレイクの作品群をたどっていくと、ある時期にグノーシス主義の影響が色濃くみられることがわかる。この傾向は、たとえば *Songs of Experience* に始まり、預言書のある時期まで続く。であるならば、それはいつごろまでこの傾向が続き、なぜ最終的にはブレイクはグノーシス主義を利用することをやめたのか。そのヒントとなる作品が *Vala, or The Four Zoas* にあるように思われる。そこで、本作品を構成している「9つの夜」を解析しながら、本テーマを考察したい。

・アイルランド文学の父とも言われているウィリアム・バトラー・エイツに与えたウィリアム・ブレイクの影響はかなり大きいことは明白であるが、エイツは自分の思想の発展のためにブレイクを利用していた感がある。たとえば、作品の多くの箇所に言及されている「薔薇」のイメージであるがこれはほとんどが、ジョン・キーツからの借用であることが指摘されている。しかしながら、ブレイクの *Songs of Experience* には有名な「The Sick Rose」という作品があり、エイツは意図的にブレイクの薔薇のイメージを無視していたと考えられる。それはどのような意図のもとに無視されたのか、拡大すれば、ブレイクにあって特徴的でありながらエイツに無視されていた概念はどのようなものがあるのだろうか。ともすればその類似点ばかり強調されるこのブレイクとエイツの決定的な相違点は何か。また、「文学史」というより大きなコンテキストの中で、ブレイクやエイツの薔薇観はどのような意味を持つのであろうか。

・アイルランドは数百年間にわたり英国を宗主国としてあおいでいた。本来、アイルランドには「アイルランド語」という英語とは全く異なる言語があったが、英国植民地時代はアイルランド語使用を禁止され、英語使用を強制されていた。その影響は文学にも色濃く残り、アイルランド文学の父といわれるエイツや、ほかのメジャーな文学者でさえ、英語で作品を執筆している。しかしながら、アイルランド語で執筆される文学は依然として存在している。アイルランド語で執筆する現代詩人のひとりに、カハル・オ・シャルキーがいる。彼は自分がゲイであることを表明した最初のアイルランド語詩人としても知られている。オ・シャルキーにおけるアイルランド語とは何であるのか、英語とはいかに異なるのか、彼の恋愛詩は果たして男性対男性のものなのか、などを詩人の作品をほかの言語を介さずにアイルランド語で読解しながら研究する。

共著「カハル・オ・シャルキー」 木村正俊編『アイルランド文学』（開文社出版株式会社）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	

研究タイトル:

リーマン面の正則族とタイヒミュラー空間

氏名: 山本 寛 / Yamamoto Hiroshi E-mail: yamamoto@okinawa-ct.ac.jp
職名: 教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: リーマン面, タイヒミュラー空間

技術相談
提供可能技術: ・リーマン面
・タイヒミュラー空間



研究内容:

一次元複素多様体をリーマン面という。複素数平面もリーマン面の一種である。リーマン面は複素数平面の様に平らではない曲面に対して、複素関数の微積分の概念を導入したものと考えることができる。リーマン面には様々な形をしたものが考えられる。リーマン面のなかでも g 人乗りの浮き輪の形をしたリーマン面を「種数 g のコンパクトリーマン面」という。 g 人乗りの浮き輪といっても様々な形が考えられるのと同様、種数 g のコンパクトリーマン面は (g を一つ固定した場合でも) 無限に沢山存在する。種数 g のコンパクトリーマン面の双正則同値類全体を種数 g のコンパクトリーマン面のモジュライ空間という。モジュライ空間には自然に複素解析構造が導入される。パラメータ空間としてリーマン面 R を考える。 R の任意の点 p に対して、ある種数 g のコンパクトリーマン面 $S(p)$ が p に対して正則に対応しているものとする。この様に、パラメータ空間として考えるリーマン面 R の点 p によって正則にパラメータ付けされた種数 g のコンパクトリーマン面 $S(p)$ の集まりを「種数 g のコンパクトリーマン面の正則族」という。リーマン面の正則族は、複素解析学の重要な研究対象の一つである。リーマン面の正則族を調べる上で、タイヒミュラー空間が重要な役割を果たす事が知られている。リーマン面の正則族の個数の有限性は、未だ完全には解決されておらず、この分野の大きな未解決問題の一つである。私はリーマン面の正則族やその正則断面の個数の有限性を調査する為、特にリーマン面の正則族の具体的な重要な例について調べている。

種数 2 のコンパクトリーマン面



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

「自覚」に関する哲学的研究



氏名: 青木 久美 / AOKI Kumi E-mail: aoki@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 東西宗教交流学会、比較思想学会、西田哲学会、日本宗教学会、日本トランスパーソナル心理学/精神医学会

キーワード: 空、絶対無、自覚、ナーガールジュナ

技術相談
提供可能技術: 仏教研究
ナラティブ・セラピー
通訳ガイド

研究内容:

研究内容: 自己とは何かというテーマについて比較哲学的、心理学的に追及しています。また、自己と他者との関係や自己と世界との関係、心と体の関係についても考察しています。

これまでの研究では、ナーガールジュナ(龍樹)の「中」の論理、西田幾多郎の場所的弁証法、ヘーゲルの過程的弁証法、フッサールの現象学、ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論、デリダの脱構築、ケン・ウィルバーの進化論などを、比較対象として取り扱いました。

哲学のほか、沖縄では英語も教えております。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

地形学的手法を用いた環境変遷史の解明

氏名: 木村 和雄 / KIMURA, Kazuo E-mail: kimura@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 東北地理学会、日本地質学会、ネパール地質学会ほか

キーワード: 地理学、地形学、第四紀地質学

技術相談
提供可能技術: 地形図、空中写真、google earth などを用いた地形判読技術、地表踏査法

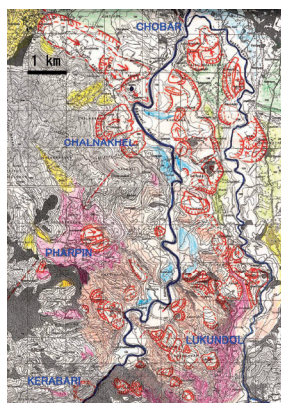
研究内容:

臨海低地における微地形変化とイベント堆積物



左の写真はヤンバルの小さな川、大浦川沿岸に打ち上げられたサンゴの遺骸です。浅い海底に棲む造礁サンゴの塊が内陸まで運ばれる要因として、最も有力な現象は津波です。このような堆積物の性質、分布や年代などを調べることで、地形変化(人間にとっては災害)の解明を目指しています。このサンゴは西暦 1950 年以降に死んでいて、地下には埋没していなかったことから、1960 年チリ地震津波で遡上したと考えられます。

巨大地すべりはなぜ起きるのか?



上の写真はネパール、カトマンドゥ盆地南縁の地すべり密集地、右はその付近の判読例です。滑落崖の長さが1km に達するような大きな地すべりは、数が少なく、発生要因もよくわかっていません。そこで巨大地すべりの世界的な分布や形成事例を検証しています。これ、沖縄の地形・骨格を知る上でも重要な筈です。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
特に無し	

研究タイトル： (1) 近代日本の芸能の諸相 (2) 文化と社会



氏名：	澤井 万七美／SAWAI Manami	E-mail：	sawai@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本演劇学会・芸能史研究会		
キーワード：	演劇、芸能、近代、日本、文化と社会		
技術相談 提供可能技術：	公開講座		

研究内容：

最先端のデジタルアートから数百年の歴史を有する伝統芸能まで、日本は実に幅広い文化を保持している。明治維新以後、西洋文化の流入を受けて、新しいタイプの演劇・芸能が次々に誕生した。そうした流れの中、統芸能の多くが、西洋文化と共存する形で受け継がれてきた。さらには、「映画と琵琶」など、両者のコラボレーションがさまざまな形で試みられ、人々の心を躍らせてきたのである。このような事例は、日本人の柔軟な精神構造がよく反映されているものと考えられる。こうした日本文化の多様性を、当時の雑誌や語録などから読み解いていく。

また、文化が社会全体にどのような波及効果をもたらすのかについても展望する。沖縄高専においては、専攻科生に対して「文化と経済・産業」というテーマを掲げ、感性価値を活かしたものづくりプロジェクトの発案を促す講義を行っている(2009～2010年、2012～2014年)。

<公開講座等実績:>

- ◆「日本文化を感じよう ～ながとからの波～」企画・実行委員、映像解説(ルネッサながと・東亜大学共催 早稲田大学演劇博物館後援／山崎正和講演会・中村歌右衛門家所蔵映像上映会・東亜大学生による劇場案内ツアー／2000年12月)
- ◆「県民活動ワークショップ実践セミナー」運営委員・セミナー講師(山口県／2001～2002年)
- ◆「宇部市ボランティアカレッジ」講師(宇部市／2001～2002年)
- ◆「男女共同参画いきいきセミナー」講師(岩国市教育委員会／2003年)
- ◆「神田川川づくり検討委員会」学識委員(下関市／2003年)
- ◆「災害発生—そのとき私たちは—」(沖縄高専第一回生涯学習講座 企画・実行／2011年)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

琉球王国時代の仏教文化研究



氏名： 下郡 剛/Shimogori Takeshi E-mail: takeshi@okinawa-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 立正大学史学会他多数

キーワード： 琉球史・日本史

技術相談

提供可能技術：

・なし

研究内容：

- 研究分野 ・久米島上江洲家文書の研究
- シーズ ・近世琉球寺院の社会的機能の研究
- (琉球史) ・近世・近代期の家譜・位牌・厨子臺銘書などを 用いた系譜復元
- (日本史) ・院政期の国家意志決定システムの研究
- ・公家成文法の復元と社会的意義の研究

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

二階算術におけるゲームの決定性



氏名: 吉居啓輔 / Yoshii, Keisuke E-mail: kyoshii@okinawa-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(理学)

所属学会・協会: 日本数学会

キーワード: 数学基礎論, ゲームの決定性

技術相談
提供可能技術: ・公開講座等

研究内容:

私の研究のテーマの一つは『複雑さを分類する』ということです。私たちが日頃から使っている実数ですが、まだまだ多くの性質が謎に包まれています。私の研究では仮想的なゲームを用いて、これまで明らかにされていない実数の性質を明らかにすることを目的としています。

キーワードの中の『ゲーム』というのは、仮想的な2人のプレーヤーによってプレーされるゲームです。このゲームでは囲碁や将棋のように勝ち負けを競うことが目的ではありません。このゲームは、数学上極めて抽象的な性質を持つ集合を、一定のルールに従ったゲームの中で構成することを目的としています。しかも、そのゲームのルールは、(論理的な複雑さの点において)構成される集合に比べ単純です。数学的に抽象的な性質を持った集合が、比較的単純な規則によって構成されているというような、複雑な事象を単純に整理・分類するということに強い興味をもっています。

複雑な対象を異なる観点から分類・整理するというような数学的な技術は学生が将来産業界で活躍する上でも重要な能力の一つであると考えています。沖縄高専では学生自身の問題意識に沿った創造性溢れる課題研究を行うことを目的として「創造研究」を実施しています。具体的な学習目標を立て、試行錯誤することを楽しみながらその目標を達成することができるような人材を育てたいと思っています。

研究活動で得られた技術や考え方を、教育を通して沖縄、延いては日本の産業に貢献することは私の大きな目標です。そのためにも、どのような人材が必要とされているのか、また必要とされていくのかを、産業界で実際働かされている方々のご意見を伺いながら模索していきたいと考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

スポーツキャリアの観点からみた トライアスリートの競技導入に関する研究



氏名：	和多野 大 / Dai Watano	E-mail：	watano@okinawa-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(体育学)
所属学会・協会：	日本体育学会・日本スポーツ心理学会・九州スポーツ心理学会		
キーワード：	競技心理・運動学習・メンタルトレーニング		
技術相談 提供可能技術：	スポーツメンタルトレーニング		

研究内容：

トライアスロンは、オープンウォーターにおける競泳競技(スイム)、自転車ロードレース(バイク)、陸上競技ロードレース(ラン)を、この順序で連続して行う競技である。スイム・バイク・ランそれぞれがすべて持久系種目であるため、近年では有酸素運動を主体とした生涯スポーツとして国内外に普及している。しかし「鉄人レース」との異名から、往々にして非常に過酷な競技として認知され、競技導入に関しては一般に理解されがたい一面を持つことがしばしばである。研究では、スポーツキャリアの観点からみたトライアスロン競技者(トライアスリート)の競技導入の経緯を手がかりに、トライアスリートの競技心理特性を明らかにしようと試みている。また、スポーツにおける心理面での競技力＝心理的競技能力の向上を核としたメンタルトレーニングを中心とするメンタルサポートの実施・検討を行い、現役選手への心理面におけるサポートを行っている。これまでトライアスリートの他に、競泳選手・陸上競技選手・プロボクサーなどを対象にメンタルサポートを実施し、効果をあげた。

運動学習の研究では、フィードバック制御の概念を用いた運動学習を通じ、適応制御の仕組みの解明を試みている。研究の最終目的は運動学習を応用したスキルサポートおよびコーチングによる競技力向上であり、基礎的研究を重ね、スポーツ指導の現場で適用している。現在の指導は高専の部活動レベルであるが、今後エリート選手を対象とした指導へと幅を拡げていくつもりである。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

中世日本語における原因理由表現



氏名: 片山 鮎子 / KATAYAMA AYUKO E-mail: ayuko.k@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師 学位: 修士(文学)

所属学会・協会: 訓点語学会・岡山民俗学会

キーワード: 文学・国語学

技術相談

提供可能技術:

- ・
- ・
- ・

研究内容:

中世の日本語における条件表現のうち、順接の確定条件表現に関する接続助詞について研究している。
たとえば、「ホドニ」「ニヨッテ」「ユエ」「ユエニ」「已然形＋バ」「ヲモッテ」といった表現が中世から近世にかけて文章や会話の中で使われている。これらは現代でいう「カラ」「ノデ」といった表現と同じように原因理由を表しているのだが、それぞれの表現形式がどのような役割と違いをもっているのか、ひとつの資料の中でどのように使い分けられているのかを調査、分類していく。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル: English as a Foreign Language ・ Foreign Language Classroom Anxiety



氏名: カーマン マコア / CARMAN Makoa E-mail: makoac@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師 学位: 修士 (教育学)

所属学会・協会: The Japan Association for Language Teaching (JALT)

キーワード: 第二言語としての英語教育、外国語クラスルーム不安 (FLCA)、

技術相談

提供可能技術:

- ・オーラルコミュニケーション指導
- ・カリキュラムデザイン
- ・英語学習者に対する英語指導

研究内容:

英語学習者に対し、オーラルコミュニケーションに焦点を当てた英語教育。

日本の多くの学生 (英語学習者) は英語を話すことに対し否定的な感情を持つ傾向にあり、外国語クラスルーム不安 (Foreign language classroom anxiety=以下 FLCA) は英語学習者のみならず、多くの言語学習者がぶち当たる壁だといっても過言でもない。FLCA とは言語学習は第二言語を学んでいく段階で感じる不安のことで、一例として

- ・言語 (英語) 学習に対するモチベーションや意欲の低下
- ・英語を習得するという大きな課題・目標に対する絶望感
- ・クラス内での (発話、テスト、間違い等に対する) 恐怖感

等が挙げられ、このような情意要因が外国語学習の達成に影響していると考えられる。

英語学習者の FLCA を軽減するテクニックに関する研究を行い、英語学習者に対しクラスルーム内でのモチベーションアップにつなげていきたいと考える。また、FLCA を解消するために、催眠療法の応用をも視野に入れ、それを可能にするためにも催眠療法の使用法について探究も進めていきたい。

Teaching English language learners (ELL) with a focus on oral communication.

Many students in Japan associate speaking English with negative emotions. Foreign language classroom anxiety (FLCA) is an obstacle many ELLs never overcome. FLCA may result in a lack of motivation to study, feelings of hopelessness, panic, or withdrawal in the classroom.

I plan to research techniques to reduce the anxiety and improve the motivation of ELLs in EFL classrooms. I would like to explore the use of hypnotherapy to reduce anxiety and increase motivation and the possible application of hypnotherapy in the reduction of FLCA.

提供可能な設備・機器:

名称・型番 (メーカー)	

研究タイトル:

琉球諸語・国頭語・本部町諸方言の記述文法

氏名:	崎原 正志 / SAKIHARA Masashi	E-mail:	mashi_s@okinawa-ct.ac.jp
職名:	講師	学位:	博士(学術)
所属学会・協会:	沖縄言語研究センター、琉球アジア社会文化研究会、やんばる学研究会、沖縄外国文学会、日本語文法学会、日本語学会、沖縄県難聴・中途失聴者協会(現:美ら島きこえ支援協会)		
キーワード:	記述文法(音韻論・形態論・構文論)、琉球語学、日本語学、危機言語		
技術相談 提供可能技術:	・幼児および小中学生を対象にしたウチナーグチ(沖縄語)の授業 ・言語を記録し、保存する方法(ドキュメンテーション)の指導 ・英語で琉球諸語や沖縄語について授業(特に多様性・危機的状況について)		



研究内容: 琉球諸語(特に国頭語および沖縄語)を対象としたフィールドワークおよび文法記述

【現在の研究・展望(更新)】

現在、国頭語に属する本部町内で話されるシマクトゥバを対象に調査を実施中である。山里および具志堅集落においては調査が進行中で、今後、本部町内の17あるすべての伝統集落において調査を行う予定である。また、屋取集落と呼ばれる新設集落のシマクトゥバについてはどの地域においてもほとんど研究がなされていない。したがって、新設集落のシマクトゥバについても調査を実施する予定であり、本研究の特徴でもある。

【きっかけ】

学生時代、英語教育を通して、海外に興味を持ち、高校生のとき米国本土に留学、その後、ハワイに留学したことをきっかけに、故郷である沖縄について深く考えるようになった。印欧語以外の言語にも触れたいと強く感じ、韓国留学も果たしたが、そこで今まで以上に自分がウチナーンチュ(沖縄の人)だと再認識することとなった。英語や韓国語を学ぶことを通して、遠回りではあったが、沖縄の言葉を学ぶ必要性により気づき、危機的な状況にある沖縄の言葉を残していきたいという気持ちから、標記のような研究内容に行き着いた。

【研究背景】

琉球列島には、7つの危機言語が存在している(奄美・国頭・沖縄・八重山・宮古・与那国・八丈語の7つ)。その7つの言語を総称してシマクトゥバあるいは琉球諸語(八丈語を除く)と呼んでいる。多くの話者は、80歳以上の高齢者で、全員が日本語とのバイリンガルであり、その中でも日常的に使用している人は限られている。日本語の影響による変化により、伝統的な言い回しや表現、文法形式を保持している人も減ってきている。沖縄県のシマクトゥバ推進事業やNPO法人・個人の活動家による言語復興運動が盛んになってきてはいるが、一向に、シマクトゥバの危機的な状況は大きく変わってはいない。研究者は、このような状況をフィールドワークを通じてよく熟知しており、北は奄美から南は与那国まで個々の集落のシマクトゥバの記録・保存に勤しんでいる。

【これまでの研究】

修士および博士論文では、沖縄島那覇市の北東に位置する首里地区で話されるシマクトゥバ(首里方言)を対象に、フィールドワークを実施、終助詞(「よ」「ね」のような文末につく助詞)やモダリティ(「命令」「質問」など文全体が表す意味・発話の目的)について詳細に分析を行い、網羅的に文法記述を行なった。

崎原正志・狩俣繁久他(2012) *Rikka, Uchinaa-nkai! Okinawan language for beginners*



英語でウチナーグチが学べる教科書

【研究に関わる活動】

シマクトゥバや沖縄に関わる書籍の翻訳・シマクトゥバを子供向けに教える活動・シマクトゥバによる絵本の読み聞かせ・英語でウチナーグチが学べる教科書(写真)の作成・編纂・出版、など。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

コーチング

氏名： 島尻 真理子 / SHIMAJIRI Mariko E-mail: shimari5@okinawa-ct.ac.jp

職名： 講師 学位： 修士(スポーツ学)

所属学会・協会： 日本ハンドボール学会

キーワード： スポーツ科学、コーチング、ハンドボール

 技術相談
 提供可能技術：

- ・ハンドボール
- ・コーチング
- ・レフェリング



研究内容：

〈1〉

走・跳・投の基礎運動能力を必要とするハンドボール競技では、相手より1点でも多く点を取ることが求められる。この点を取るという「成功」を得るために、チームは、日々の体力・技術・戦術等のトレーニングが必要不可欠である。その中でも、実際に点を取るための戦術ならびにその指導方法に着目し、チーム状況やゲーム状況に応じた戦術の体系化や合理的な指導方法の研究を行い、ハンドボール競技の指導における一助とする。

〈2〉

スポーツにおける競技力向上には、「強化」はもちろん、その裾野を拡げるための「育成」が求められる。これに加え近年では、そのゲームを公正・的確にジャッジすることが求められる「レフェリー」の存在も、注目されている。ハンドボールにおいても過言ではなく、プレーヤー強化および指導とレフェリー強化が両輪となり、世界と戦うためのチームを目指している。しかし、レフェリーに関する研究は進んでいないのが現状である。そこで、レフェリーがゲームに及ぼす影響、レフェリングの実際の研究を行うことで、最終的にレフェリーの育成システムの構築を目指す。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

異文化理解の英語教育への応用



氏名: 山内祥之 / YAMAUCHI Yoshiyuki E-mail: yamauc-y@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師 学位: 修士(人類学)

所属学会・協会: 沖縄英語教育学会

キーワード: 文化人類学、異文化理解、英語教育

技術相談

提供可能技術:

- ・英語教育
- ・国際共通語としての英語
- ・異文化理解
- ・アイデンティティ構築

研究内容:

(研究予定)

- ・英会話活動が英語のスピーキング能力に与える影響
- ・授業内で実践が可能な日本人学習者どうしの英会話活動の開発
- ・異文化理解の視点を通じた英語技能の発達
- ・「国際共通語」としての英語の許容と英語使用における「抵抗感」の軽減

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

スピーチ・プレゼンテーション教授法

氏名: 吉井 りさ / YOSHII, Risa

E-mail: ryoshii@okinawa-ct.ac.jp

職名: 講師

学位: 修士(教育カウンセリング学)

所属学会・協会: 沖縄英語教育学会

キーワード: 教育カウンセリング、教授法

技術相談

提供可能技術:

- ・スピーチ・プレゼンテーション・ディベート教授法
- ・オーラルコミュニケーション
- ・モチベーショナル・ラーニング



研究内容: モチベーショナル・ラーニング

英語を専門としない高専生に、英語を用いたプレゼンテーションやスピーチ・ディベートを習得させるには、「学生への動機付け」がポイントになります。学習へのモチベーションの高め方にはいろいろな方法がありますが、個人個人の英語の習熟度に関わらず、学生は自分の意見を述べる機会を与えられると、「クリエイティブな表現をする自信 (Creative Confidence)」を得て、学習へのモチベーションが上がる傾向にあります。

ですから、「英語が使える技術者・科学者」の育成を目標に、「できる限り英語を英語で教え (Teaching English in English)、生徒が発話しやすい生徒中心型の授業 (Student-Centered Communicative Classes)」を展開し、英語を知識偏重型ではなく、「グローバルコミュニケーションのツール」として教える研究をしています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

沖縄特有の素材に含まれる機能性成分や精油などの
分析・評価解析

氏名: 蔵屋英介 / Eisuke KURAYA E-mail: kuraya@okinawa-ct.ac.jp

職名: 技術専門員・副技術長 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 電気化学会、農芸化学会、International Symposium on Essential Oils (Permanent Scientific Committee)

キーワード: 精油化学、機器分析、多変量解析、食品機能性、計測制御、装置開発

技術相談
提供可能技術:

- ・生物資源、食品等の機能性成分の分析・評価
アミノ酸、ミネラル、重金属類、ノビレチン等のフラボノイド類、アントシアニンなど
- ・香気成分の分析・評価、各種成分の系統解析



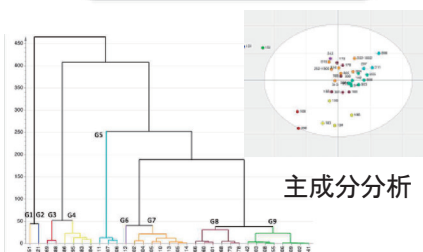
研究内容:

沖縄特有の素材に含まれる機能性成分や精油などの分析・評価解析

特徴的な生物資源



熱脱着-GC/MS分析システム



主成分分析

特徴ある新規商品の開発



ハイブリッド型精密質量分析装置
タンデム型質量分析計

機能性成分の分析・評価

提供可能な設備・機器:

名称・型番 (メーカー)	
超高速液体クロマトグラフィー／タンデム型質量分析計	Waters 社 AQUITY UPLC / QuatroMicro
ハイブリッド型精密質量分析装置	Waters 社 AQUITY UPLC / Xevo G2-S QTof
誘導結合プラズマ質量分析計(ICP/MS)	Agilent 7700e
サーマルデソープション/GCMS 分析システム	TD-20/GCMS-QP2010 Plus
マルチスペクトロマイクロプレートリーダー	Thermo Scientific 社 Varioskan Flash

研究タイトル：

装置開発、部品加工



氏名： 具志 孝 / GUSHI, Takashi E-mail: gushi@okinawa-ct.ac.jp

職名： 技術主査 学位： 学士

所属学会・協会： 機械学会

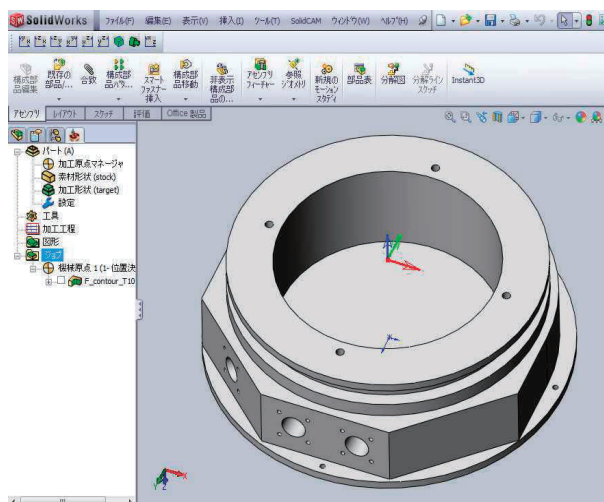
キーワード： CAD, CAM, NC 加工

技術相談

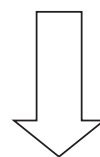
提供可能技術：

・機械加工

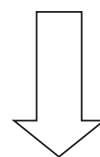
研究内容： 機械加工



CAD で部品(モデリング)データ、図面(ドロー)データもしくは手書きの図面を参考として見せてもらう。



沖縄高専にある工作機械で加工可能か検討する



加工可能なら加工を行う



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

MC・VARIAXIS 500-5X (Mazak)

ワイヤ放電加工機・FA10S (MITSUBISHI)

NC フライス・KE55 (MAKINO)

汎用機の装置一式

研究タイトル：

機械加工による試作品の設計・製作



氏名： 大嶺 幸正 / Omine Yukimasa E-mail: omin@okinawa-ct.ac.jp

職名： 技術専門職員 学位：

所属学会・協会：

キーワード： 機械加工, 汎用工作機械, マシニングセンタ, NC旋盤, CAD・CAM

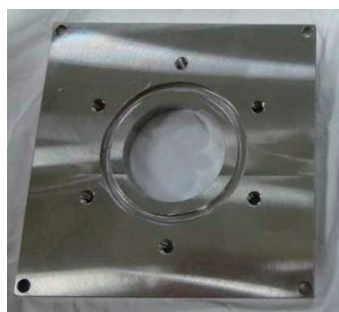
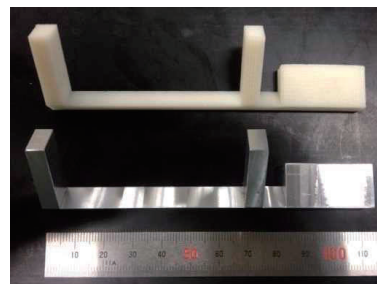
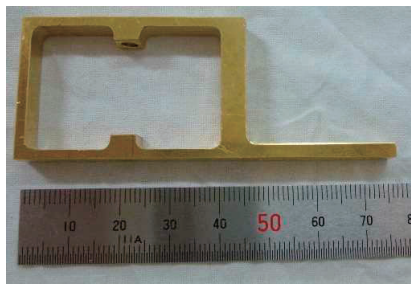
技術相談

提供可能技術：

- ・実験装置、試作品の設計・製作
- ・既製品への追加加工
- ・治具の製作
- ・CAD・CAM(SolidWorks・SolidCam)による3Dデータ、加工データの作成

研究内容： 製作品の製作

～加工事例～ ※大学・研究室からの加工依頼品



- ・金属・樹脂各種の試作品の製作また既存品への追加加工
図面から製作まで対応可能
- ・実験装置の設計製作
要望に合った理化学実験装置の開発・製作

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

NCフライス KE-55 (牧野フライス製作所)	
マシニングセンタ VARIAXIS 500-5X (マザック)	
NC旋盤 NL2500 (DMG森精機)	

研究タイトル：

高電圧電気放電を用いた水中衝撃波の生成

氏名： 比嘉 修 / HIGA Osamu E-mail: osamu@okinawa-ct.ac.jp

職名： 技術専門職員 学位： 博士（工学）

所属学会・協会： 電気学会

キーワード： 放電, 水中衝撃波, パルスパワー, 食品加工

技術相談

提供可能技術： 水中衝撃波による瞬間的高圧力の応用検討
高電圧回路の設計試作
高速度カメラを用いた流体の可視化

研究内容： 高電圧電気放電を用いた水中衝撃波の生成と瞬間的高圧力の農林水産資源への応用

・研究グループとして高電圧の水中電気放電より生成される水中衝撃波を用い農林水産資源への応用を検討する中、主に効果的に水中衝撃波を発生する放電特性を検討し装置開発を行っています。

電気放電による衝撃波の生成技術の開発（図1）を行っています

- ✓ 水中に設置した電極間の火花放電や金属細線爆発により衝撃波を発生
- ✓ 放電火花や金属細線の膨張が高速なほど高強度の衝撃波生成が可能
- ✓ より高効率に高強度の衝撃波を生み出すことを目指し研究開発を行う

放電特性・生成された衝撃波の評価を行っています

- ✓ 放電特性や衝撃波強度を計測し装置開発にフィードバックする（図2）
⇒高電圧の電気放電により瞬時的に 40MW 以上の高出力が利用可能
- ✓ 衝撃波現象は高速度カメラを用いて高速流体を可視化し評価する（図3）
⇒数十 MPa 以上の瞬間的な高圧力が得られ種々の破壊現象に利用が可能

瞬間的高圧力の農林水産資源への応用、実用化研究を行っています

- ✓ 衝撃波による瞬間的高圧力を利用し農林水産資源の加工に適用
⇒既存手法では得られない加工効果を検証（破砕、軟化、抽出向上において）
- ✓ これまでに様々な資源での利活用を検討
 1. 漆樹液圧搾の前処理へ応用（希少部位の剥離）※1
 2. 北限のユズ搾汁前処理への応用（香気成分の抽出向上、図4）※2
 3. カンキツ類の病理検査における遺伝子診断の前処理に利用（検出の高感度化）※3
 4. 精油抽出前処理に利用し抽出量の向上※4
 5. 米の非加熱破砕による製粉処理に利用※5

※1 JST 地域 VP（課題番号：VP29117941197）において研究主担当
 ※2 農水省 農食事業（課題番号：24022、農岩 03-01）において装置開発で研究分担
 ※3 農水省 農食事業（課題番号：270070）において装置開発で研究分担
 ※4 JST FS（課題番号：AS2621375M）において装置開発で研究分担
 ※5 農水省 農食事業（課題番号：21045、24022）において装置開発で参画

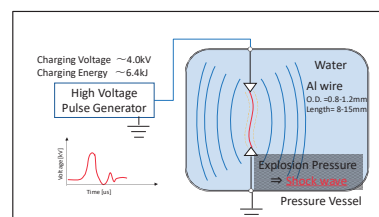


図1 水中電気放電による衝撃波生成

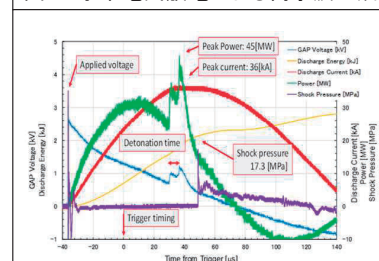


図2 放電波形と圧力履歴



図4 北限ユズの衝撃波処理装置

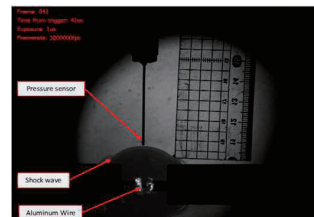


図3 水中衝撃波の可視化写真

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

小型衝撃波装置（1J, 30kV, 10pulse/sec）・自作装置	高速度ビデオカメラ（～5Mfps）・Kirana 5M
マルクス式衝撃波装置（4.9kJ, 14kV, 12pulse/min）・自作装置	光学系実験装置・自作装置
キャパシタバンク式衝撃波発生装置（4.9kJ, 3.5kV, 12pulse/min）・自作装置	その他水中衝撃圧センサーやオシロスコープ、高電圧や電流計測器

研究タイトル:

戦略的な施設維持管理のためのデジタルツイン構築に関する基礎研究

氏名: 仲間祐貴 / NAKAMA Yuki E-mail: nakama@okinawa-ct.ac.jp

職名: 技術専門職員 学位: 博士(工学)

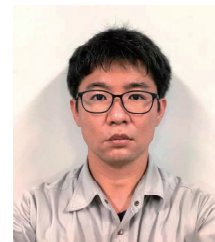
所属学会・協会: 日本建築学会

キーワード: 施設維持管理、FM、CAFM、BIM、ウェブシステム、IoT、ドローン、データベース、ビッグデータ

技術相談

提供可能技術:

- ・点検業務に関する情報支援技術の活用(モバイル端末、センサー、ドローン等)
- ・収集した点検結果を指定の表形式に出力するシステム構築
- ・BIMを活用した維持管理支援システム構築
- ・LCRC 算定ウェブシステムの構築



研究内容:

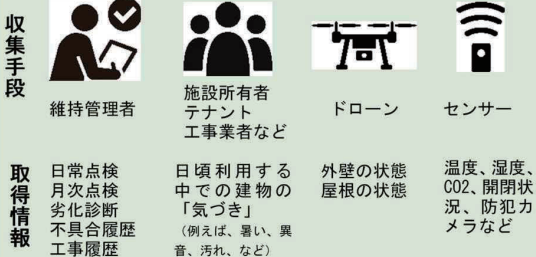
我が国では、今後数十年に渡って急激な人口減少の局面を迎えると予測されており、労働人口減少による慢性的な維持管理者の人材不足の中で、多くの建築ストックを管理しなければなりません。建替えが難しくなったため、特に、建物の維持保全コストの低減、建物の長寿命化、省エネルギー化や利用者満足度の向上など、施設維持管理に関する要求が高度になっており、戦略的に維持管理を行うことが求められています。

一方、近年、現実世界の事象をデジタル上にほぼリアルタイムに再現するという、次世代のものづくりにおける重要な「デジタルツイン」と呼ばれる情報技術の概念が広まりつつあります。例えば、工場の機械や出荷する製品を、システム上にあたかも双子のように現実世界を模したシミュレーション空間を構築し、現実の工場の制御と管理を容易にする手法として期待されています。そこで、維持管理対象の建物の管理状態をほぼリアルタイムにデータ化する(デジタルツインを構築する)ことで、戦略的な施設維持管理に寄与できるのではと考え、研究しています。

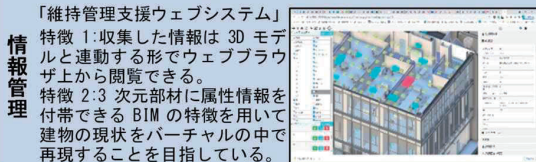
具体的には、「従来の点検業務に、センサーやドローンを活用した維持管理のビッグデータの獲得」、「ビッグデータを BIM モデルと結び付けた見える化」、「報告書の自動生成や「過去」、「現在」の情報を分析して「将来」を予測した情報提供」の3つの項目の研究により、戦略的な施設維持管理のためのデジタルツイン構築に関する基礎研究を行っています。

戦略的な施設維持管理のためのデジタルツイン構築

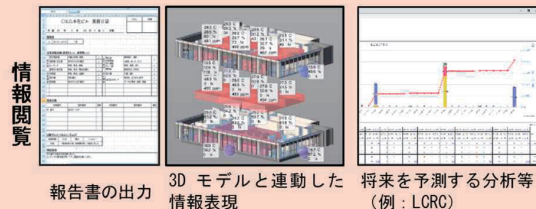
- 従来の点検業務に、センサーやドローンを活用した維持管理のビッグデータの獲得



- ビッグデータを BIM モデルと結び付けた見える化



- 報告書の自動生成や「過去」、「現在」の情報を分析して「将来」を予測した情報提供



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

島の生物学：植物を巡る共生系と進化生態

氏名： 渡邊謙太／ Kenta Watanabe E-mail: kenta-w@okinawa-ct.ac.jp

職名： 技術専門職員 学位： 博士(学術)

所属学会・協会： 種生物学会、日本生態学会、沖縄生物学会、日本植物分類学会
Society for Island Biology

キーワード： 島嶼生物学、進化、植物繁殖生態、生物多様性保全、環境教育、二型花柱性

技術相談
提供可能技術：
・島における生物多様性解明・保全に関する研究・調査・解析
・環境教育/環境教育教材開発(陸域から海域まで)
・植物同定・系統解析

研究内容： 植物を取り巻く共生関係を中心として、島の生物学全般を研究しています

1. 島における植物の性表現の進化と繁殖生態学

植物の雌雄性、特に二型花柱性とそこから始まる性表現の多様化、送粉共生について研究を進めています。アカネ科ボチョウジ属 (*Psychotria*) をはじめ、熱帯～温帯の島嶼域に生育する植物を材料としています

2. 島における植物の土壌適応・菌根菌共生と棲み分け・繁殖干渉に関する研究

琉球列島の石灰岩・非石灰岩地帯にわかれて生育する近縁種を材料に土壌適応と棲み分け、及びその要因としての繁殖干渉について研究を進めています

3. 島における植物と動物の種子散布共生系の研究

島の糞中の種子を調べる手法と、果実形質・散布動物の特性から、多くの島々を比較するデータサイエンスの両面から研究を進めています。国際 IFSD (Island Frugivory Seed Dispersal) Project に参加しています

4. 島の生物学全般に関する統合的研究

日本版島嶼生物学の進展を目指しています。海外の研究者とネットワークを作り、地球規模での島嶼生態系の比較共同研究を進めています

5. 海洋環境・生態系の保全と環境教育

地元大浦湾の海洋生物とその上流域の動植物を材料にして、環境教育の教材開発・実践を行っています

6. 花の香りの多様性と送粉共生系・遺伝的多様性に関する研究

島の植物の花の香りの多様性と送粉者との関係、遺伝的多様性との関係を調べています
(本校蔵屋博士との共同研究)



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

走査型電子顕微鏡(SEM)

蛍光顕微鏡

研究タイトル:

海産無脊椎動物の卵由来精子活性化物質の多様性



氏名: 白幡 大樹 / HIROKI Shirahata E-mail: hiroki.s@okinawa-ct.ac.jp

職名: 技術職員 学位: 修士(理学)

所属学会・協会:

キーワード: 海産無脊椎動物, 生殖

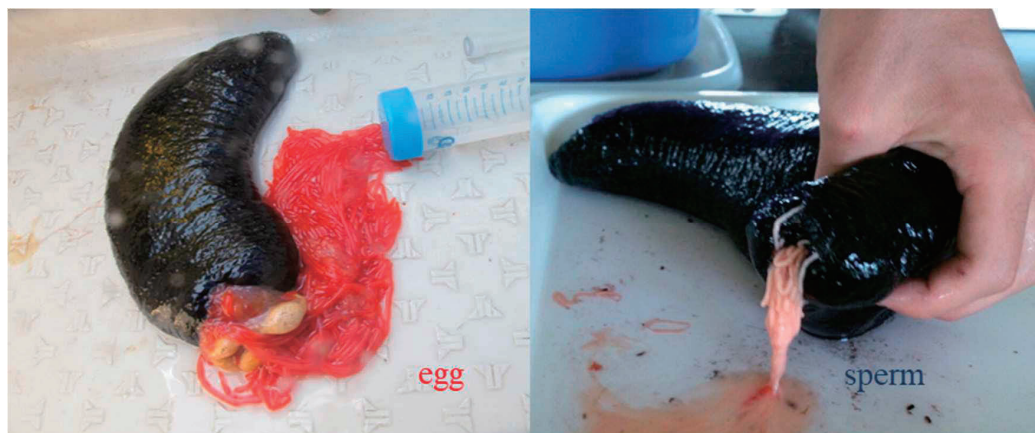
技術相談
提供可能技術: 海産無脊椎動物のサンプリング
ナマコの卵由来精子活性化物質の採取

研究内容:

- ・ナマコは放卵放精型の受精様式を持つ。
- ・産卵を同調したり生息地を一致させることで受精成功率を高めている。
- ・しかし、産卵同調性や生息地の一致は他の種との交雑のリスクも出てくる。
- ・そのため、卵に含まれる精子活性化、誘引物質が受精に関与する。



この卵由来精子活性化物質の効果や同定、ナマコの生息地、生態、産卵期、系統解析などを研究している。



クロナマコの卵(左)と精子(右)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル:

情報基盤の設計・構築・運用



氏名: 花城 宗一郎 / HANASHIRO Soichiro E-mail: hanasiro@okinawa-ct.ac.jp

職名: 技術職員 学位: 学士

所属学会・協会:

キーワード: 情報基盤、ネットワーク、サーバ、クラウド

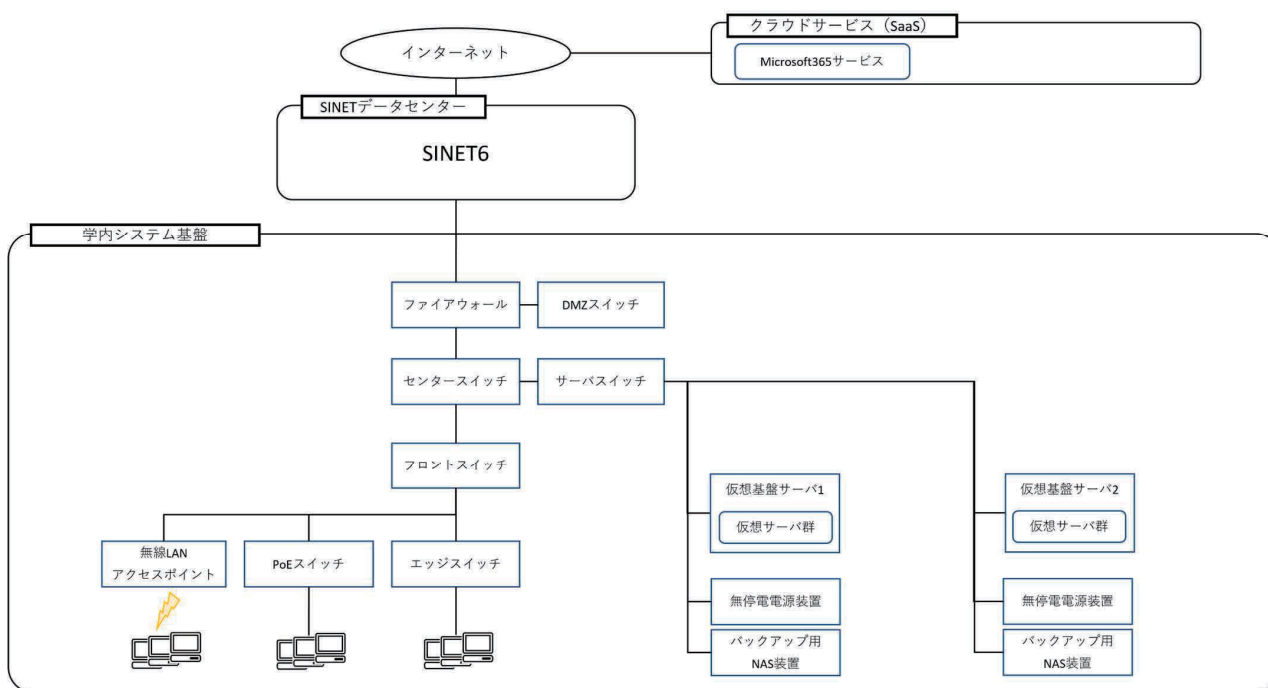
技術相談

提供可能技術:

- ・ネットワーク設計、構築
- ・システム基盤運用
- ・オンプレミス、クラウドを利用したハイブリッドクラウド環境設計

研究内容:

- ・ハイブリッドクラウド環境下でのシステム基盤運用の効率化。



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究者業績リンク集(research map、科学研究費助成事業データベース 等)

校長

佐藤 貴哉 <https://researchmap.jp/read0126534>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030399258/>

機械システム工学科

武村 史朗 <https://researchmap.jp/read0151466>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000070455187/>

比嘉 吉一 <https://researchmap.jp/read0054137>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020335368/>

眞喜志 治 <https://researchmap.jp/read0051405>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000070289297/>

眞喜志 隆 <https://researchmap.jp/read0017950>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060219300/>

山城 光 <https://researchmap.jp/yoihanasaku>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000070239995/>

安里 健太郎 https://researchmap.jp/k_asato
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000010610321/>

下嶋 賢 <https://researchmap.jp/read0151469>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060385490/>

津村 卓也 <https://researchmap.jp/read0046580>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000283812/>

鳥羽 弘康 <https://researchmap.jp/read0151467>

森澤 征一郎 <https://researchmap.jp/smorizawa>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050757961/>

情報通信システム工学科

兼城 千波 <https://researchmap.jp/read0055210>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030318993/>

神里 志穂子 <https://researchmap.jp/S.kamisato>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000442492/>

金城 伊智子 <https://researchmap.jp/ichik>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000010550262/>

高良 秀彦 <https://researchmap.jp/okinawa-ct.ac.jp>

谷藤 正一 <https://researchmap.jp/sh-tanifuji>

山田 親稔 <https://researchmap.jp/read0151474>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000040412902/>

中平 勝也 <https://researchmap.jp/123-4>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030500566/>

宮城 桂 <https://researchmap.jp/read2983>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000734550/>

亀濱 博紀 https://researchmap.jp/_hkame

メディア情報工学科

伊波 靖 <https://researchmap.jp/yasuc18>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060390564/>

玉城 龍洋 <https://researchmap.jp/read0125888>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060413837/>

タンスリヤボン スリヨン
<https://researchmap.jp/suriyon>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000322107/>

與那嶺 尚弘 <https://researchmap.jp/read0182617>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000259805/>

佐藤 尚 <https://researchmap.jp/stakashi>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000070426576/>

鈴木 大作 <https://researchmap.jp/read0151477>

西村 篤 <https://researchmap.jp/azsy>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000070413888/>

バイティガ ザカリ
<https://researchmap.jp/read0151478>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000040462155/>

金城 篤史 <https://researchmap.jp/akinjo>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030606794/>

當間 栄作 <https://researchmap.jp/90826778>

生物資源工学科

池松 真也 <https://researchmap.jp/read0151479>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000040442488/>

伊東 昌章	https://researchmap.jp/read0149583 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000000395659/
平良 淳誠	https://researchmap.jp/read0151482 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020462153/
玉城 康智	https://researchmap.jp/TamaYasu https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060413887/
濱田 泰輔	https://researchmap.jp/hamada-t https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000010253717/
磯村 尚子	https://researchmap.jp/Naoko_Isomura https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000090376989/
三宮 一幸	https://researchmap.jp/sanmiya https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000010462152/
嶽本 あゆみ	https://researchmap.jp/tkmt4208 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060505858/
田邊 俊朗	https://researchmap.jp/read0151483 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050378915/
沖田 紀子	https://researchmap.jp/n-okita
萩野 航	https://researchmap.jp/hagino

総合科学科

小池 寿俊	https://researchmap.jp/koike_kazutoshi https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020225337/
成田 誠	https://researchmap.jp/read0151485
星野 恵里子	https://researchmap.jp/read0039206
山本 寛	https://researchmap.jp/read0151491
青木 久美	https://researchmap.jp/read0151486
木村 和雄	https://researchmap.jp/read0191326 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000080314889/
澤井 万七美	https://researchmap.jp/read0067691 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000060330726/
下郡 剛	https://researchmap.jp/read0151488 https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050413886/

吉居 啓輔 <https://researchmap.jp/yoshii>

和多野 大 <https://researchmap.jp/read0110168>

片山 鮎子 <https://researchmap.jp/ayuko.k>

カーマン マコア クイオカラニ
<https://researchmap.jp/Carman>

崎原 正志 <https://researchmap.jp/masashisakahara>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030828611/>

島尻 真理子 <https://researchmap.jp/RFMS>

山内 祥之 <https://researchmap.jp/yamauc-y>

吉井 りさ <https://researchmap.jp/ryoshii>

技術支援室

蔵屋 英介 <https://researchmap.jp/read0201011>
<https://grants.jst.go.jp/search/?qg=%E8%97%8F%E5%B1%8B%E8%8B%B1%E4%BB%8B&c8%5B%5D=kakenhi>

具志 孝 <https://researchmap.jp/gushitakashi>

大嶺 幸正 <https://researchmap.jp/omine>

比嘉 修 <https://researchmap.jp/o.higa>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020504525/>

仲間 祐貴 <https://researchmap.jp/nakama>
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-16H00402/>

渡邊 謙太 <https://researchmap.jp/kenta-w>
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050510111/>

白幡 大樹 <https://researchmap.jp/hiroki.shirahata>



研究実績紹介

●共同研究

研究題目	ディープラーニングを活用したスクラップの AI 検収に関する研究
研究担当者	機械システム工学科 准教授 安里 健太郎
契約相手先	拓南商事株式会社
研究期間	令和3年1月1日～令和3年8月31日

研究実績：

建物の解体や自動車の処分等で発生する鉄スクラップは、住宅等の鉄筋の原料として再利用されているが、鉄筋の品質維持のためには鉄以外の異物を取り除く必要がある。とりわけ、鉄スクラップに含まれていることが多い非鉄金属の鉛、銅、ステンレス等は、鉄筋の製鋼工程において取り除くことができないため、人による目視確認等によって検収が行われ、事前除去されている。しかしながら、それら異物の判断には熟練した技能が要求されるため、検収作業によって作業時間や異物検出の精度に大きな差異が生じてくる。また、大量の鉄スクラップから異物を目視等で判断していくことは、検収作業の大きな負担となっている現状がある。

そこで本共同研究では、鉄スクラップに含まれる異物をディープラーニングによって自動的に検出するシステムの開発を進めてきた。まず、鉄筋品質に大きく影響を及ぼす鉛、銅、ステンレスの3つの非鉄金属を対象とした検収システムの開発に着手しており、カメラにより取得した搬入トラック荷台のリアルタイム映像を撮影し、学習に必要なデータを収集するシステム構築を行った。同時に鉄スクラップに含まれる3つの非鉄金属を検出するディープラーニングアーキテクチャの検討も完了しており、現在は集めた画像データの前加工（解像度設定、領域指定、アノテーション）について進めている。今後は、磁気センサ、サーマルセンサ、輝度センサ等との組み合わせによるマルチモーダル学習も検討しており、学習データが揃い次第、検収システムの構築を行う。

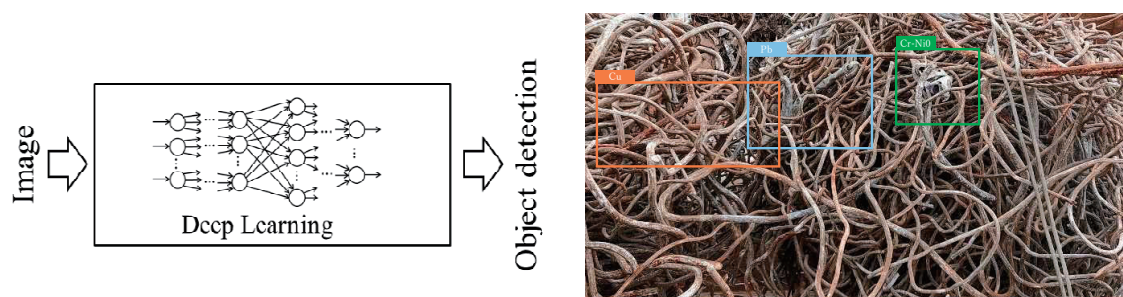


Fig. 1 開発の鉄スクラップ検収システムのイメージ

研究題目	発電機能付燃焼装置の開発—島しょ型サーマルリサイクルパワーシステムの社会実装に向けて—
研究担当者	機械システム工学科 教授 山城 光
契約相手先	株式会社開邦工業
研究期間	令和3年11月9日～令和4年2月28日

【はじめに】

地球規模の環境問題や未知のウィルス対策など、国境を越えた難題への対応が求められる一方、地域の課題に目を向ける活動が今後ますます重要になると予想される。例えばアジア島しょ域に位置する沖縄では、経済成長に伴い増え続ける廃棄物の問題には、海岸漂着ごみや、マイクロプラスチックなどの国境を越える課題も多く、近年深刻さを増している。処理費用の負担のみならず、その輸送に伴う交通渋滞、二酸化炭素の排出量の増加など、社会的負荷の上昇が懸念される。しかし一方、その解決策（技術・仕組み）を見出すことができれば、今後の経済成長を見込む海外・アジア島地域の持続的発展の指針となることも期待される。

【研究背景】

工場等から排出される廃熱を利用して熱と電気の供給を行う「コージェネレーションシステム」は、大型の燃焼設備において普及している。また、温泉水や工場などからの比較的安定した一定量の熱量が確保できれば、100℃程度の低温廃熱も暖房や発電などに利用される⁽¹⁾。一方、小型焼却炉等の小規模分散型の廃熱は、高温であっても熱量の不安定さと燃焼排ガスの有害物質などの環境問題から、利用は難しいとされてきた。しかし、その検証の定量的報告事例はほとんど公表されていない。つまり、近年の環境志向・脱炭素化の動向に対して再検討の余地があるものの、実用を深掘りするためのデータが不足している。そこで、著者らは実用機（小型焼却炉、（株）トマス技術研究所）を対象として、らせん熱交換器による廃熱回収量の数値予測を行い、小型炉においても約90kWの熱量（飽和蒸気換算150kg/h）の熱回収が可能であることを、さきの研究で報告している^{(2) (3)}。また、小型蒸気タービン装置と、小型焼却炉との連結稼働システムを構築して、廃熱利用による発電実験を行い、下記の知見を提供している⁽⁶⁾。

- （1） 小型の焼却炉において、焼却炉壁面を介して熱回収を行う方式では、回収熱量の増加に伴い燃焼および排ガス条件に影響を及ぼす傾向がある。
- （2） 当該システムで排ガス規制をクリアできる条件下において、回収蒸気量は約70kg/h、発電出力は300W程度であった。
- （3） 小型・中型炉において発電出力の向上を図るためには、排熱を多段階的に回収する方式が有効であると考えられる。

上記を踏まえて現在、事項の活動に取り組んでいる。

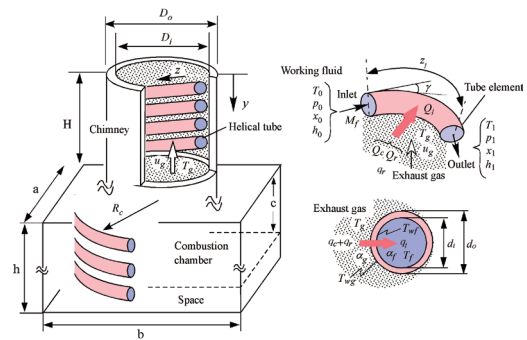


図1 小型焼却炉の廃熱回収モデル

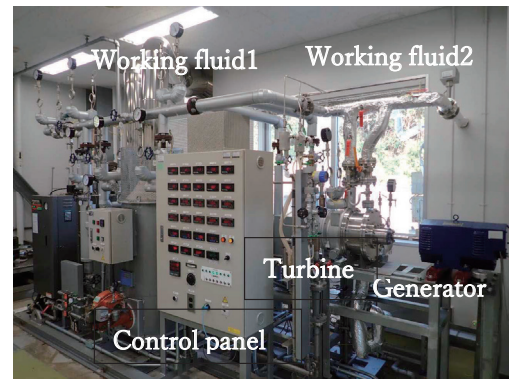


図2 マイクロコジェネ発電装置
（沖縄高専 熱流体研究室内）

【研究内容】

＜研究の経緯＞

- ・沖縄県中央卸売市場（浦添市伊奈武瀬）では青果物搬送用のパレットが事業所内に大量に存在する（図3）
- ・青果物の県外からの輸入に対して輸出量が少ないためパレットが事業所内に滞り残存しており、それが増加傾向にある（図4、5）。
- ・所内で焼却して熱電併給（コージェネレーションシステム）を導入できないか？との技術相談を受ける。

⇒その課題に対して、株式会社開邦工業を事業主体とする産学官連携の協議会が結成され、令和2－3年度先端技術活用によるエネルギー基盤事業補助金（南西地域産業活性化センター）の支援のもと、本事業に参画するに至っている。



図3 沖縄県卸売市場内の盤木パレット
（現地調査撮影、2020.11.11）

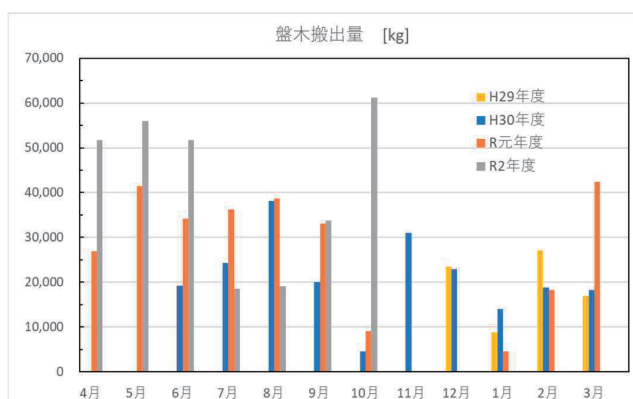


図4 廃棄される盤木パレットの月別排出量[kg]
（資料提供：沖縄共同青果株式会社）

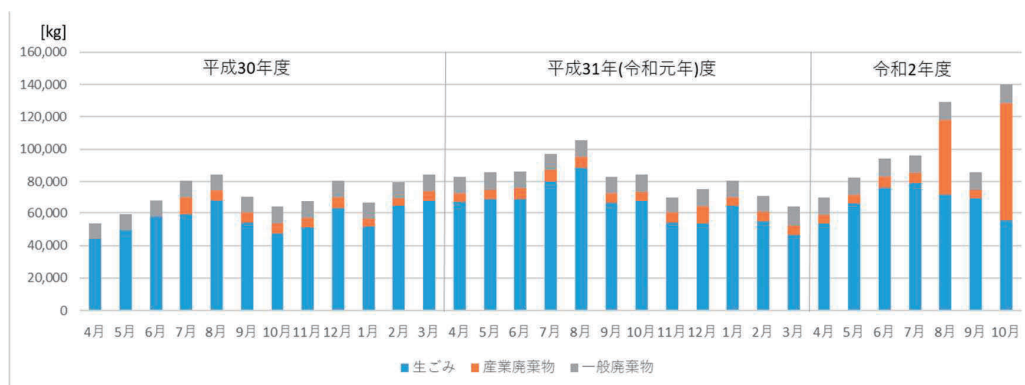
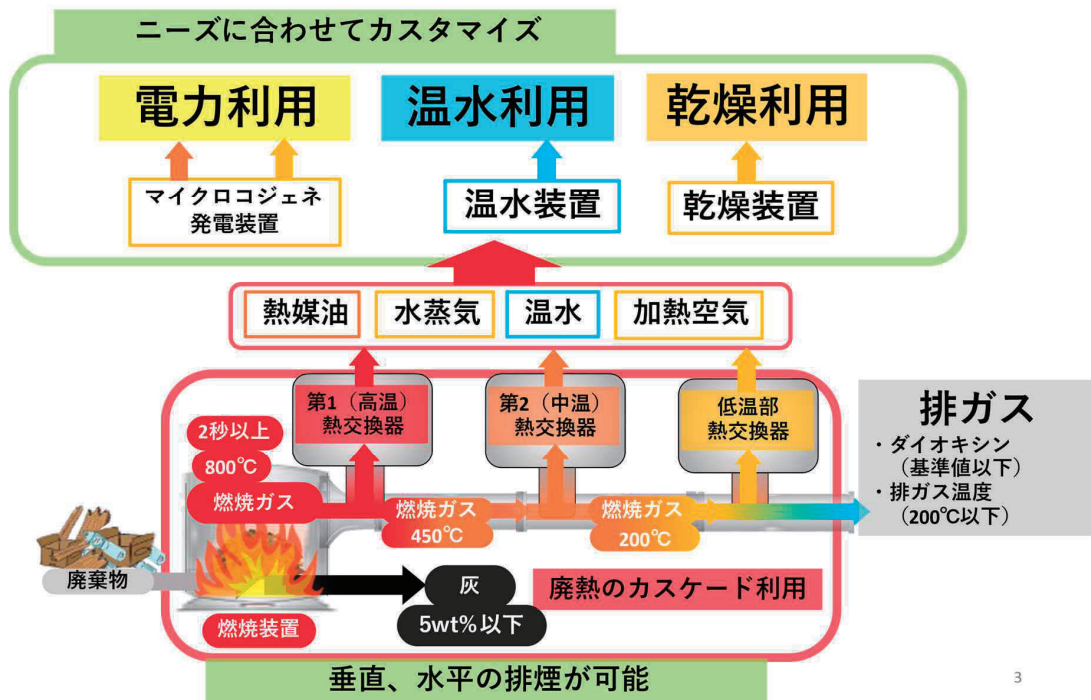


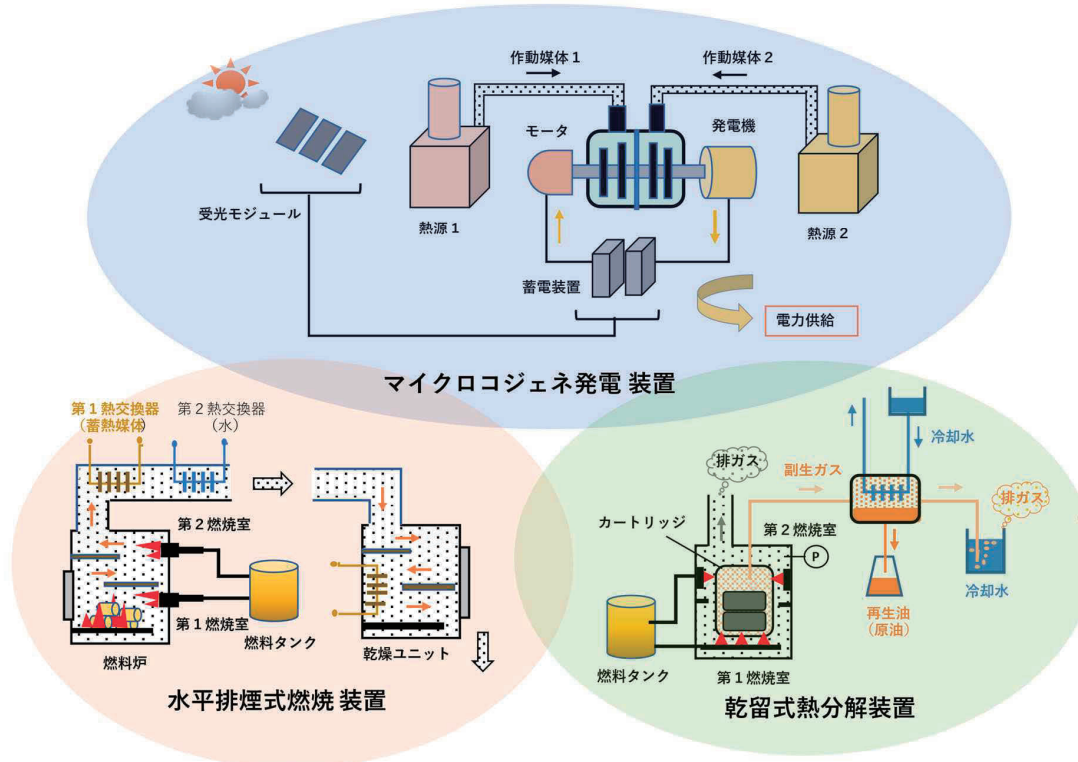
図5 沖縄県卸売市場内の廃棄物量[kg]、月別比較
（質量で比較すると青果物残渣（生ごみ）が圧倒的に多量、水分含有率が高いため）
（資料提供：沖縄共同青果株式会社）

以上を踏まえて、水平排煙式バイオマス燃焼装置、発電機能付燃焼装置の開発コンセプト（次頁）を協議会において立案した。現在その実現に向けて、燃焼処理システムの自動化を図るとともに、3～5kW マイクロコージェネ発電装置の開発を産学連携の体制で進めている。

水平排煙式燃焼装置のコンセプト



島しょ型サーマルリサイクルパワーシステムのコンセプト



【今後の予定】

小規模分散型熱源の有効活用による、脱炭素化、環境保全、そして“美しい沖縄”を次世代につなげたいと思う。

研究題目	農村コミュニティ循環型モデル構築のための「高付加価値バイオマス炭及び新世代型カートリッジ式ハイブリット炭化装置の開発」
研究担当者	機械システム工学科 教授 山城 光
契約相手先	株式会社 AID テクノロジー
研究期間	令和3年5月18日～令和4年3月31日

【共同研究の経緯】

カートリッジ式炭化装置とは、円筒状の金属製容器内に各種有機物を充填し、低酸素の状態で“蒸焼き”にして炭化させる措置である（図1）。本装置を大型化したい、との技術相談を当社（契約相手先）より受ける。

＜本装置の特徴及び課題＞

- ・ 小型、移動、持ち運びが可能、現場で即稼働できる
- ・ 木材に限らず各種有機物を2～3時間で炭化できる
- ・ 粒状や微粉炭は球状にして“丸炭”として提供している
- ・ 丸炭は燃焼効率が良く、残留灰が少ない。
- ・ 自作工夫の形状であることが大きな特徴で、熱工学的に理にかなっている、ことを感じる。
- ・ 当社、建築業を営んでおり、廃材処理の問題は社会的な重要課題として認識

⇒共感、ニーズありと判断⇒共同研究契約の締結に至る。

課題1：炭化物製造のプロセスが経験的手法と“感”に委ねられている、熱的測定、質の評価が行われていない。

課題2：燃料（灯油と廃木材）を使用、省エネとCO2排出削減の視点が必要になると思われる。

【研究内容】

⇒廃熱または再生可能エネルギーを利用する、カーボンニュートラルに資する炭化装置の開発

- ・ 炭化プロセス（図1）の熱的条件を把握
- ・ 廃熱利用による外部燃焼式、再生可能エネルギーによる電気加熱式、双方の可能性を検証
- ・ マイクロコジェネ発電装置との統合システムによる3併給（熱・電気・炭化物）の検討（図2）。



図1 カートリッジ式炭化装置
（撮影：AID テクノロジー社内）

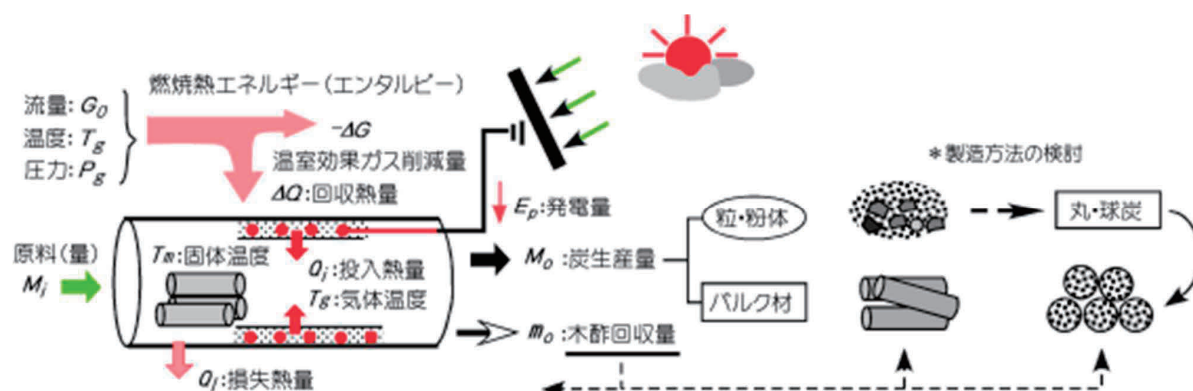


図2 次世代型カートリッジ式ハイブリット炭化装置の開発コンセプト

1. 外部燃焼蓄熱式炭化装置の開発

(1) システム構成（燃焼装置・熱交換器・炭化装置の統合型システム）

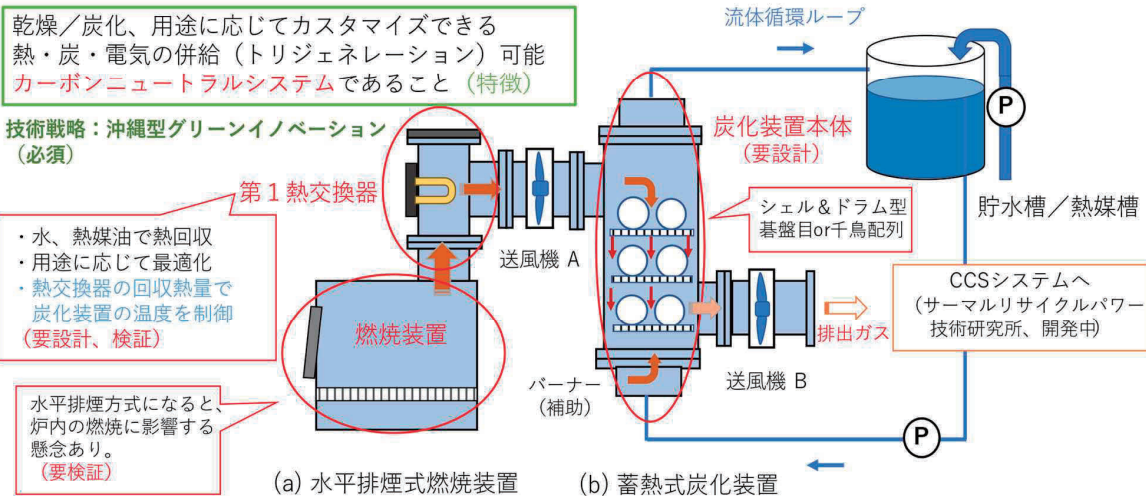


図1 システム構成

3

水平排煙式バイオマス燃焼装置の廃熱を利用して炭化物の製造が可能か？

第1熱交換器の排ガスと熱媒油の温度測定結果

（連携協力企業：開邦工業（株）、サマールリサイクルパワー技術研究所）

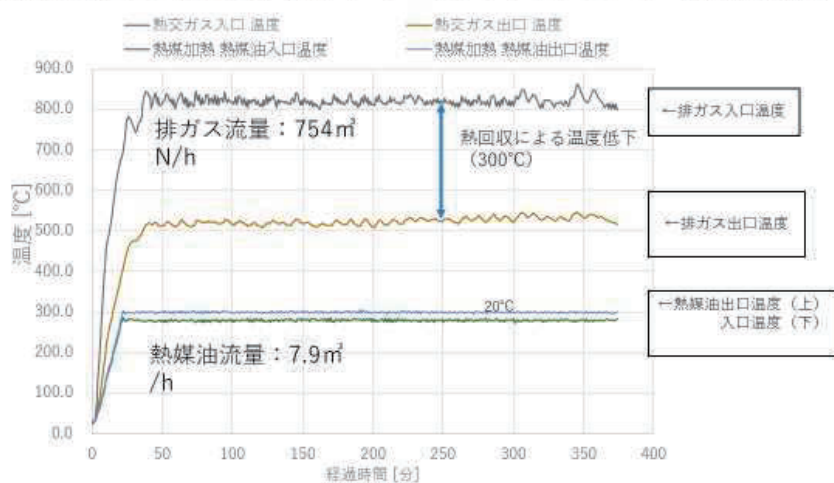
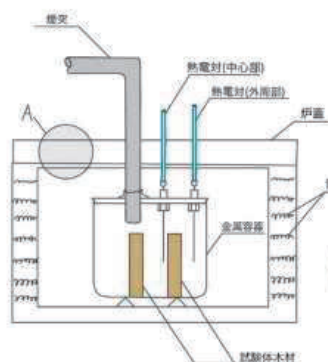


図10 排ガスと熱媒油の温度

9

⇒以上より、廃熱利用（外部燃焼方式）による木質系バイオマスの炭化が十分可能であると推定されたので、電気加熱式による実験検証を行った。

電気加熱式炭化装置（実験装置）概要



電気加熱式炭化装置概要

① 送風・チムニー効果により内部圧力を一定に保持
② 通電加熱で温度制御

③ 断熱構造で熱損失を低減

④ 物性値が既知の材料を既定寸法を加熱、炭化

シミュレーションにより炭化プロセスを“観える化”を検討



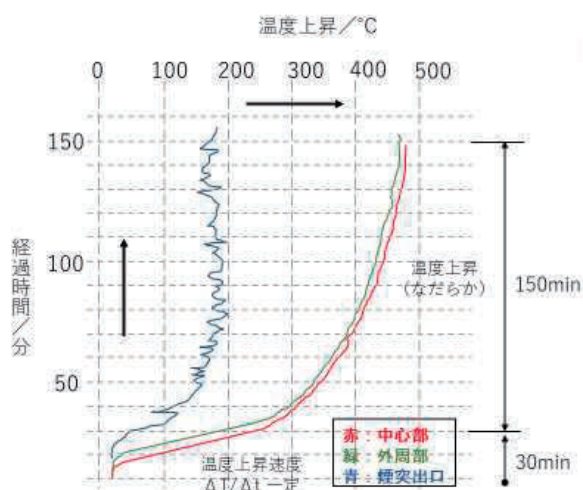
実験装置スナップショット



供試材：杉

(0.5 kg、92×94×98mm³) 12

電気加熱式による実験結果 (2)



質量：230.2 g、加熱時間 120 分



断面全て黒く変色（炭化）している。強度が非常に低く、脆いため、切断した際に上部が欠けた。

14

【成果】

契約企業が主体となって外部資金（令和3年度産学官連携製品開発事業、沖縄県産業振興公社）を獲得、内部燃焼式の大型化（約3倍の生産量）に成功、関連製品（丸炭）の販売（商品化）を開始している。

【今後の予定】

他社との連携協力体制（コンソーシアム）を形成して取組む予定である、島しょ型サーマルリサイクルパワースステムの社会実装に向けて。

研究題目	位相反転技術の活用研究
研究担当者	情報通信システム工学科 教授 兼城 千波
契約相手先	ゆい総研合同会社、I-PEX 株式会社
研究期間	令和3年8月27日～令和4年3月31日

研究実績：

1. はじめに

生活環境において、「騒音（ノイズ）」は、人間の集中力を阻害するため、これまでも、騒音（ノイズ）を減らす手法として、遮音壁のような物理的手法など様々な方法が用いられてきた。その中でも、音波の位相反転を用いて、「音を消す」という手法としては、ヘッドフォンに搭載されている“ノイズキャンセリング”が広く知られている[1,2]。

昨今のコロナ禍により、リモートワークの機会が増え、家庭内においても、ある特定の場所だけの騒音除去が求められている。

2. 研究の目的

音声信号を消音するため、可聴帯域における位相反転回路の作製と電気特性の評価を目的とする。

特定の環境下におけるノイズの消音あるいは遮音を行うため、その音源と逆位相（位相反転）の信号を同時に生成する。そのため、ノイズ（信号）源の位相反転回路の作製ならびにその周波数特性、消音効果について検討する。また、人間の可聴帯域は 20 Hz から 20 kHz とされているため、その帯域をカバーする回路設計を目指す。

3. ノイズキャンセリングの原理

「音」が聞こえる仕組みは、物体が振動したとき、その振動が疎密波として空气中を伝搬し、その伝搬波が、耳にある鼓膜を震わせ、「音」として、人間に感知される。図1に示すように、この空气中を伝搬する音波を、電気信号波として捉え、その反転信号で音を消去する手法がノイズキャンセリングの原理である。音源(A)の信号波形の位相反転信号（B）を発生させる。

音源(A)と逆位相(B)を同時に鳴らす（発生させる）と音を消すことができる。

実際のノイズキャンセリングでは、耳元の周りの環境騒音の反転信号をデジタル変換などし、ヘッドフォンを介して、音をキャンセルしている。

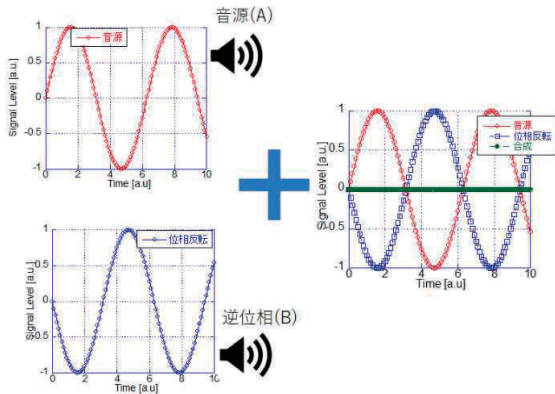


図1 ノイズキャンセルの原理

4. 位相反転回路設計・製作と特性評価

4-1 トランジスタによる回路

○回路設計・製作

試作した回路（名称：TEST01）の各素子とそのパラメータを表1にまとめる。

○回路の特性評価

図2にTEST01の回路において、入力信号周波数を 20 kHz とした場合の入力波形と出力波形を示す。

表1 回路図（図2）の各素子パラメータ

名称（記号）	値
直流電源(V1)	6.0 ~ 9.0 V
コンデンサマイク(EMC)	
スピーカー(SP)	
抵抗(R1)	3.3 kΩ
抵抗(R2)	2.2 kΩ
抵抗(R3)	1.0 MΩ
コンデンサ（マイラーC1）	0.1 μF
コンデンサ（マイラーC2）	0.1 μF
トランジスタ	1815

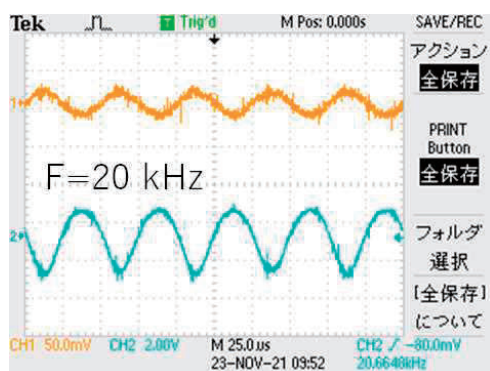


図2 回路（図2;TEST01）の入出力特性（周波数 $f = 20$ kHz）

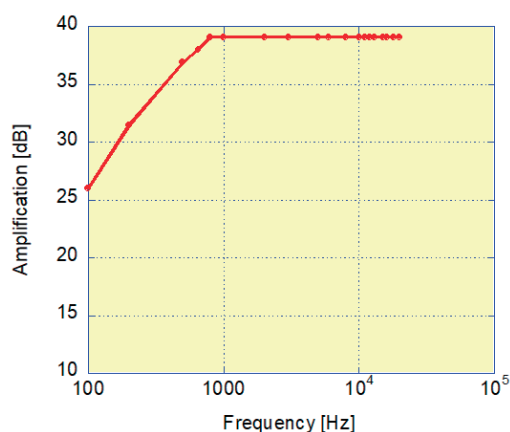


図3 周波数に対する電圧利得 ($A_v = V_{out}/V_{in}$)

この図からもわかるように、位相が反転されていることが確認できる。

TEST01 の周波数特性を評価するため、入力信号周波数を変化させた場合の電圧利得を測定した結果を図3に示す。この結果から、800 Hz 以上では、安定して増幅できているものの、低周波側では、増幅の低下がみられる。また、位相についても、位相ずれが起こり、反転されなくなる。

4-2 オペアンプ (NJM2073、LM386) による回路

○回路設計・製作

オペアンプ (LM386) を用いて、反転増幅回路を設計・作製した。この他に、オペアンプ (NJM2073) を用いた位相反転増幅回路を示す。この回路名称を **TEST02** とする。

○回路の特性評価

作製した回路では、信号周波数が 2 kHz では位相が反転されていることが確認できるものの、信号周波数が 20 Hz では、位相が反転されず、ずれていることが確認できた。

オペアンプによる周波数特性比較のため、LM386 で作製した回路と NJM2073 で作製した回路の入出力特性を評価した。その結果を図4に示す。NJM2073 は LM386 に比べ低域遮断周波数が低い値になっている。また、NJM2073 (TEST02) は、この結果から、約 700 Hz 以上では、一定の電圧増幅率が得られており、安定した出力結果である。一方、約 700 Hz 以下の低周波側では、増幅の低下がみられる。また、位相についても、位相ずれが起こり、反転されなくなる。

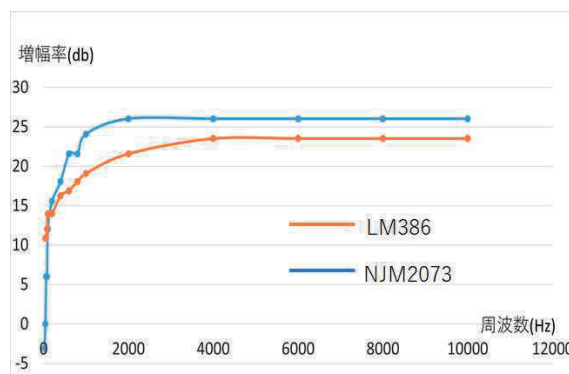


図4 周波数特性比較 (LM386 と NJM2073)

5. 消音効果の計測と評価

図5に作製した回路の消音効果を計測した実験系を示す。音源から 1.0 m 離れたところに、音源の反転信号を出力させるスピーカを配置する。次に、位相反転回路への入力デバイスとなるマイク (ECM) を音源から 50 cm の場所に配置する。音源から約 87dB の工場騒音を発生させる。この音声信号をマイクで検出し、位相反転回路で信号波を反転させる。反転させた信号波をスピーカを介して出力する。音源・出力側からの位置によって、どの程度音圧に変化がみられるのか、集音計を用いて音圧を計測した。

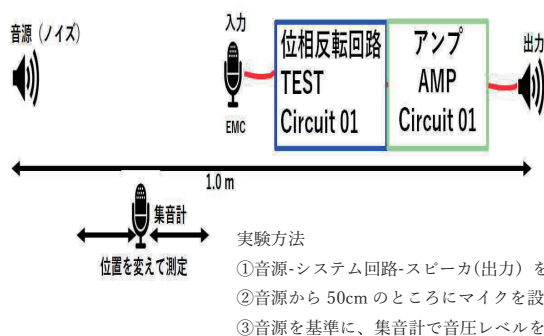


図5 ノイズキャンセル効果の測定

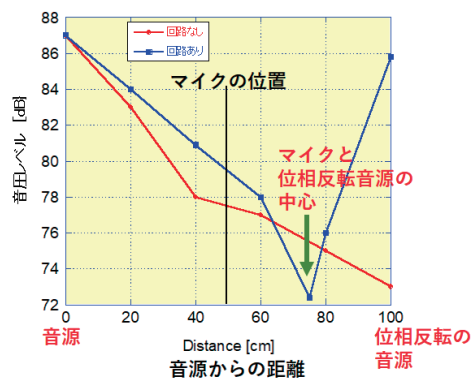


図6 「音」の消音効果

この測定系では、マイクと出力スピーカの中心で、音圧が最小となれば、消音効果があるとみなすことができる。その理由は、伝搬してくる信号波を検知（マイク）した位置に対して、位相反転信号をスピーカを通して出力するため、その信号波同士が、マイクとスピーカの中心でちょうど位相が反転してぶつかるからである。

○実験結果

図6に測定結果を示す。横軸は、音源からの集音計の距離を示しており、縦軸は音圧を示す。図中の赤の実線は、位相反転回路を使わずに、音圧を計測したもので、距離に比例して、音圧が減少していることが確認できる。青の実線は、位相反転回路を通して、音源の信号を反転した信号波をスピーカから発生させた場合の音圧である。この実験より、マイクと位相反転音源の中心で、音圧が最小となっており、これは、音源と位相反転信号との干渉により、音圧が減衰しており、予想どおりの結果を示している。また、減衰量が -15 dB という値は、消音効果としては大きいといえる。

6. まとめ

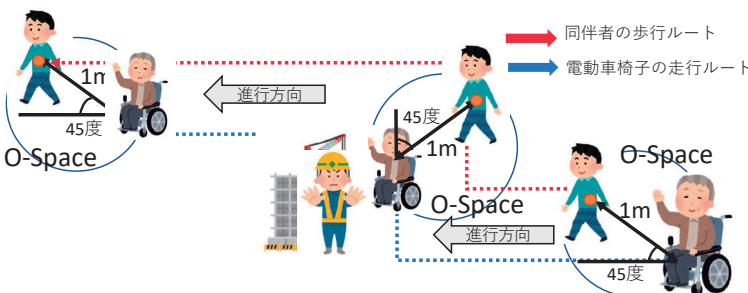
「音」を遮音・消音する手法の検討として、位相反転回路の設計・製作と電気特性の評価を行った。回路設計・製作においては、npn バイポーラトランジスタとオペアンプを使用した回路設計をそれぞれ行い、入出力電圧の周波数特性評価を中心に検討した。主な実験結果を以下に示す。

- ① バイポーラトランジスタとオペアンプとも、その内部抵抗と内部容量に起因した低域遮断周波数を持っている。そのため、可聴帯域（20 Hz から 20 kHz）の位相反転回路の設計においては、内部インピーダンスを打ち消すような外部回路を構成する必要がある。
- ② 補足実験として、壁に伝搬された信号波の計測として、圧電振動子と増幅回路を用いて測定することができた。この実験は、次の検討課題として、壁の伝搬信号の位相反転信号で消すことができるか、検討するためである。

今回の実験・研究において、位相反転回路の設計・製作については、低域周波数帯域を補償する課題が残されている。これは、上記で述べたように、内部インピーダンスを補償する回路を挿入すれば、ある程度、改善できるものと考えられる。空間伝搬の音波の消音・遮音は、その性質上、かなり難しい課題があるため、別の手法を提案する。例えば、障害物内を伝搬する音波が、障害物内で減衰することができれば、音波は障害物内で吸収されたことになり、外に「音」が漏れることは少なくなり、一部だけでも物体の振動の減衰を引き起こすことができれば、次のステップにつながるものと考えられる。

参考文献

- [1] 板橋徹徳, 浅田宏平: 「ノイズキャンセリングシステムおよびノイズキャンセル方法」 特許第 5194434 号
- [2] 岸田 昌弘: 「ノイズキャンセリング装置及び電気機器」 特許第 5737915 号

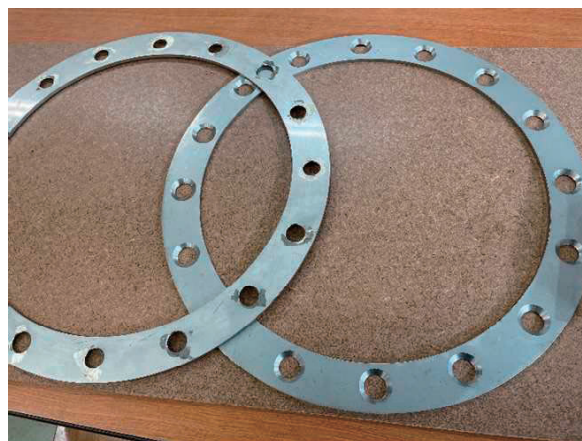
研究題目	ディープラーニングと 5 G を活用した学生生活志向型電動車椅子の研究開発
研究担当者	情報通信システム工学科 准教授 中平 勝也
契約相手先	国立大学法人長岡技術科学大学
研究期間	令和 3 年 7 月 1 3 日～令和 4 年 3 月 3 1 日
研究実績： 車いすを利用している学生が豊かな学校生活を満喫するため、人に寄り添った学校生活志向型の自動運転車いすの実現を目指した共同研究を実施した。 AI セーフティナビゲート機能では、出発地点から目的地（例えば自宅から学校）の最適なルートを設定し、保護者の補助無しに、進路上の人や障害物をカメラ画像から即座に認識して回避し、安全に自動運転できる機能とする。さらに、視線計測技術を用いた目線による車椅子の方向制御や、沖縄での利用を想定した方言（ウチナーグチ）による車椅子のスピード制御も行う。上記の機能では音声認識や画像認識の AI を多用する。車いすの移動可能距離は、中等教育機関への通学として平均的な 4km 以内とし、公共交通機関が十分に整備されていない地域でも自ら通学ができるようにする。保護者の負担軽減と同時に、通学を一緒に行う友人や路上の地域住民との触れ合いの機会が増え、学生が社会生活を始めるきっかけ作りとしても期待できる。ルート選択や自動/手動運転の切り替えは学生の意思決定に委ね、心身の発育を損ねないようにする。 ユニークな機能としては、アダプティブフォーメーション機能がある。周辺の複数の人間とコミュニケーションを取りやすい場所(O-space)に車いすを自動的に動かし維持し続ける機能とする。レーザー測域センサーや 360 度カメラで周囲の人数やスペースの広さを瞬時に把握し、例えば、1 人対 1 台では Side-by-side 型や 2 人対 1 台では V 型のフォーメーションを維持するなどコミュニケーションの取りやすさを重視した車いすの自動の位置どり制御を行う。人の位置、移動速度、人数をセンサーと AI で分析し、車いすに乗ったまま、適切な位置でコミュニケーションが行えるようにする。健常者と車いすの学生の双方で閉鎖感や隔離感が無くなり、双方の接し方の根本的な改善が期待できる。 本研究成果は国際会議 STI-Gigaku 2022、電子学会全国大会 2023 等で発表が行われた。   自動運転車椅子動作概要（左）と校内実証実験の様子（右）	

研究題目	超解像手法における BackProjection 処理のハードウェア実現可能性の検討
研究担当者	情報通信システム工学科 教授 山田 親稔
契約相手先	国立大学法人豊橋技術科学大学
研究期間	令和3年7月9日～令和4年3月31日
研究実績：	
<u>FPGA によるリアルタイム画像処理</u> 遠隔授業などでは、カメラで黒板を映して配信する際、カメラの位置と教員の位置によっては見えづらいといった課題がある。この課題を解決する一つの手法として、カメラの位置を教員に被らないように設置し、射影変換する方法があげられる。しかしながら、遠隔授業時にこれらを実現するためには、リアルタイムに入力される動画に対して入力インターバルよりも短い時間で射影変換を実行することが求められる。また、ホスト側、サーバ側あるいはユーザ側のどのタイミングで射影変換を行うことが有効なのかを検討する必要がある。さらに、射影変換後に文字として認識可能なカメラの設置角度を把握することは重要な課題となる。本研究では、プロセッサの射影変換速度、射影変換後の画像の文字を認識できるカメラの位置の比較を行った。結果としてカメラの位置は 26 度以上にすることが必要であり、射影変換の速度は GPU が最も速いことが分かった。しかし、CPU と FPGA を比較したときの速度は同等であり、並列処理によって更なる高速化も見込める。そのため FPGA で射影変換を実装すると FPGA の変換速度が最も速くなり、実験結果から約 2fps 程度の射影変換が行え、30fps での実装も行えると考えられる。 <u>FPGA による超解像処理</u> 近年、様々な学習型超解像モデルが提案されているが、超解像精度の向上を試みると超解像モデルの深層化が進むため、超解像処理の実行速度低下へと繋がっている。高精度の学習型超解像モデルの推論の高速化を実現できれば高精度でのリアルタイム超解像処理やエッジコンピューティングでの超解像で有用である。そのため本研究では学習型超解像モデルの推論部分のハードウェア実装を行い、処理速度の高速化を実現することを目標とした。Vitis-IDE と Vitis-AI、Petalinux 等を用いて ZCU-104 を対象とした RCAN モデル超解像プロジェクトとアプリケーションを作成し、パッケージングを行った。この際パッケージングにエラーが発生しており、原因として Petalinux と使用した OS の不整合の可能性が挙げられる。今後は FPGA での動作確認を行い、その後に GPU での超解像処理との性能比較、ビデオカメラを用いたリアルタイム超解像処理の検討を行っていく予定である。 <u>研究成果</u> 廣田優斗(沖縄高専)、「FPGA を用いた SRCNN の実装に関する検討」、高専・豊橋技科大 IoT 共同研究会 上原一航(沖縄高専)、「リアルタイム射影変換に向けたプロセッサの比較・検討」、電気学会次世代産業システム研究会	

研究題目	水中衝撃波圧力容器の改良と高耐久電極機構の開発
研究担当者	技術支援室 技術主査 技術専門職員 大嶺 幸正
契約相手先	一般社団法人衝撃波応用技術研究所
研究期間	令和3年9月14日～令和4年3月31日

研究実績：

衝撃波装置関連の部品の製作を行った



研究題目	亜熱帯生物素材ライブラリの活用によるウイルス感染症に対する天然物創薬研究
研究担当者	生物資源工学科 教授 平良 淳誠
契約相手先	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）【創薬基盤推進研究事業】
研究期間	令和3年10月1日～令和4年3月31日

研究実績：

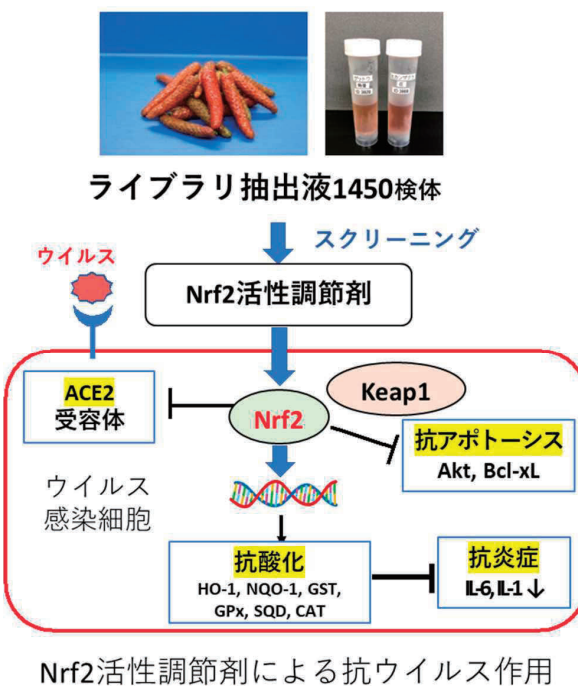
研究課題は、熱帯生物素材ライブラリより Nrf2 活性調節を作用機序とする抽出液及び活性物質の HBV 感染細胞及び SARS-CoV-2 感染細胞に対する効果を明らかにすることである。亜熱帯生物素材 1450 検体のスクリーニングの結果、Nrf2 活性調節作用（亢進または抑制作用）が確認された抽出液試料を用いて、HBV 感染細胞における作用（Nrf2 活性、抗酸化タンパク質発現量、抗サイトカイン類抑制による抗炎症作用及び抗アポトーシス活性の有無など）を解析する。Nrf2 活性の変動などが確認された抽出液試料から分離された Nrf2 活性調節剤を用いて、SARS-CoV-2 感染細胞および HBV 感染細胞における影響を分子レベルで評価し、作用機序の解明及び抗アポトーシス活性シグナル評価を行う。これらの作用機序に基づき明らかにされた Nrf2 活性化調節剤は有用な感染症の予防及び治療効果が期待できる。

令和3-4年度における成果：

平良（沖縄高専）と荻ら（沖縄県工業技術センター）は、1450 検体の生物資源抽出液の中からウコン葉、ヒハツモドキ地上部、テリハボク葉など有望な検体を複数見出している。RAW264.7 細胞にプラスミド pGL 4.37 を用いた Nrf2-ARE シグナル伝達活性評価試験によりヒハツモドキ（*Piper retrofractum*）抽出物が Nrf2 経路を活性化させることを見出し、また分離した piperidine、piperonaline、piperine、E-dehydropiperonaline、Z-dehydropiperonaline の 4 種類が、Nrf2 経路を活性化させ、また抗酸化タンパク HO-1 を発現させる活性物質であることを明らかにした。また分子内の活性部位についても特定した。本研究内容の成果については、**2023 年日本薬学会 143 年会（3 月、札幌）にて発表**する。

鈴木（浜松医科大学）らの HBV 持続感染細胞系および山本（東京大学・医科学研究所）らの SARS-CoV-2 感染細胞系においては、感染に伴う酸化ストレスによる細胞障害による Nrf2 及び HO-1 タンパク質の発現、炎症性サイトカインおよびアポトーシスによる細胞死が進行していることを確認した。B 型肝炎ウイルス感染細胞における酸化ストレス障害と Nrf2 活性化剤における抗ウイルス効果については、**2023 年日本薬学会 143 年会（3 月、札幌）にて発表**する。

令和 5 年度は、今年度得られた知見に基づき、再現性及び詳細な事実を得るための実験を進める。併せて、Nrf2 活性化剤による評価も検討していく予定である。さらに HBV 持続感染細胞及び SARS-CoV-2 感染細胞における Nrf2 活性化剤の Nrf2 活性経路を介する抗ウイルス作用の効果の検証を進める。



研究題目	サンゴの周年産卵の産業化を目指した生殖細胞の増殖・増大制御技術の開発
研究担当者	生物資源工学科 准教授 磯村 尚子
契約相手先	国立大学法人琉球大学 【沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業（委託共同研究）】
研究期間	令和3年8月19日～令和4年2月28日
研究実績： 令和3年度は、実験条件下で飼育されているミドリイシ属サンゴの産卵を遠隔で確認するための準備を中心に行った。実施メンバーである武方（琉球大）により、瀬底実験施設内に自然光が照射するガラスで覆われた実験スペースに以下の3つの水槽を設置し（写真1）、ウスエダミドリイシ（ <i>Acropora tenuis</i> ）を飼育した。 1. 準自然条件：水温調節は無し（ただし、サンゴの生育に不適な28℃を超える場合、28℃まで冷却）。 2. 遅延条件：水温を1か月後の設定水温に調節。 3. 前倒条件：水温を1か月前の設定水温に調節。 これらの水槽に防犯用ウェブカメラ（Planex 製）を設置し、産卵の予兆であるバンドルセッティング（産卵約1時間前までに卵と精子がパッキングされたカプセルが口に上がる現象。これがみられると必ずその日に産卵する）が始まる17:00-19:00の間に5分ごとに静止画を取得した。17:00-18:30までは自然光、それ以降は赤外線に切り替えて撮影するようにセットした。その結果、自然光・赤外線共にサンゴ群体が明瞭に撮影されていた。 各条件に従って産卵が誘発されるならば、4月（前倒条件）、5月（準自然条件）および6月（遅延条件）の3か月にわたって「時期をずらした産卵誘導における正常性を明らかにする」受精実験を行う必要がある。その際に、今回設置したウェブカメラで産卵予兆が確認できれば、今まで人力で行っていた毎晩のサンゴ産卵確認の労力が大幅に減少し、受精実験に集中することができる。加えて、今回の撮影システムが確立されることで、22時以降に産卵する多くのミドリイシ属サンゴや他属サンゴの産卵実験への応用が期待できる。	

研究題目	資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖に関する独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校による研究開発
研究担当者	生物資源工学科 准教授 磯村 尚子
契約相手先	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST） 【研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム】
研究期間	令和2年12月15日～令和4年3月31日
研究実績： サステナブルな魚類の陸上養殖システムの構築に資するため、令和3年度は閉鎖型陸上養殖施設において魚類の養殖により生じる排水が海洋生物（サンゴ等）の成長や生殖にどのような影響を及ぼすのか、実験的な検証のための準備を行った。合わせて、沖縄高専内で本拠点の研究開発に参画が可能なIT系、ものづくり系を中心とした研究者や研究シーズを検討し、現在の研究グループとのマッチングを行うなど具体的な連携の開始に向けた準備を進めた。	

研究課題	沖縄キョウチクトウの毒性によるヒト大腸癌細胞における抗癌作用の解明
研究担当者	生物資源工学科 教授 平良 淳誠
研究費交付機関	一般財団法人沖縄美ら島財団
研究期間	平成30年12月1日～令和3年11月30日

研究実績：

キョウチクトウ科植物は、強心配糖体を含む有毒植物で沖縄県の街路樹にしばしば見られる。本研究では沖縄キョウチクトウ（キョウチクトウ科、*Cerbera manghas*）の毒性成分に着目し、抗腫瘍活性物質の探索を行った。その結果、ヒト大腸癌由来の HCT116 細胞に IC₅₀ 値が 1.01 nM の高い致死作用をもつ強心配糖体 Neriifolin を単離、同定した（図 1）。Neriifolin の致死作用は、カスパーゼカスケードの活性化に伴うアポトーシス誘導によることを明らかにした。また、癌細胞に特異的に発現する Nrf2-ARE シグナル活性を抑制し、転写因子 Nrf2 と抗酸化タンパク質 HO-1 の発現を抑制した。Nrf2 活性は薬物代謝酵素（GST）を発現させるため、大腸癌細胞の薬剤耐性として作用し、抗癌剤の効果を弱めている。Neriifolin 処理した細胞では、大腸癌細胞の薬剤耐性を弱め、さらに抗アポトーシスタンパク質 Bcl-xL 及びその上流の調節因子である Akt の発現抑制によるカスパーゼ（caspase）活性の亢進による作用機序で進行していることを明らかにした（図 2）。

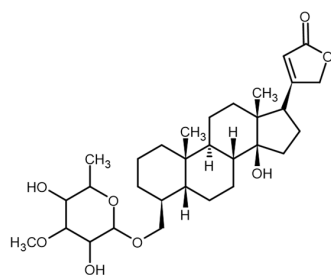


図 1. Neriifolin の化学構造

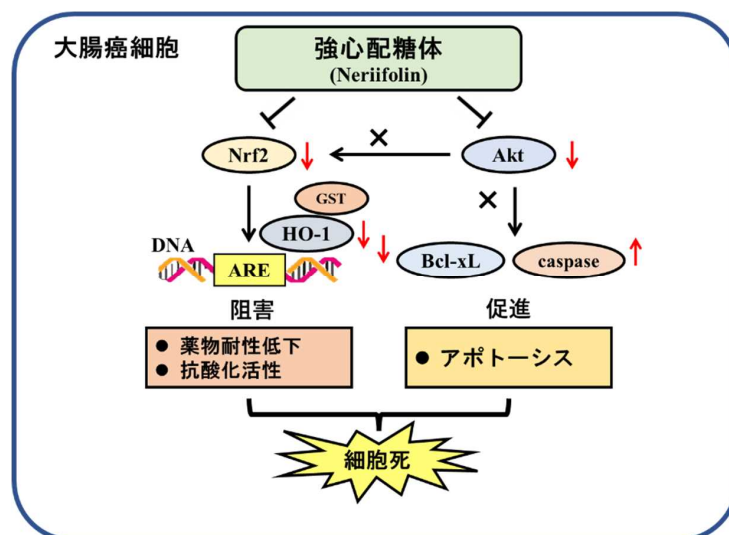


図 2. 強心配糖体の Nrf2/Akt シグナル活性阻害とアポトーシス誘導による大腸癌細胞の致死機序

今後、Neriifolin が癌細胞の Nrf2 を介した糖代謝活性に及ぼす分子メカニズムの解明を、網羅的遺伝子解析とタンパク発現実験により解明していく。また、本抗腫瘍活性物質の類縁体の評価を進め抗癌剤としての可能性を検討していく。

本研究の成果は 2023 年 3 月に開催の日本薬学会第 143 年会（札幌）に発表する予定である。

研究課題	礁池の脆弱性の機構解明と希少・特異なサンゴ群集の検索による、中琉球の裾礁の特性と地域的価値と保全重点地域の再検討による基盤整備の提案
研究担当者	生物資源工学科 准教授 磯村 尚子
研究費交付機関	公益財団法人自然保護助成基金 【第29期（2018年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成】
研究期間	平成30年10月1日～令和3年9月30日
研究実績： 世界のサンゴ礁は度重なるサンゴの白化被害により疲弊が著しく、日本においても例外ではない。被害はサンゴ群集で優占するミドリイシ類に集中し、地理的には琉球列島の南琉球でその被害が顕著で、日本のサンゴ礁の多くを占める裾礁の地形区分では礁池及び礁斜面上部のサンゴ群集に被害が顕著である。 本研究では気候変動に伴い今後被害の拡大が予想される中琉球の裾礁に焦点を当て、衛星画像とドローン撮影による礁池のサンゴ群集の調査と地元ダイビングショップなどの聞き取りから礁斜面や湾内などで白化被害を免れて生存する大規模群落・群体の現地調査を行った。礁池の調査ではミドリイシ類の大規模群落は見出すことができないが、ユビエダハマサンゴやコモンサンゴ類で規模の大きな群落が見出された。これらは白化耐性の強い種であることから、すでに多くを失ったミドリイシ類に代わって今後も礁池内の生物群集の骨格として重要である。また、特定の地域において礁斜面でミドリイシ類の大群落が確認され、礁斜面上部でもハナヤサイサンゴ類で大群落が見られるなど、一定の環境下で白化を免れたサンゴ群集の生存が確認された。 今後はこれらの特定地域から得られたサンゴ種のサンプルから生物学的検討を進めるとともに、その環境特性を検討し、状況に応じた適応的な保護の提言を行う。	

研究課題	昆虫抽出液を用いた高効率完全無細胞タンパク質合成系の構築
研究代表者	生物資源工学科 教授 伊東 昌章
研究種目、課題番号	基盤研究 (C)、19K05176
研究期間	平成31年度～令和3年度
研究実績： 本研究では、試薬キットとして実用化されたが未だマイナーなタンパク質生産技術である昆虫無細胞系の合成効率および利便性の向上を図ることで「創薬研究・ポストゲノム研究に使われる技術」にすることを目的とし、以下の研究を進めた。 1. 最適翻訳促進配列の決定 本研究では、カイコ無細胞系において翻訳促進能を向上させる最適な翻訳促進配列を考察するため、2種類の翻訳促進配列によるタンパク質合成量を比較した。その結果、IGR-IRES 翻訳促進配列による β-galactosidase 合成は殆ど確認されず、MnNPV 翻訳促進では高い合成量が確認された。IGR-IRES 翻訳促進配列は、コード領域上流にあるリボソーム侵入部位を介して翻訳を行うため、高次構造が崩れると翻訳が妨げられるという特徴を持つ[10]。その特異な構造による翻訳開始機構がカイコ無細胞系に不適合であったために β-galactosidase 合成量が低くなったと考えられる。キャップ構造に依存しない翻訳促進配列は mRNA 二次構造の形成が重要であると知られており[11]、MnNPV 翻訳促進配列の二次構造はカイコ無細胞系に適合していると考えられるが、依然として遺伝子の 5'-UTR が翻訳促進能を向上させる詳細な機構の多くは明らかになっておらず、解明は今後の課題である。 2. 完全無細胞タンパク質合成系の構築 PCR 産物のアガロースゲル電気泳動を行った結果、T7 プロモーター、各種 5'-UTR、3'-UTR、ポリ A 配列が付与された β-galactosidase の DNA 分子量に相当する 3 kbp 付近にバンドが確認された。また、図 6 に示されたように、PCR 産物を鋳型 DNA としたカイコ無細胞系による β-galactosidase 合成が、活性測定によって確認された。このことから、設計したプライマーを用いて PCR による鋳型 DNA の作製が正常に行われたと考えられる。mRNA 合成に用いる鋳型 DNA の作製には大腸菌を形質転換させる手法があるが、通常数日かかるものであり、迅速な回収が難しい。PCR を用いた鋳型 DNA の作製によって、大腸菌遺伝子組換え法に係る形質転換および培養の手間を大幅に省き、実験をより簡便かつ迅速に進めることが可能となった。 3. 合成量の向上 次に、合成量向上に向けて、カイコ幼虫後部絹糸腺由来抽出液調製条件の検討を行った。その結果、一般品種の5齢5日のカイコの後部絹糸腺を摘出し、器具を用いて破碎・抽出方法の検討を行い、また、抽出用緩衝液量を最適化することで、β-ガラクトシダーゼの合成を指標とした場合で、100 μg/ml 以上の合成能を有する抽出液の調製方法を確立した。また、その抽出液を用いた RNA 精製の手間を省く Link 法の最適キレート剤濃度を検討した。その結果、EDTA 0.5 mM において最も合成量が高いことが明らかとなった。これらにより、カイコ無細胞タンパク質合成系における合成量の向上に成功した。 以上のことから、本研究を遂行することにより、完全無細胞タンパク質合成系を構築することができ、合成量向上もできたことから当初の目標を達成することができた。	

研究課題	衝撃成形レプリカ標本の「触れる」展示のための表面保護と再現性への影響評価
研究代表者	生物資源工学科 准教授 嶽本 あゆみ
研究種目、課題番号	基礎研究 C、18K01107
研究期間	平成30年度～令和3年度

研究内容：

衝撃成形とは、超音速で伝播する高圧である衝撃波による金属変形の特異性を利用し、金属材料を高速変形により瞬時立体成形する技術である。金属成形だが原型の強度が必要なく、例えば植物の葉を型として葉脈や細胞影までも細密に金属上に立体的に写し取ることができる。成形時の防水処理により原型標本を残すことも可能であり、さらに金属標本雌型を原型として用いると、硬化樹脂等によるレプリカ作成にも適している。本研究では、こうした衝撃成形による立体再現性、保存性、二次加工性を活かし、通常は触れて観察することのできない脆弱な試料を「触れる標本」として展示を可能にする新規レプリカ標本作成技術として活用することを目的とする。衝撃成形標本は、原型実標本とレプリカとの同時展示が可能なこと、レプリカから更に複製できること、レプリカや複製品を二次加工できることから、視覚障害者対応や教育利用など、多様な活用方法が見込まれる。

衝撃成形の原型としてカンヒザクラ（*Cerasus campanulata* (Maxim.) Masam. & S.Suzuki）の葉を用いた。金属板は0.1mm厚の銅板を用い、衝撃波発生源として導爆線を6号電気雷管で起爆し、およそ120MPaの水中衝撃波により衝撃成型を行った。硫化処理には銅板いぶし液（株式会社アーテック製）を用い、硫化処理保護のため耐水性ラッカーを吹付けた。同一の試料中、I.硫化処理なし、II.硫化処理のみ、III.硫化処理後ラッカー吹付をそれぞれ行い、比較用とした。耐久試験として、15分間のハンズオンと手指消毒の検討のため70%エタノール水溶液拭き上げを11セット、15分毎の拭き上げのみ、30秒毎に同エタノール水溶液による手指消毒を実施し、それぞれの面をHSL色空間に変換し、硫化処理の状態を評価した。

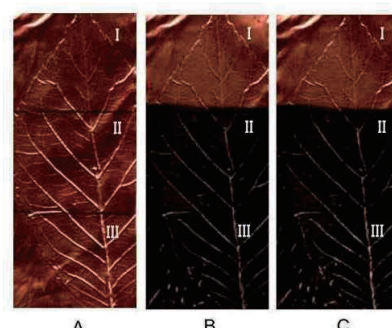


図1 衝撃成形レプリカ標本の硫化処理
A: 硫化処理前 B: II、III域を硫化処理・全体をラッカー吹付け C: ハンズオン165min. III域には30s. 毎の70%エタノール水溶液手指消毒、全体は15min. 毎の同拭き上げ

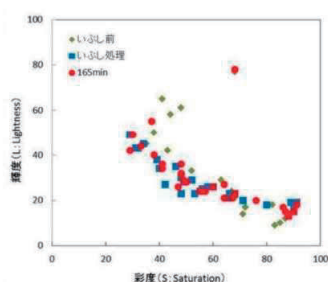


図2 I域の輝度・彩度の分布

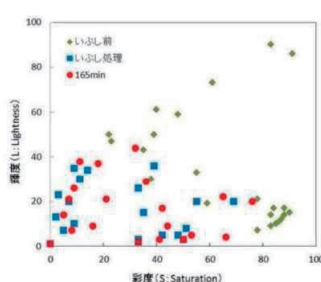


図3 II域の輝度・彩度の分布

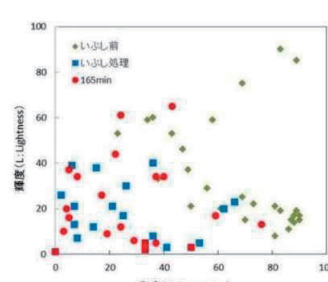


図4 III域の輝度・彩度の分布

研究成果：

硫化処理の評価のため、彩度（S：Saturation）ならびに輝度（L：Lightness）を中心に比較した。硫化（いぶし）前の輝度・彩度の分布はI～III域で傾向が安定しており、ラッカー処理やハンズオンによる影響もほぼ見られない。硫化処理後は15分毎の70%エタノール水溶液による拭き上げの影響はほぼ見られないが、30秒毎の手指消毒は特に輝度の上昇傾向が見られる。色相（H：Hue）いぶし前は350～0度の銅板の色に基づくと考えられる赤にほぼ安定しており、硫化処理後は10%程度、120度前後の補色が確認された。したがって長期間の展示によって緑青発生を伴う場合、120度前後に偏りが生じることが予想される。

今後、衝撃成形による原型の非破壊条件を明確化することで、衝撃成形標本作製する際の原型選択判断材料とし、展示の場での衝撃成形標本活用への一助としたい。

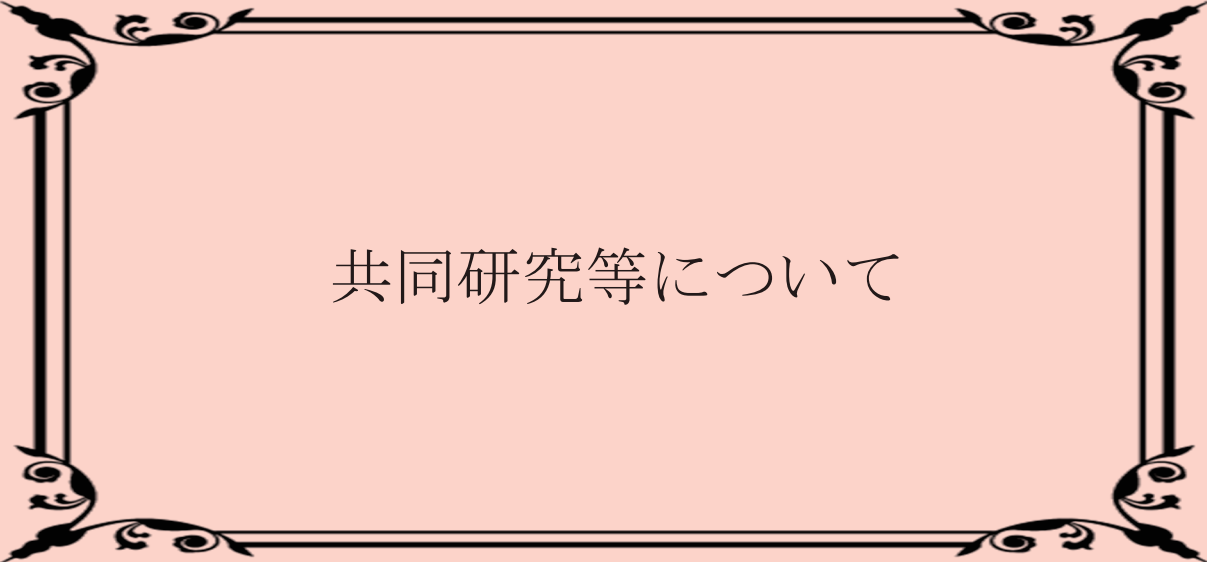
研究者紹介

研究実績紹介

共同研究等について

地域連携研究推進センター
事業報告

産学連携協力会について

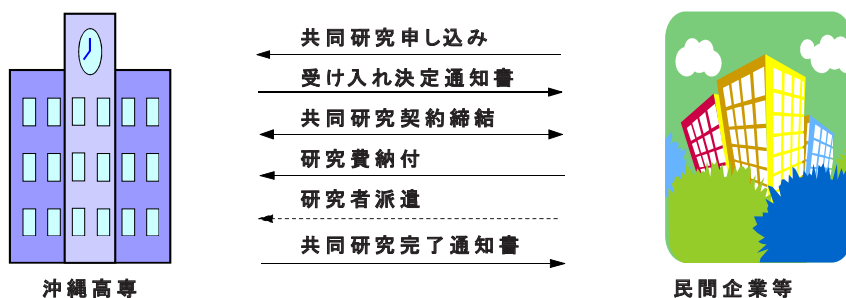


共同研究等について

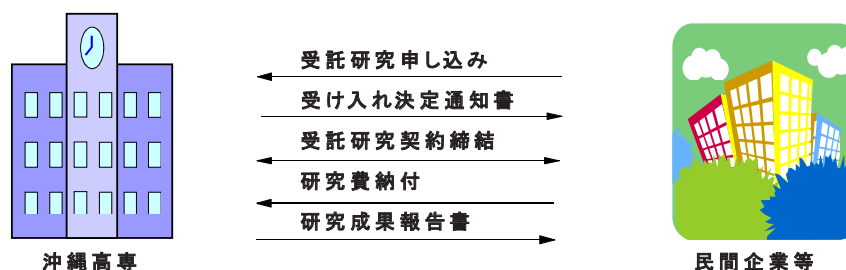
共同研究・受託研究・寄附金・受託試験・技術相談

◎共同研究 民間企業等（地方公共団体、各種特殊法人等を含む）から研究者、研究費を受け入れ高専の当該教員と共同して研究を行うものです。

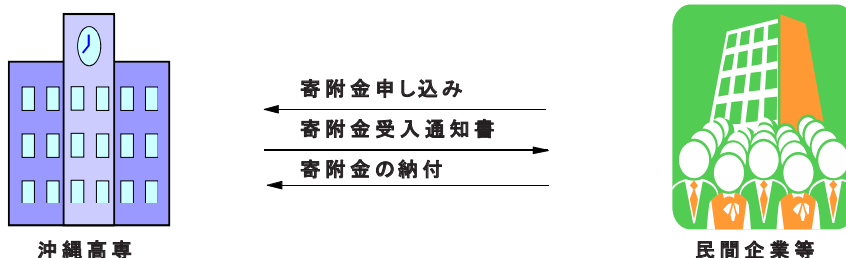
民間等共同研究員を受け入れる場合、研究指導料は6ヶ月につき21万円／1人となります。



◎受託研究 民間企業等（地方公共団体、各種特殊法人等を含む）から委託を受けて行う研究で、これに要する経費は、受託者に負担していただくものです。



◎寄附金 民間企業等や個人の方などから本校の学術研究や教育の充実の奨励、支援を目的として寄附金を受け入れています。この寄附金は、本校の教育・研究の充実、発展に重要な役割を果たしています。なお、寄附金は、法人税法、所得税法による税制上の優遇措置がうけられます。



※共同研究、受託研究、寄附金については、原則、間接経費をいただいておりますのでご了承ください。

◎受託試験 沖縄高専が、企業等からの依頼により試験、分析等を実施し、その結果を報告します。受託試験料については、試験等の内容に応じて料金を頂くことになります。

◎技術相談 地域産業界との連携の一つとして、現場で抱えられている技術的問題等についてのご相談を受け付けております。ご相談は、地域連携研究推進センターにてご相談内容を検討させていただき、ご連絡します。

◆共同研究・受託研究・寄附金・受託試験・技術相談のお問合せ、申込書の提出は下記までよろしくお願いいたします。

お問合せ・申込先
 沖縄工業高等専門学校 総務課 研究連携推進室
 TEL:0980-55-4070 FAX:0980-55-4012
 E-mail: skrenkei@okinawa-ct.ac.jp

詳しくは沖縄工業高等専門学校ホームページ(<https://www.okinawa-ct.ac.jp>)をご覧ください。
 （申込書の様式等をダウンロードできます。）

●外部資金受入件数・金額

(単位：千円)

受入 外部資金名		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究		18	17,042	28	19,892	16	18,096	12	12,048	16	7,203
受託研究		24	166,078	19	50,225	16	49,784	12	29,201	8	18,189
寄附金		25	10,111	21	12,892	23	13,283	13	12,491	8	6,263
受託事業		1	731	2	1,723	1	10,383	1	13,901	2	12,810
研究助成金		7	4,375	4	3,083	6	4,050	11	15,917	4	3,280
科研費	代表 (新規採択課題)	7	12,640	5	5,330	4	3,549	11	16,486	7	17,485
	代表 (継続課題)	10	10,166	8	7,995	8	6,695	6	7,280	15	15,808
	分担 (新規採択課題)	3	1,053	0	0	4	1,430	7	3,991	3	1,235
	分担 (継続課題)	13	13,130	10	9,750	8	8,710	11	10,660	6	9,009

●技術相談受入件数

平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
37	28	26	19	34

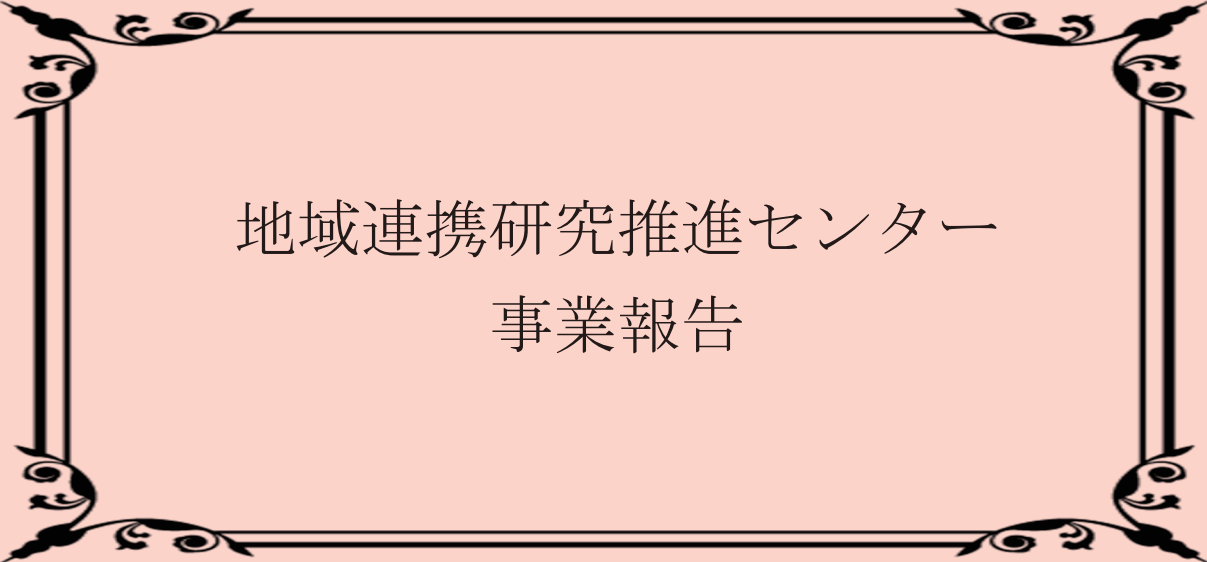
研究者紹介

研究実績紹介

共同研究等について

地域連携研究推進センター
事業報告

産学連携協力会について



地域連携研究推進センター 事業報告

2021 年度地域連携研究推進センター事業報告

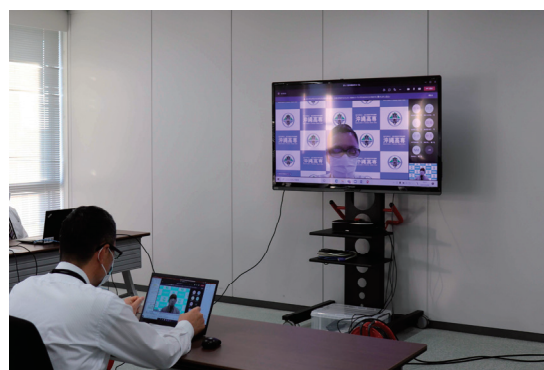
1. 地域社会との連携・交流の推進について

① 第 17 回沖縄高専フォーラム（オンライン）の開催

2021 年 12 月 8 日（水）に第 17 回沖縄高専フォーラムをオンライン開催しました。今回の沖縄高専フォーラムでは『未来を見据えた沖縄高専の次世代人材育成』をテーマとし、社会で求められる D X の重要性や取り組み方や、本校での教育研究活動についての講演を行いました。また、コロナ禍においても学びを止めることなく研究活動を行ってきた専攻科学生による研究発表を行いました。



専攻科学生の研究発表



地域連携研究推進センター長の閉会挨拶

※講演の動画は「第 17 回沖縄高専フォーラムポータルサイト」（外部サイト）より視聴することができます。

URL : <https://www.fushigiame.jp/okinawakousen/>

QR コード :

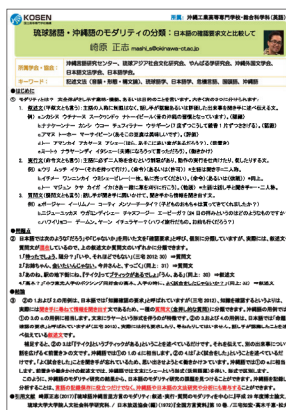


② 第 45 回沖縄の産業まつりへの参加

開催日 : 2021 年 10 月 23 日（土）～24 日（日）

場 所 : ポータルサイト・オンライン開催、県内各会場

内 容 : 学校紹介、研究シーズ、研究成果をポータルサイトに掲載



ポータルサイトで紹介した研究成果

③ 第7回海洋ロボットコンペティションの開催

開催日：2021年11月6日（土）、7日（日）

場 所：宜野湾マリン支援センター、宜野湾新漁港

内 容：海洋産業シンポジウムの開催。

県内外大学、職業能力大学校等の学生が開発した海洋ロボットを、
プレゼンテーションおよび実機競技（運動性能・技術性等）により評価。



全国から10校の大学等、17台のロボットが参加

④ 技術相談会の実施

本校では、企業等における技術的な課題を解決するため、本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用した技術相談会を実施しています。相談者に対する技術的な課題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っており、相談者と本校の共同研究に発展するものや、相談者が抱える課題を本校で実施する授業等のテーマとして取り上げ、学生が課題解決に取り組むものもあります。

定期の技術相談会として、原則毎月第3木曜日の午後、沖縄県工業連合会（沖縄産業支援センター6階）において、2社を対象として個別に開催しています。また、相談申込者の希望日に合わせた、随時の技術相談会も受け付けています。

これまで、多数の皆様が技術相談会にご参加いただき、相談者と本校教職員との間で活発な意見交換がなされました。相談者が抱える様々な技術課題に関して、連携により課題が解決されるよう取り組んでおりますので、ぜひ技術相談会をご利用ください。



本校での技術相談



企業を訪問しての技術相談

2. 沖縄工業高等専門学校産学連携協力会との連携について

① 2021 年度沖縄工業高等専門学校産学連携協力会理事会・総会

【理事会】開催日：2021 年 4 月 15 日（木） 場所：ロワジールホテル那覇

【総 会】開催期間：2021 年 4 月 26 日（月）～5 月 14 日（金） ※書面決議



理事会の様子



進行を行う古波津昇会長

② 沖縄工業高等専門学校業界研究会（オンライン開催）への参加

開催日：2021 年 11 月 30 日（火）、12 月 1 日（水）

対象：本校 4 年次学生（他学年次は希望者のみ参加）

参加企業数：113 社（内、産学連携協力会員企業 23 社）

本校主催の業界研究会に産学連携協力会員企業が参加しました。今回で 3 度目の開催となりましたが、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、両日とも Teams を利用したオンライン開催となりました。参加した会員企業より、各業界や会社概要等の説明が行われ、学生の職業意識の高揚に資すると共に本会の理解促進を図る良い機会となりました。

業界研究会に参加した産学連携協力会員企業：

- | | | |
|-------------------------|-------------------|-------------|
| ・琉球セメント株式会社 | ・株式会社りゅうせき | ・株式会社阪技 |
| ・琉球放送株式会社 | ・大同火災海上保険株式会社 | ・株式会社沖縄銀行 |
| ・沖縄電力株式会社 | ・株式会社国際システム | ・株式会社 RKKCS |
| ・株式会社琉球銀行 | ・沖縄セルラー電話株式会社 | ・I-PEX 株式会社 |
| ・日東電工株式会社 | ・株式会社沖縄環境保全研究所 | ・株式会社リウコム |
| ・株式会社ヴィッツ沖縄 | ・沖縄通信ネットワーク株式会社 | ・オキコ株式会社 |
| ・BBSakura Networks 株式会社 | ・株式会社アクセルエンターメディア | |
| ・富士通クラウドテクノロジーズ株式会社 | ・金秀グループ | ・拓南グループ |

③ KOSEN EXPO への参加

2021 年 10 月 20 日（水）、21 日（木）にオンライン開催された国立高等専門学校機構主催「KOSEN EXPO」に、本校教員が発表参加し、産学連携協力会員企業 5 社が展示参加しました。

本イベントは「研究・教育の成果の社会実装を目指す高専」と「高専の技術・アイデアを活用した課題解決を目指す企業等」との連携（マッチング）を目的としたものであり、特設ホームページにて約 7,600 名（約 3,600 名は高専生）が聴講しました。展示参加した企業は、事業内容や高専と一緒に取り組みたいこと、高専生へのメッセージ等を全国の聴講者に向けて情報発信しました。

KOSEN EXPO に参加した産学連携協力会員企業：

- ・BBSakura Networks 株式会社
- ・株式会社ヴィッツ沖縄
- ・株式会社ベアック沖縄
- ・株式会社 RKKCS
- ・I-PEX 株式会社

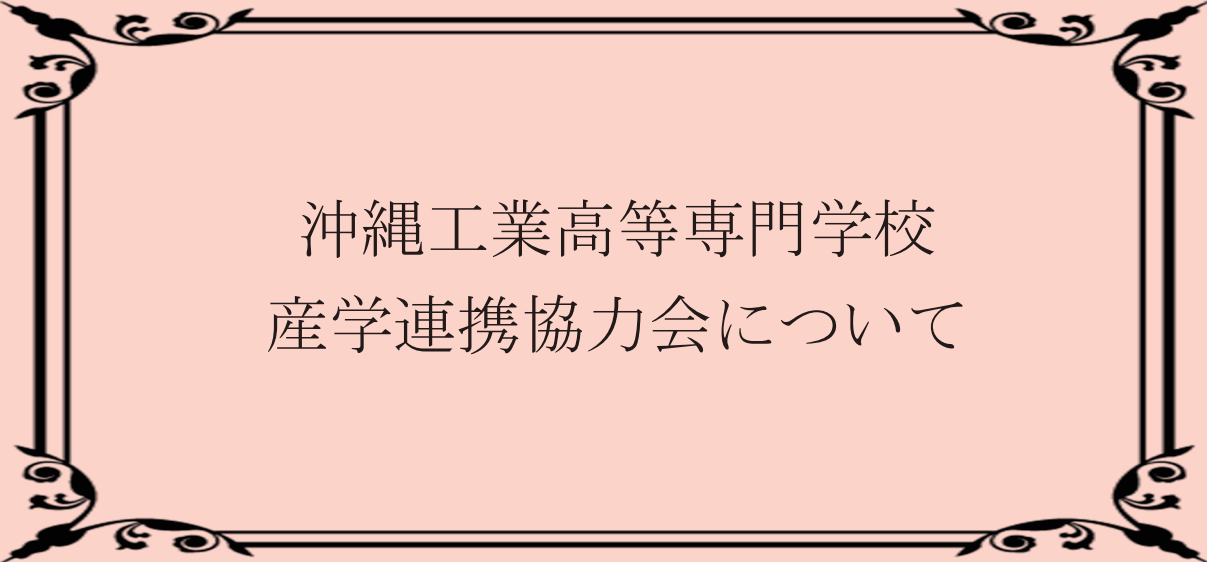


3. 研究成果の公表について

「地域連携研究推進センター報 2021」を発行し、本校教職員の研究シーズおよび研究成果の公表を行い、共同研究等の受け入れに努めました。



研究シーズを掲載



沖縄工業高等専門学校 産学連携協力会について

● 沖縄工業高等専門学校産学連携協力会について

沖縄県内の経済・産業界を中心に、本校の教育・研究活動を側面より支援するとともに、本県産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」を設置しています。令和5年2月1現在、県内外の115の企業、団体会員及び24の個人会員で組織しています。

● 2021年度産学連携協力会活動実績

・ 沖縄高専フォーラムの共催

本校の教育研究活動に携わる関係者に、本校の取り組みを紹介するとともに、本校教職員、学生の日頃の研究成果を発表する沖縄高専フォーラムを本校と共同で開催しました。

・ 業界研究会への参加

企業による業界、会社概要等の説明を通して、本校学生の職業意識の高揚に資するとともに、各業界、企業の理解促進を図ることを目的とした本校主催の業界研究会に会員企業23社が参加しました。

・ 教育研究活動に対する経済的支援

- ① 地域連携研究推進センター報発行費の支援
- ② 沖縄の産業まつり出展費の支援
- ③ 学生課外活動（ロボコン）製作費の支援

・ 公益社団法人沖縄県工業連合会発行「工連ニュース」での広報活動

月1回発行の「工連ニュース」に、本校の教育研究活動の成果やイベント情報を寄稿しました。

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会会員名簿									
企業団体会員（順不同）									
(公社)沖縄県工業連合会	沖縄県工業連合会	(一社)沖縄県経営者協会	沖縄県商工会連合会	沖縄県中小企業団体中央会	沖縄県農林漁業協同組合中央会	(一社)沖縄県建設業協同組合	(一社)沖縄県土木建築業協会	沖縄経済同友会	
琉球商工会議所	沖縄商工会議所	名護市商工会	(公社)沖縄県建設業協会	昭和化学工業(株)	辺野古区事務所	豊原区事務所	久志区公民館	(株)久米島の久米仙	
(株)沖縄ホーム	オリオンビル(株)	沖縄ハム総合食品(株)	オキコ(株)	琉球コンクリート(株)	金秀バイオ(株)	沖縄建設工業(株)	(株)沖食商事名護支店	(株)ファッショントナリ	
(株)ぬちまーす	沖縄明治乳業(株)	(株)なかむら食品	総合紙器(株)	(株)東開発	沖縄電力(株)	沖縄電機ビルシステム(株)	(株)リウコム	(株)崎浜商店	
昭和製紙(株)	日乃出鉄工(株)	(株)ホクガン	拓南製鐵(株)	(株)仲儀造園土木	金秀アルミ工業(株)	丸正印刷(株)	相模工業(株)	(株)りゅうせき	
(株)オカノ	ANAシステムサービス	琉球セメント(株)	琉球コンクリート工業(株)	沖縄セルラー電話(株)	沖縄テクノクリート(株)	(株)OCC	琉球デジタルシステム(株)	(株)技建	
(株)仲木工業	(株)国際システム	琉球放送(株)	(株)光エンジニア	(株)沖縄銀行	沖縄水質改良(株)	琉球ソリューション	(株)国際印刷	(株)屋部土建	
(株)琉球建設	(株)沖縄建設安全研究所	(有)盛光産業	(株)ベアック沖縄	(株)琉球ネットワーク	(株)共立創建	(株)北部観光バス	(株)開邦工業		
(株)レキサス	新中産産(株)	(株)トマス技術研究所	(株)琉球銀行	沖縄県酒造組合	沖縄東京計装(株)	(株)山浩商事	(株)大成	琉球ハイテクビジネス	
大同火災海上保険(株)	(株)沖縄産業センター	日トラフレーション(株)	琉球建設安全研究所	拓南製作所(株)	沖縄ツーリスト(株)	(株)沖縄電子	コザ信用金庫	MRO Japan(株)	
北洋ビル管理(株)	(一社)沖縄県農業安全会	(株)阪技	琉球コンクリート工業(株)	(株)沖縄海洋工場開発	琉球コンクリート工業(株)	(株)スチールパイプ	琉球インフラティブル	金日本建設(株)中城支店	
沖縄パナソニック(株)	ゆがふ製糖(株)	(株)太陽機械製作所	沖縄県建設安全研究所	日産電工(株)産業事業部	(株)RKKCS	琉球ファームワークス(株)	(株)アイセル沖縄	琉球エスエスエス(株)	
伊藤忠製糖(株)	I-PEX(株)沖縄オフィス	(株)アークエンタープライズ	(株)ヴィッツ沖縄	(株)SKAN JAPAN	BBSakura Networks(株)				
個人会員（順不同）									
仲里 郁夫	奥原 崇彦	池 泰夫	松本 幸治	津波 克守	宮城 恒雄	新城 博	柳原 隆行	野原 茂	上間 雅之
伊東 昌章	仲地 善則	富田 和宏	安藤 安則	糸洲 佑紀	今村 文昭	出口 学	比嘉 信		
伊藤 静雄	師崎 隆								

※本校メディア棟1階に産学連携協力会会員名簿のプレートを設置しています

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員 (順不同)

令和5年2月1日現在

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
公益社団法人沖縄県工業連合会	那覇市小祿1831-1 沖縄産業支援センター607	経済団体 (工業の育成及び振興)
沖縄県商工会議所連合会	那覇市久茂地1丁目7番1号 琉球リース総合ビル6階 (那覇商工会議所内)	経済団体
一般社団法人沖縄県経営者協会	那覇市小祿1831-1 沖縄産業支援センター601	経済団体
沖縄県商工会連合会	那覇市小祿1831-1 沖縄産業支援センター604	経済団体、商工業育成、地域活性化に関する事業
沖縄県中小企業団体中央会	那覇市字上之屋303番地8	経済団体 (中小企業の組合の設立・運営・指導)
沖縄県農業協同組合中央会	那覇市壺川2-9-1 JA会館8階	農業団体
一般社団法人沖縄県建設産業団体連合会	浦添市牧港五丁目6番8号 沖縄県建設会館2階	経済団体 (建設産業の振興)
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	那覇市小祿1831-1 沖縄産業支援センター2階	調査研究事業、誘客宣伝事業、受入対策事業、情報提供・人材育成事業、イベント推進事業、コンベンション振興事業 他
沖縄経済同友会	那覇市久茂地3-15-9 アルテビル那覇2F	経済団体 (任意団体)、個人参加の経済人の集まりで、産業・経済に関する、研究・提言活動及び会員親交倶楽部
沖縄県情報通信関連産業団体連合会	中頭郡西原町千原1番地 琉球大学地域創世総合研究棟3階304号室	経済団体、国・県への要請活動、IT業界の交流活動 他
沖縄商工会議所	沖縄市中央4-15-20	地域中小企業の育成及び商工業の振興
名護市商工会	名護市大中1-19-24 1F	小規模事業者支援
一般社団法人沖縄県情報産業協会	中頭郡西原町千原1番地 琉球大学地域創世総合研究棟3階304号室	情報通信団体 (人材育成・セミナー等の開催)
名護市辺野古区事務所	名護市字辺野古913-10	辺野古区の発展向上及び区民の福利厚生に寄与する
名護市豊原区事務所	名護市豊原221	豊原区の発展向上及び区民の福利厚生に寄与する
名護市久志区事務所	名護市字久志200	久志区の発展向上及び区民の福利厚生に寄与する
株式会社久米島の久米仙	浦添市港川2-3-3	泡盛製造販売、もろみ酢製造販売
株式会社沖縄ホームページ	中城村字当間758	総合食肉加工・販売業

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
オリオンビール株式会社	豊見城市字豊崎1-411（トミトン内）	ビール等の製造販売、清涼飲料水の販売（健康茶など）
沖縄ハム総合食品株式会社	読谷村字座喜味2822番地の3	食品製造販売業
オキコ株式会社	西原町字幸地371	パン・和洋食・麺・サンドイッチ製造販売、干菓子・食品、ドリンク類の仕入販売
金秀バイオ株式会社	糸満市西崎町5-2-2	アガリスク、ウコン、フコイダンを主とした健康食品の製造販売
株式会社なかむら食品	南城市知念山里926番地	沖縄豆腐製造販売
沖縄県酒造組合	那覇市港町2-8-9	泡盛製造業団体組合
株式会社沖食商事 名護支店	沖縄県名護市大中5丁目3-3	米穀卸売業、米穀類、おこめ券、食用油、大豆等の販売
沖縄明治乳業株式会社	浦添市牧港1-65-1	製造業、牛乳、乳製品の製造、販売
株式会社ぬちまーす	うるま市与那城宮城2768	製造業 観光製塩工場
昭和製紙株式会社	うるま市字田場708-1	総合家庭紙製品の製造販売
総合紙器株式会社	糸満市西崎町4丁目9番地	段ボール製造業
昭和化学工業株式会社	うるま市字昆布1455	苛性ソーダ、合成塩酸、その他製造
沖縄電力株式会社	浦添市牧港5丁目2番1号	電気事業
株式会社りゅうせき	浦添市西洲2-2-3	石油類及び液化石油ガスの卸・直売 他
株式会社オカノ	那覇市安謝1-23-8	各種高圧ガス販売・設備、防・消化設備工事及び保安点検、自動車発電器整備、医療施設、LPG設備の設計施工保守点検 他
拓南製鐵株式会社	沖縄市海邦町3番26	鉄鋼業、建設資材（各種異形棒鋼）製造・販売
拓南製作所株式会社	中城村字伊舎堂354-4	鉄骨工事及び機械器具の製作並びに取付工事に関する業務、各種鉄線の製造及び販売、各種鋼管の製造及び販売、溶融亜鉛鍍金加工
沖縄鋳鉄工業株式会社	西原町字小那覇958	鋳物製品の製造販売（上下水道用鉄蓋）

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体会員	住所	業種及び事業内容
日乃出鉄工株式会社	西原町字小那覇901	建設業、機械器具設置
琉球セメント株式会社	浦添市西洲2-2-2	セメント及びセメント製品の製造販売、石灰石の採掘販売、住宅不動産販売、食品開発（豆腐蓉の製造）
株式会社技建	南城市大里字古堅1206番地3	生コン、コンクリート二次製品全般製造販売
沖縄県生コンクリート工業組合	那覇市港町2-14-1	生コンクリート製造業に関する指導及び教育
沖縄県生コンクリート協同組合	那覇市港町2-14-1	生コンクリート共同販売
沖縄テックノクリート株式会社	那覇市安謝620番地	コンクリート二次製品製造販売
株式会社屋部土建	名護市港2-6-5 3F	土木一式、建築一式
株式会社仲本工業	沖縄市美里6-5-1	建築・土木・鋼構造物を主体とする総合建設業
株式会社開邦工業	沖縄市中央3丁目21番5号 203	ごみ処理施設、清掃施設、運転維持管理、土木、管工事等
株式会社東開発	名護市宇茂佐1703番地33	総業建設業
沖縄水質改良株式会社	沖縄県那覇市首里石嶺町3丁目8番地1	空調、衛生、浄化槽工事、水処理装置、浄化槽保守点検業務
沖縄菱電ビルシステム株式会社	那覇市久茂地1-3-1 久茂地セントラルビル4F	機械器具設置工事、各種ビル設備、警備保安等ビル総合管理、運営及びコンサルティング
株式会社光エンジニア	那覇市宇識名1279	厨房、施工、販売、修理
株式会社仲嶺造園土木	名護市辺野古913-1	建設業、造園土木工事、ビルメンテナンス
丸正印刷株式会社	西原町小那覇1215	総業印刷業
株式会社ベアック沖縄	うるま市勝連南風原5193-50	工作機械の設計、制作
医療法人琉心会 勝山病院	名護市屋部468-1	医療・介護保険サービス、病院・介護老人保健施設
OTNet株式会社	那覇市松山一丁目2番1号 沖縄セルラービル	電気通信事業法に基づく第一種電気通信事業

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
株式会社オアシシー	浦添市沢岬2丁目17番1号	情報処理サービス業、OA機器用品販売、コンピュータシステム販売、コンピュータ保守・修理、インターネットソリューション、ネットワークソリューション
株式会社リウコム	那覇市久茂地1-7-1 11F	情報処理サービス業、アウトソーシング事業、システムコンサルティング、インターネット関連事業
株式会社国際システム	那覇市壺川3-2-4 拓南ビル1F	情報処理サービス業、システム開発、システム保守、機器販売 他
クオリサイトテクノロジーズ株式会社	名護市豊原195-3 みらい2号館	情報通信産業、システム開発、データセンター事業
株式会社レキサス	うるま市字州崎14-17 IT津梁パーク内	オリジナルインターネット、アプリケーションの開発、販売、インターネットサービス運用管理業務
沖縄セルラー電話株式会社	那覇市松山1丁目2番1号 沖縄セルラービル8F	電気通信事業（携帯電話サービスの提供）
株式会社沖縄環境保全研究所	うるま市洲崎7-11	計量証明事業、環境アセスメント、環境計測、作業環境、各種測定分析 他
琉球放送株式会社	那覇市久茂地2-3-1	テレビ、ラジオ放送
株式会社琉球銀行	那覇市久茂地1-11-1	金融サービス業
株式会社沖縄銀行	那覇市久茂地3-10-1	金融サービス業
大同火災海上保険株式会社	那覇市久茂地1-12-1	自動車保険、火災保険、傷害保険、海上保険、その他、損害保険全般
沖縄ツーリスト株式会社	那覇市松尾1-2-3	旅行業、レンタカー業
沖縄XXエアカーゴサービス株式会社	豊見城市字与根491-2 2階	送業、航空貨物運送、宅配便、引越 他
新中糖産業株式会社	西原町字小那覇628番地1	不動産賃貸業 他
沖縄県医療廃棄物事業協同組合	沖縄市字登川3410-1	産業廃棄物処理、医療廃棄物を中心に産業廃棄物の中間処理（焼却・中和）とフロンの破壊処理、適正処理指導
株式会社沖縄産業振興センター	那覇市小禄1831-1	沖縄産業支援センターの建設及び管理・運営に関する事業、会議室、研修室等施設の貸借に関する事業、情報提供サービスに関すること
北沖縄ビル管理株式会社	名護市港2-3-1	ビルメンテナンス業
株式会社沖縄電子	宜野湾市大山3-3-9	卸・小売、コンピュータ・電子部品販売

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
株式会社北部観光バス	名護市宇茂佐1533番地	旅客自動車運送
沖縄パナソニック特機株式会社	那覇市西2-15-1	機器の販売並び設計、積算、施工、施工管理、アフターサービス、保守メンテナンス
株式会社環境ソリユーション	沖縄市宇登川3320-1	産業廃棄物処理業
一般財団法人沖縄電気保安協会	那覇市西3-8-21	一般用電気工作物の調査及び自家用電気設備の保安管理業務、並びに電気の使用安全に関する啓蒙、周知
株式会社ゆがふホールディングス	名護市港2丁目6番5号	宿泊、宴会、ブライダル
株式会社ロワジュール・ホテルズ沖縄	那覇市西3-2-1	ホテル・サービス業
株式会社国際印刷	那覇市宮城1丁目13番9号	普通印刷（軽印刷、お不設置、活版印刷）、頁物、小冊子等、カラーポスター、チラシ、伝票等
株式会社山浩商事	名護市城2丁目1番21号	ガス販売、石油販売、飲食店、ECO事業、保険関係
ゆがふ製糖株式会社	うるま市宇川田330番地の1	製糖業
沖縄コカ・コーラボトリング株式会社	浦添市伊祖5-14-1	清涼飲料水製造・販売
全日本空輸株式会社沖縄支店	那覇市久茂地1-7-1 琉球リース総合ビル5F 南城市大里字大城538番地の8	定期航空運送事業、不定期航空運送事業、航空機使用事業、その他附帯事業
株式会社大成		電気製品製造
株式会社カヌチャバイリゾート	名護市宇安部156番地2	ホテル業・ゴルフ場運営・リゾート開発・不動産販売・料理飲食業・レジャー業・その他付帯事業
コザ信用金庫	沖縄市上地12-10-1	金融サービス業
琉球インターネットクラブ株式会社	宜野湾市大山3丁目11-32	インターネットサービス事業、次世代人材育成事業、戦略投資事業
株式会社崎浜商店	名護市大南4-11-13	食品酒類卸売業
株式会社RKKCS	熊本市西区春日3丁目15番60号 JR熊本白川ビル11F	情報サービス（ソフトウェア開発）
平成ファームワークス株式会社	大阪市北区西天満3丁目1番6号 辰野西天満ビル3階	システム開発

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
株式会社イエラエセキユリテイ	東京都千代田区神田司町2-7-2 ミレーネ神田PREX2F	サイバーセキュリティ、脆弱性診断
株式会社沖縄海洋工機開発	豊見城市真玉橋146番地 コモドハウスK102号	水中通信機器及び関連する機器の研究・開発、製造・販売 情報処理サービス
株式会社トマス技術研究所	うるま市勝連南風原5192-42	超低公害焼却炉チリメーサーシリーズの開発、及び製造・販売
沖縄振興開発金融公庫	那覇市おもろまち1丁目2番26号	政策金融機関
日東電工株式会社	大阪府茨木市下穂積1丁目1番2号	高分子合成技術をベースに、エレクトロニクスからライフサイエンスまで 様々な業界に約13,500種の製品を提供する総合部材メーカー
MRO Japan株式会社	那覇市字大嶺260番地	航空機の整備、修理および改造
沖縄東京計装株式会社	うるま市州崎12-58	各種流量計測機器製造
伊藤忠製糖株式会社	愛知県碧南市玉津浦町3番地	砂糖及び糖類の製造販売
株式会社アイセル沖縄	沖縄県うるま市勝連南風原5192番地5	産業機械用精密部品の製造
日本トランスオーション航空株式会社	那覇市泉崎1-20-1 カフーナ旭橋A街区 3階	定期及び不定期航空運送事業、航空機整備事業、その他の事業
株式会社阪技	兵庫県高砂市荒井町東本町19-23	原動機（タービン）設計、発電プラントの計画、3D設計・開発、生産技術、 品質管理、システム開発、複写
株式会社太陽機械製作所	大阪府枚方市春日野1-11-27	精密産業用機械 設計・製作
ANAスカイビルサービス株式会社	東京都大田区羽田空港3丁目5番10号	総合ビルメンテナンス業
I-PEX株式会社 沖縄オフィス	豊見城市豊崎3-59 トヨプラ3F	コネクタ及びエレクトロニクス機構部品事業、自動車電装・関連部品事業、 半導体設備及びその他の事業
株式会社アクセルエンターメディア	那覇市松山2-1-12 合人社那覇ビル6階	iDCソリューションの提供、クラウドインテグレーションの提供、Webシステ ム開発業務/システム保守業務
株式会社ヴィッツ沖縄	那覇市銘苅2丁目3-1 メカルヨンゴ（なは産業支援センター）412	・組込ソフトウェア開発、検証業務 ・HMI開発、検証業務 ・組込セキュ リティ検証業務 ・研究事業
株式会社SKAN JAPAN	うるま市勝連南風原5194-61	アイソレータ製造・販売
BBSakura Networks株式会社	東京都新宿区西新宿7丁目20-1	ソフトウェア開発・電気通信事業

●沖縄工業高等専門学校産学連携協力会 企業・団体会員（順不同）

企業・団体名	住所	業種及び事業内容
有限会社海邦ベンダー工業	沖縄県糸満市西崎町5-14-9	ステンレス建具（鏡面・HL・その他仕上）フロント・ドア・FIX枠、スチール金物等の製造、建物のリニューアル
上代工業株式会社	神奈川県川崎市高津区下野毛1-11-23	2次元・3次元レーザー加工、製缶板金、機械加工
さくらインターネット株式会社	東京都新宿区西新宿7-20-1 住友不動産西新宿ビル 32F	クラウドコンピューティングサービス等の提供
株式会社ダイハツビジネスサポートセンター	大阪府池田市満寿美町2-25	サービス業（自動車開発・生産サポートサービス 他）
SCSKニアシオシステムズ株式会社	東京都江東区豊洲三丁目2番24号	ソフトウェア開発（ソフトウェアの設計・製造）
ゼニヤ海洋サービス株式会社	大阪府池田市豊島南2-176-1	建設工事・設備業（浮桟橋、網場等フロロエーティングシステムの企画・立案から設計・施工・メンテナンスまでの一貫業務）
アスカコーポレーション株式会社	福岡県直方市大字下境字秦田427-8	製造業（金属表面処理、リードフレーム・ウエハ・半導体部品へのめっき加工）



位置及び交通機関

県内から

【路線バスの場合】

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| (系統番号 77)
「那覇バスターミナル」乗車 | (系統番号 22)
「中部病院」乗車 |
| ↓ | ↓ |
| 「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分 | 「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分 |

バス路線の経路地詳細は、
<https://okinawabus.com/> を参照願います

【自動車の場合】

沖縄自動車道「宜野座 I.C.」を出て国道 329 号を
北に約 10km 左側。
(国道上の歩道橋が目印です。)

県外から

【空港からの所要時間：約 2 時間】

●那覇 (なは) 空港国内線ターミナル到着
2 番バス停から下記①または②のいずれか

- | | |
|--|--|
| ① (系統番号 111)
「名護 (なご) バスターミナル」
行きに乗車 | ② (系統番号 117)
「オリオンモトブリゾート」
行きに乗車 |
| ↓ | ↓ |
| 「宜野座 I.C.」下車
(ぎのざインターチェンジ) | 「世富慶 (よふけ)」下車 |
| ↓ ※徒歩 | ↓ ※徒歩 |
| (系統番号 77)
「中央公民館前」乗車 | 歩道橋を渡り道路反対側より
(系統番号 77)
「世富慶」乗車 |
| ↓ | ↓ |
| 「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分 | 「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分 |



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

技術相談、共同研究等に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905 番地
総務課研究連携推進室
TEL : 0980-55-4070 FAX : 0980-55-4012
E-mail : skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
公式 HP : <https://www.okinawa-ct.ac.jp>

※本誌は沖縄工業高等専門学校産学連携協力会の支援を受けて発行しています。